補正

日本産業組合詳說

第三版

農學士 有働良夫著

大日本農會

251
562

農學士有働良夫著

補正日本産業組合詳說

大日本農會

第三版

明治
39 9 1
内交

補正版三日本

産業組合詳說序

古昔政治ノ道未タ開ケス盜賊横行弱肉强食ノ時代ニ在テハ隣保相結ヒ相救フノ風多ク行ハル是レ自衛ノ爲メ必要ナリシ也今ヤ制度文物燦然トシテ强豪者モ鄕黨ニ跋扈シテ貧弱者ヲ侵蝕スルコト能ハズ於是乎隣保相結ヒ相救フノ必要ハ大半消滅セリト雖モ生存競爭ノ激烈ナルハ古來未タ今日ヨリ甚シキハ莫ク而シテ其窮極スル所亦知ル可カラズ故ニ豪者益々豪ニ弱者益々窮ス是レ固ヨリ暴力相侵スノ比ニハアラスト雖モ而モ弱肉强食ノ世ト理ニ於テ相異ナルコト無シ自ノ爲メ共同團結ノ必要ナル衛モ亦豈古ニ讓ランヤ唯古今其情勢ヲ異ニス故ニ自衛ノ道亦大ニ異ナルモノアルノミ古ニ在テハ劍戟干戈ハ其要具タリ今ニ在テハ所謂産業組合ノ如キ蓋シ

其最モ必要ナル組織タリ我國産業組合ノ制度タル事新定ニ屬シ世間未タ普ク其利ヲ覺ラス其利ヲ覺ルモ其理ニ通スルニ至ラス其利ヲ覺ラス故ニ其成立容易ナラス其理ニ通セス故ニ其收功多大ナラス是レ識者ノ大ニ力ヲ致スヘキノ事ナリ有働農學士夙ニ此ニ視ルアリ曾テ一書ヲ著ハシ名ケテ産業組合詳說ト云フ其書專ラ實行ニ便スルヲ旨トシ理想的議論ノ如キハ姑ク之ヲ爲サスシテ法意ヲ詳說スルニ平易ノ語辭ヲ用ヒ傍ラ表式例文ヲ示シ細民小工多ク文字ニ通セサル者猶之ヲ解スルヲ得セシム實ニ親切有益ノ著ト謂フヘシ想フニ世人之ニ依テ其利ヲ覺リ其理ニ通シ以テ其精神ヲ發輝シ一村ヲ昌ニシ一市ヲ盛ニシ延キテ國富ニ資スルニ至ル者寡ナカラサルヘシ而シテ著者已成ニ饜カス益々研鑽孜窮シテ措カス今ヤ其三版ノ刊行ヲ見ルニ至リ余ハ其書ノ世ニ裨益スルヲ喜フト同時ニ著者ノ其職ニ其學ニ忠實ナルニ感シ聊一言ヲ卷首ニ辯ス

明治三十九年七月

松岡康毅

補正版三日本

産業組合詳説序

文化開明ノ昭代ニ逢ヒテ獨リ不幸ノ域ニ背進スル者ハ小産業者タリ然ルニ國家ノ元氣ハ實ニ此ノ種ノ國民ニ依リテ積累蘊蓄セラルルモノナルヲ憶ハヽ豈心力ヲ其ノ培養ニ竭サスシテ可ナランヤ明治三十三年法律第三十四號産業組合法ハ寔ニ經國ノ美法ニシテ事ニ組合經營ニ從ヒ年ヲ層ヌルコト愈久シケレハ本法ノ妙味ヲ感スルコト亦益深キヲ知ル唯タ本法實施以來年所未タ久シキヲ經ス從テ之レカ運用ノ妙所ニ到ル捷徑ナキヲ遺憾トスルノミ

有働良夫君玆ニ見ル所アリ君カ該博ノ學識ヲ以テ細カニ本法ノ眞髓ヲ說キ詳カニ實地應用ノ順序方法ヲ述ヘ題シテ日本産業組合詳說ト云フ是レ實ニ産業組合ニ從事スル者ノ磁針儀ニシテ依テ以テ

前途將ニ勃興セントスル一萬四千餘箇町村組合團體ノ行路ヲ愆マルコトナキヲ得ン余ヤ信用組合經營ニ從事シテ自ラ錙銖ノ利ヲ算シ釐毫ノ微ヲ記シ聊國家富源ノ開發ニ努メ以テ涓埃ノ報効ヲ謀ランコトヲ冀フ者奈加ソ君ノ好著ノ我徒ニ嘉惠スルコトノ大ナルヲ感謝セサルヘケンヤ玆ニ本書ノ第三版ヲ印刷セラル、ニ方リ序ヲ余ニ徵ム乃チ微意ヲ書シテ以テ之カ序ト作ス

明治三十九年七月

子爵　加納久宜

補正版二日本

産業組合詳說序

適者存シ不適者亡フルハ世ノ通理ニシテ而シテ適不適ノ別ハ初ヨリ之アルニアラス只機ニ投スルト否トニ在ルノミ夫機ハ氣運ノ變化ニシテ近ニ動キ遠ニ成ル是故ニ機ニ投スレハ招カサルニ格リ爲サヽルニ致シ思フテ成ラサルナク行フテ達セサルナシ而モ機ノ來ル間髮ヲ容レス一タヒ之ヲ逸スレハ駟モ逐ヒ難シ宜ナリ西哲ノ機ノ後頭禿セリト言フヤ

農務局員有働君曩ニ日本産業組合詳說ヲ著スヤ酒勾農學博士序シテ曰ク産業組合ノ發達ニ三難アリ指導者ノ缺乏其一人心ノ不節制及信用ノ破壞其二組合ノ性質效用ノ熟知セラレサル其三ト夫然リ今ヤ我邦露國ニ向ツテ膺懲ノ師ヲ起コシ内ニ在ツテハ上下一致勤儉以テ資ヲ給シ外ニ在ツテハ將卒相信シ相援ケ以テ國威ノ宣揚ニ

勗ム惟フニ東亞ノ平和克復スルアランカ國勢漸ク膨張シ産業從テ發展セントス天賦ノ富源玆ニ開放セラレントスルノ秋乃チ戰捷ノ實利ヲ收メ實益ヲ進メ益々國力ノ充實ヲ計ルハ正ニ吾人ノ責務也既ニ此機アリ亦何ンソ指導者ナキヲ憾ミンヤ此時ニ當リ君ノ此著ヲ再刊ス誠ニ機宜ニ適セリト謂フヘシ蓋シ好機ニ臨ム其人心ノ一致スル豈軍隊ノ間ノミナランヤ産業界ニ於テモ亦然リ加フルニ此著アリ以テ組合ノ性質效用ヲ知ラシム則博士ノ所謂三難亦其路ヲ絶ツニ庶幾カランカ是ヲ序トナス

明治三十七年六月

男爵　清浦奎吾

日本産業組合詳說序

人ノ斯世ニ在ル群居ナキ能ハス群居スルトキハ競爭ナキ能ハス唯々其レ競爭ス是ヲ以テ能ク進歩ス然レトモ競爭ニシテ融和スル所ナク其ノ自然ノ勢ヲ恣ニセハ强大ハ益々强大弱小ハ愈々弱小社會ノ進歩從テ沮廢スルニ至ラン而シテ産業ニ及ホスノ害ニ至テハ殊ハ甚シキヲ見ントス夫レ小民ハ社會ノ根本ニシテ産業ノ要素ナリ競爭ヲ融和シテ之ヲ保護スルニ非サレハ産業何ヲ以テ興リ社會何ヲ以テ進マン能ク競爭ノ利ヲ收メントセハ亦能ク競爭ノ害ヲ制セサルヘカラス夫レ産業組合ノ組織タル小民ヲ連結シ其ノ信用ヲ基礎トシテ其ノ薄資ヲ集合シ以テ獨立ノ實力ヲ作リ勤儉ノ美德ヲ養フ所以ニシテ弱小能ク强大ト敵シ兩々相角逐竝進シテ獨リ産業ノ隆興ヲ致スノミナラス亦世道人心ノ維持ニ資クル所アラントス則

チ競爭ヲ融和シ其ノ害ヲ制シテ其ノ利ヲ收ムル斯組織ヨリ適切ナルハ莫シ産業組合法ノ施行セラル、所以ハ蓋此ニ存ス

然リト雖法能ク人ヲ弘ムルニ非ス人能ク法ヲ弘ム本法施行以來日尚ホ淺キニ不拘其ノ成績頗ル觀ルヘキモノアリト雖法律ノ目的ヲ全フスルニ於テ前途尚ホ遠シ苟モ本法ノ施行ニ關係アル者官民ヲ問ハス忠實且ツ勤勉以テ此ニ從事スルニ非サレハ前途ノ大成得テ期スヘカラス而シテ能ク法ノ目的ヲ全フセント欲セハ亦能ク法ノ精神ヲ解セサルヘカラス是レ有働君ノ此著アル所以ナリ予深ク其ノ擧ヲ多トシ一言シテ卷首ニ冕ス

明治三十五年十二月

男爵　平田東助撰

日本産業組合詳說序

産業組合法ハ明治三十三年九月一日ヨリ施行サレ爾來同法ノ下ニ設置セラレタル各種組合ノ數ハ五百餘ニ達シタリ此數ハ既往ニ於テ多カラス將來ニ於テモ我輩ハ遺憾ナカラ産業組合ノ發達ノ遲緩ナルヘキコトヲ憂慮シテ措カヌノテアル請フ我輩ヲシテ其三難關ニ就テ說カシメヨ

第一ニ産業組合ノ發達ニハ最生神樣ノ必要アルニ拘ラス我國ニハ其缺如シテ居ルコトアル何レノ國ノ經過ヲ見テモ組合ノ鞏固ナル發達ハ生神樣ノ指導ニ依テ行レテ居ル獨逸ノライファイゼンシュルツエ伊太利ノルサーチノ如キ則チ人ノ知ル所、我國ニ於テモ品川子爵ト云フ生神樣カ在タノテアルカ嗚呼天道是カ非カ恰モ産業組合法ノ誕生ト同時ニ他界セラレタ是實ニ産業組合カ先ツ其首途ニ

於テ遭遇シタル大頓挫テアル我輩ハ一方ニ組合其者カ此頓挫ニ依テ益々堅忍ヲ加フルコトヲ願フト同時ニ一方ニ生神樣ノ再誕ヲ待チツヽアル者テアル

第二ニ維新覺醒ノ利ニ伴フ害トシテ我人心ノ不節制ト一致信用ノ破壞トヲ來シタルコトテアル此破壞ト不節制トハ産業組合ノ正敵テアル組合ノ發達ハ漸次此弊害ヲ匡正スルノ効用ヲモ併セ收ムヘキテアルカ此弊害ノ爲ニ先ツ其發達ヲ妨害セラル、ヲ如何セン我輩ハ教育ノ普及及内外ノ刺戟ニ依リ徐ニ人心ノ改善ヲ祈ル外ナイノテアル

第三ニ産業組合其モノ、性質効用カ一部有識者ノ間ニ解セラレタルニ止テ未タ其組合ヲ組織スヘキ人々ノ間ニ知ラレサルコトテアル是組合ノ起原外國ニ在テ日本ニ適當ノ模範ヲ缺クカ故ニ止ヲ得サル所テハアルカ識者ノ責任ハ之ヲ放任シテ止ムヘキモノニアラスト思フ

學友有働君ハ日本産業組合詳說ヲ著述セラレタ君ハ則チ識者ノ責任ヲ知リ且之ヲ盡サレタル者テアル尙第一第二ノ難關アリト雖第三ノ關門カ君ノ奮發ニ依テ開カレントスルニ於テ産業組合ノ勢力ハ大ニ助長セラル、コトヲ確信スル我輩ハ爰ニ深ク君ノ勞ヲ謝シ且其効果ヲ視ントト欲スルコトノ熱心ナル意志ヲ表明スル者テアル

明治三十五年十二月

農學博士　酒　勾　常　明識

日本

産業組合詳說目次

著作ノ要旨……一
第二版ニ就テ……二
第三版ニ就テ……三
第一章 産業政策及社會政策ト産業組合……五
第二章 産業組合ノ概念……一一
第三章 資金……三五
概說……出資金……借入金……寄附金等……富豪ニ望ム
第四章 信用組合……三九
性質……貸付(用途。金額及擔保。償還期限。利子。制裁)……貯金……効益……信用組合ト農村
第五章 販賣組合……四九
性質……事業(第一種組合。第二種組合。第三種組合)……効益……二三ノ注意
第六章 購買組合……六一
性質……事業(購買。賣却)……効益
第七章 生産組合……六九
性質……事業(第一種組合。第二種組合。第三種組合)……効益

第八章　兼營組合……七五
第九章　設立……七九
設立ニ先タツ考慮(設立者。考慮)……設立ノ手續(申合セ。定欵ノ作成。設立許可ノ申請。出資第一回ノ拂込。設立ノ登記。登記濟ノ屆出。注意)……備考(地方長官ニ差出スヘキ書類ノコト。登記所ノコト。登記ヲ要スル事項ノコト。登錄稅ノコト。登記申請ニ付キ參考スヘキコト。組合員名簿ノコト)
第十章　定欵ノ說明……九三
前說(意義。効力)……掲載事項(法第九條ノ命スル事項。其他必要ナル事項。可トシ又ハ妨ナキ事類)……說明……(甲)目的(其ノ觀念。法ノ規定ニ關スル解釋。目的ノ種類。其ノ規定ノ方法)……名稱(其ノ概念。其ノ文字。注意)……組織(無限責任。有限責任。保證責任。其ノ規定ノ方法。注意。三種組織ノ得失。無限責任。保證責任。有限責任。結論。附記)……事務所……出資一口ノ金額及其ノ拂込ノ方法(一口ノ金額概念。其ノ額。拂込方法。剩餘金ノ配當。新加入者ノ拂込方法)……第一回拂込ノ金額……剩餘金處分及損失分擔ニ關スル規定(剩餘金ノ處分配。處分ノ考案。二三ノ注意。損失ノ分擔。分擔ノ考案)……準備金ノ額及其ノ積立ノ方法(其ノ額。其ノ積立ノ方法)……組合員タル資格ニ關スル規定……組合員ノ加入及脫退ニ關スル規定(加入。其ノ時期。加入金。注意。脫退。法定ノ脫退。任意ノ脫退。持分ノ拂戻。無限又ハ保證責任組合ニ於ケル脫退者ノ責任)……組合ノ目的タル事業ノ執行ニ關スル規定……存立時期又ハ解散ノ事由(存立時期。解散ノ事由)……信用組合ノ區域……(乙)理事及監事ノ員數……設立當時ノ理事及監事ノ就任ニ關スルコト……組合財產ニ對スル組合員ノ權利ニ關スルコト(其ノ意義及規定ノ必要。考案。二三ノ注意)……總會招集ノ方法……除名ノ事由……(丙)組合ノ區域……出資ニ關スル記載ニ付取纏ムヘキ期日……出資口數ノ制限……組合員カ總會招集ノ請求ヲ爲ス權利ニ關スル制限……理事及監事ノ任期(普通ノ場合ニ於ケル任期。設立當時ノ任期。補闕ノ場合。特別ノ方法)……決議ノ條件(特別ノ總會。普通ノ總會。特例)……組合事務ノ決定ニ關スル條件……理事カ特定ノ行爲ノ代理ヲ他人ニ委任スルコトニ關スル制限……通常總會ノ度數及開期(度數。開期)……議決權ノ代理ニ關スル制限……總會ニ於ケル決議事項……事業年度ノ始終……隨意脫退者ノ豫告期間……脫退者ニ對スル持分拂戻ニ關スル事項……脫退者ノ責任負擔ノ期間……清算人ノ就任……理事及監事ノ給料等……總代會ニ關スル事項……定欵ニ關スル二三ノ注意(其ノ一。其ノ二。其ノ三。其ノ四。其ノ五。其ノ六)……細則
第十一章　帳簿及書類……一六三
概念(帳簿ノ必要。貸借仕譯及勘定科目。帳簿。書類)……各種ノ帳簿及書類(信用組合用。販賣組合用。購買組合用。生產組合用。一般組合用。組合員名簿。日記簿。元帳。持分臺帳。出資臺帳。消耗品帳。備品帳。處務日誌。總會ニ關スル書類。財產目錄。貸借對照表。事業報告書。剩餘金處分案。其他ノ書類。加入申込書。印鑑簿)
帳簿(附書類)例……一八六
本篇記述ノ主旨……本篇ノ目次
第一節　帳簿組織(附書類)
帳簿組織……各種帳簿ノ用(日記帳。元帳。附書類。持分臺帳)……附記(準備金整理帳)
第二節　帳簿記入ノ順序(附書類ノ作成)

記入順序……記入順序例……書類作成順序

第三節　帳簿(附書類)假想例

閲覧上ノ注意……目次……出資臺帳(甲某ノ例。乙某ノ例。出資總額表。出資拂込額表)……貸付金臺帳……貯金臺帳(形式。利息計算ノ數式。計算方法。各欄ノ説明。例)……備品臺帳……消耗品帳……第一年度……日記帳……元帳……附書類(財産ノ目錄。貸借對照表。事業報告書。剩餘金處分案。第二次貸借對照表)……持分臺帳……第二年度……日記帳……元帳……附書類

持分臺帳……第三年度……日記帳……元帳……附書類(五種)……

第四節　其他ノ書類

書類ノ種類……書類ノ例(監督官廳ヘノ許可又ハ認可申請書類。裁判所ヘ登記申請書類。監督官廳ヘ登記事項及年月日届出書類)

第十二章　組合員ノ心得……二六七

組合員ノ本領(組合員ト組合トノ關係。組合員ノ活動)……法律上注意ヲ要スル事項(加入。平常。監督。總會。脱退。解散)……附記

第十三章　機關特ニ總會……二七九

機關ノ概念(總會。理事。監事)……總會(其ノ成立及決議ノ條件。其ノ種類及招集。決議事項。獨國ニ於ケル例。二三ノ注意)……總代會

第十四章　理事ノ務メ……二八九

其ノ權限(組合ノ代表者。其ノ行爲ニ對スル組合ノ責任。其ノ職責ハ重大ナリ)……其ノ就任……其ノ退任……事務ノ決定……其ノ事務(法律上當然ノ務メ。出資第一回拂込。設立ノ登記。登記濟ノ届出。一般ニ登記濟ノ届出。設立登記事項ノ變更。組合員名簿ノ變更。事務所ノ新説。事務所ノ移轉。持分讓渡。總會招集ノ請求。平常備ヘ置クヘキ書類。通常總會ニ關スル用意決議及届出等。特定ノ行爲ノ代理。總會ノ招集。定欵ノ變更。出資一口ノ金額ノ減少。保證金額ノ減少。加入及脱退。官廳ノ命令。合併及解散。組織ノ變更。破産宣告ノ請求。以上ノ摘要。其ノ他ノ注意。組合ノ隆盛ニ適切ナル務メ)……罰則……二三ノ注意

第十五章　監事ノ務メ……三〇九

其ノ權限(監査ノ必要。其ノ職責ハ重大ナリ。職務ノ一班。注意)……其ノ就任及退任(就任。退任)……其ノ事務……罰則……注意

第十六章　解散及合併……三一五

解散(事由。登記。届出)……清算(清算人ノ就任。清算人ノ職務)……破産……合併(其ノ決定。認可申請。登記。届出)……注意

第十七章　監督官廳……三二七

監督ノ必要……監督官廳(郡長。地方長官。主務大臣……餘言

第十八章　北海道ニ於テ農業者ノ設立スル産業組合……三三三

特別ノ事情……特別ノ規定(資金。設立。定欵。理事又ハ監事ノ務メ。監督官廳)……附言

第十九章　外國ニ於ケル産業組合ノ發達……三四一

第二十章　日本ニ於ケル産業組合ノ發達……三五五

○附錄

産業組合法……一
仝施行期日ノ件……二〇
産業組合法施行規則……二〇
北海道ニ於テ農業者ノ設立スル産業組合各ニ關スル件……二三
仝施行期日ノ件……二五
北海道ニ於テ農業者ノ設立スル産業組合ニ關スル施行規程……二七
農工銀行法抄……二七
北海道拓殖銀行法抄……二八
郵便貯金法抄……二八
政府ニ於テ産業組合ヨリノ買入ヲ爲ストキハ隨意契約ニ依ルヲ得ルノ件……二八
産業組合登記ヲ取扱フ登記所ノ件……二八
産業組合登記取扱手續……二八
産業組合登記簿ノ謄本又ハ抄本ノ請求等ニ關スル手數料ノ件……四一
無限責任何々信用組合模範定款……四一
有限責任何々購買組合模範定款……四八
有限責任何々販賣組合模範定款……五四

無限責任何々生産組合模範定款……六〇

日本産業組合詳説目次（終）

日本産業組合詳說

農學士 有働良夫著

著作ノ要旨

（第一版ニ際シ）

今ヤ我カ産業組合法ノ實施セラレテヨリ已ニ二閲年ニ及ヘリト雖、組合ニ對スル一般ノ觀念ハ極メテ幼稚ノ域ニ在リ、志既ニ立ツモ未タ向フ處ニ迷フノ現狀ナルヲ見ル、即チ以爲ラク、現行法ノ精神ヲ發揮スルト共ニ組合經營ノ方法ヲ明カニシ、以テ組合當事者ノ座右ニ備フルヲ得ハ、其ノ効益蓋シ尠ナカラサルヘシト、本書固ヨリ當ラスト雖而カモ猶是レ本書ノ主要ナル希望ナリ、更ニ一般識者ノ參考ニ資スルヲ得ハ、啻ニ余輩ノ幸ノミニアラサルヘシ

是ヲ以テ說クトコロ實用ヲ主トシ、論スルトコロ法規ノ範圍ヲ出テス、第一章說述ノ簡ニ過クルカ如キ亦止ムヲ得サルナリ、若シ夫レ組合ニ關スル理想的議論ハ、希クハ他日ヲ期シ表明スルトコロアラン

注意

各章中「法第何條」又ハ「規則第何條」トアルハ産業組合法第何條又ハ同施行規則第何條ノ略

第十八章中「件何條」又ハ「規第何條」トアルハ北海道ニ於テ農業者ノ設立スル産業組合ニ關スル件第何條又ハ同施行規程第何條ノ略

第二版ニ就テ

（明治三十七年七月）

本書初版ヲ公ニシテヨリ玆ニ一年餘、幸ニ有志諸君ノ一讀ニ値スルヲ得タルハ、余ノ最モ光榮トスル所ナリ、然レトモ初版ニ際シテハ時ノ急ニ應センカ爲、事倉皇ニ過キタルヲ以テ、不足不備ノ點蓋シ尠ナカラサリシナルヘシ、余ハ當時之ヲ第二版ニ於テ補正センコトヲ期シタリキ、爾來一年餘、見聞スル所攻究スル所ナキニアラス、而カモ其ノ結果ハ僅ニ本版ノ如キモノトナレリ

一　帳簿及書類ニ付特ニ「帳簿（附書類）例」ノ一篇ヲ第十一章末ニ加ヘタリ、組合實務者ノ參考ニ資スヘキヲ思ヒタレハナリ

二　第十九章及第二十章組合ノ發達ニ付、多少ノ新材料ヲ加ヘタリ、外國ノ事ハ本書ノ主要目的トスル所ニアラサルヲ以テ、之ヲ大體ニ止ムルモ大ニ憾ト爲スニ足ラサルモ、我國組合事業ノ實績ニ付新材料ヲ得ル能ハサリシハ甚タ遺憾トスル所ナリキ

但シ農商務省ニ於テハ明治三十五年度ノ組合事業成績ニ關シ目下「産業組合要覽」ヲ印刷中ナリト聞ク、之ヲ熟讀セハ以テ本書ノ不備ヲ補フニ足ラン

三　第二章末ニ拙稿ノ一二ヲ掲ケタリ、組合ノ概念ヲ知得スルニ多少ノ助ケタランノ微意ニ出テシノミ

四　其他各所ニ多少ノ補正ヲ加ヘタリ、今一々之ヲ記セス

五　余ハ實ハ本版ニ於テハ各種組合（第四章乃至第八章）ノ應用ニ付詳論ヲ加ヘンカト思ヒタリキ、然レトモ實際ノ問題ハ固ヨリ數十百ヲ以テ盡セリトセス、之ヲ各別ニ詳論スルコトノ極メテ複雜ニ亘リ、要領ノ捕捉ニ困難ヲ生スヘキヲ慮リ、之ヲ思ヒ止マリタリ、但シ余ハ折ニ觸レ時ニ應シ、或ハ雜誌上ニ、或ハ口舌ノ上ニ、微意ヲ開陳シテ世教ヲ乞フコトヲ怠ラサルヘシ

思、足ラス、況ンヤ筆、思ニ伴ハサルニ拘ラス、本書ヲ公ニスル著者ノ志望ハ、希クハ世ノ諒トスル所タレヨ、著者ハ更ニ進テ漸次補正ヲ加ヘ、本書ヲ他日ニ完カラシメンコトヲ期ス

第三版ニ就テ

（明治三十九年七月）

本版ニ於テハ法規改正ニ伴ナフ必要事項ヲ掲クルト共ニ、全般ニ亘リテ相當ノ補正ヲ加ヘタリ

今ヤ組合ノ氣運大ニ進ミ、組合ニ關スル知識亦甚タ高マレルニ當リ、本版ヲ發行スルハ、或ハ産業經濟ノ事情ニ稽ヘ或ハ外國ノ例ヲ引キ、論議ヲ加ヘ、以テ本書ヲシテ、今少シク價値アラシメンカトモ思ヒタリシ余ニ於テ、足ラサルノ感ナキニアラス、然レトモ本書元來ノ目的ハ、議論ヲ避ケ、主トシテ實務家ノ手引タラントスルニアリ、此目的ニ從ヘハ本版ト雖今日猶無用ニアラサルヘキヲ思ヒ、第二版殘部ナキニ至リテヨリ茲ニ七箇月、遂ニ復、有志諸君ニ見ユルコトヽナレリ

第一章　産業政策及社會政策ト産業組合

方今社會文明ハ財産私有制度ノ基礎ノ上ニ立テル自由競爭主義ノ結果也

營業ノ自由、轉住ノ自由、其ノ他百般ノ自由ハ、如何ニ文明ノ進ミヲ助ケタリシヤ、各人ハ其ノ最モ長スル所、其ノ最モ好ム所ノ事ニ從ヘリ、其ノ最モ長スル所、其ノ最モ好ム所ノ事ニ於テ、各人ハ最モ多ク成効セリ、又成効シツヽアリ、各人成効ノ結果ハ即チ社會ノ進歩也、文明ノ光也

夫レ人ハ元來不平等ナリ、其ノ智、其ノ體力、其ノ德性ノ相同シカラサル其ノ面ヨリモ甚シキモノアリ、不平等ナル人ノ社會ニ於ケル狀態ハ又自ラ不平等ナラサルヘカラス、是故ニ貧富アリ强弱アリ賢愚アリ、富ハ貧ヲ壓シ賢ハ愚ヲ率ヒ强ハ弱ヲ役ス、社會百般ノ狀態、其ノ基クトコロ蓋シ茲ニ存ス、サレハ社會ニ於ケル人ノ不平等ハ元來自然ノ約束ニシテ、人爲ヲ以テ特ニ之ヲ抑壓制裁スルニアラスンハ、到底其ノ勢ノ靜止ヲ望ム能ハサルコト、恰カモ堤防ヲ築キテ防止スルニアラスンハ、河水ノ汎濫セントスルハ水ノ自然ノ性ニ基クト一般、理ニ於テ決シテ

免ルヘカラサルコトニ屬ス

故ニ自由競爭ノ結果ハ直接ニ二箇ノ反面ノ觀察點ヲ與フ、一ニ曰ク社會ノ進歩二ニ曰ク社會ニ於ケル不平等

二鉢ノ團子價各十錢、一ハ二人ノ空腹ヲ滿タシ一ハ同シク能ク三人ニ滿足ヲ與フルアテハ、人誰カ後者ヲ擇ハサルモノアラン、サレハコソ資本ノ効率(エフィセンシー)勞力ノ効率彌增シニ高カレト、産業界ノ人ノ腦髓ノ束ノ間モ休ムコトナキナレ、機械ノ發明資本ノ集合ハ其ノ恰好ナル方便ニアラスヤ、生産ハ容易ナリ交換ハ敏活ナリ、斯ノ如クシテ幾億ノ富ノ集積スルモノ、實ニ産業界ノ現狀ニアラスヤ

二人相對シテ繩ヲ曳ク、小兒ノ力固ヨリ大人ニ及ハス、大雨アリテ地ヲ洗ヘハ殘ルモノハ土砂ニアラスシテ石礫ノミ、世ノ金錢ハ無心ニシテ唯外部ノ力ニ吸引セラル、其ノ轉々スル恰カモ繩ノ曳カル、如ク土砂ノ流ル、ニ似タリ、而シテ其ノ向フ處ハ容易ナル生産、敏活ナル交換ノ場所ナリ、夫レ金錢ハ加速度ヲ以テ斯ノ如キ場所ニ走ルナリ、日新有利ノ方便ヲ獲得スル優者ノ益々大トナル理ノ當

然ノミ、優者ノ益々大トナルハ、一面ニ劣者ノ愈々小トナルコトヲ伴フ、譬令ハ杉林ニ間伐ヲ行ハサルトキハ、强木ハ、隆々トシテ生長スルモ、延ヒ後レタル弱杉ハ蠢々トシテ、遂ニハ枯死スルニ至ルカ如シ、然リ而シテ、斯ノ如キ杉林ニ於テ、大杉カ附近ニ枝根ヲ擴クルト共ニ、年一年ニ、弱杉ノ數ヲ增スニ至ルカ如ク、人間社會ニ於テモ亦富ノ分配常ニ一方ニ偏シ、劣者ノ數ヲ增加シテ、浮フ瀨ナキニ至ラシメスンハ止マサラントス、アハレ人生、先タツモノハ其ノ食ニ在リ其衣ニ在リ其ノ住ニ在リ、切言スレハ金錢ニ在リ、而シテ金錢ニ對シ引力乏シキ多數ノ劣者カ、之ヲ吸引スルニ力ムル苦辛ハ年ト共ニ加ハリ來ル、金錢ナクンハ即チ日夜孜々骨ヲ休ムルノ遑ナキ精勵者モ、猶ホ遊樂ノ人ニ向テ頭ヲ下ケサルヲ得ス、小作人騷動同盟罷工ハ其ノ餘響ナリ、罪惡從テ生シ害毒切リニ流ル、是レ實ニ社會不平等ノ狀況ニアラスヤ

以上ノ所說ニ據リ稽フレハ、自由競爭ノ制度ハ、人間ノ本能ヲ發揮シテ、産業ノ隆興富力ノ增進ヲ見ルニ最モ適切ナルヲ見ル、然レトモ一方ニ、其ノ弊害ノ極マル所ハ、即チ多數産業者ノ活動ヲ沮癈シ、反テ國力國富ノ發展ヲ害スルノミナラス、

德義失セ、人間共同生活ノ組織ヲ破壞セスンハ止マサルニ至ルヤモ、未タ知ルヘカラサルモノアルニ似タリ

農業ノ盛否ヲ支配スル要件ハ、昔時ヲ顧レハ今日ニ於テハ著大ナル相異ヲ來セリ（其他ノ産業ニ付テハ特ニ述ヘストモ類推スルヲ得ン）、昔時ハ收獲ノ多寡ヲ慮ラレハ、他ニ多クノ考慮ヲ費サストモ、猶農業ハ榮ヘタリシナリ、然レトモ今日ニ在リテハ、資金ノ融通、材料ノ購入、生産方法、産物ノ賣却等ノ點ニ付、收獲ノ如何ニ對スルト同シク深大ノ注意ヲ拂ハスンハ、事業ノ盛否ヲトスル能ハサルニ至レリ、是經濟社會ノ進歩ニ伴フ當然ノ結果ニシテ、今日ノ金錢ヲ媒介トスル日進ノ交換經濟社會ニ於テ、自足經濟時代ノ餘風ノ、以テ農業ヲ進ムル能ハサル所以ナリ、然リ而シテ、如上ノ經濟的要件ハ、現今多數ノ農業者ノ間ニ於テハ、未タ甚タ幼稚ノ狀況ナルヲ見ルナリ、是ヲ以テ動モスレハ事業ノ收支相償ハス多數ノ貧農ヲ生ミ出シ農産ヲ萎縮セシムルニ至ラントス、而シテ此ノ狀況ハ自由競爭ノ進行ニ伴ナヒ、益々悲觀ヲ呈スルニ至ラサルヤヲ疑ハシム

抑モ産業政策ノ要ハ永久ニ國富ノ增進ヲ計ルニ在リ、社會政策ノ要ハ永久ニ萬民ノ幸福ヲ進ムルニ在リ、而シテ現今ノ世勢以上ノ如シ、其レ政策ノコトハ永久ニ關ス、粲然タル煙火ノ頃刻ニシテ消エテ跡ナキカ如キ是レ人類相互ノ目的ニハアラサルナリ

思フニ、國家ノ健全ナル發達ハ自主獨立ノ民、他ノ拘束ヲ受ケス自ラ汗シテ自ラ食フノ民ヲ根底トス、現今社會ノ各階級ニ於テ自主獨立ノ民ハ主トシテ中流社會ノ民ナリ、斯ノ民榮エテ始メテ産業ハ永久ニ國富ヲ增進スルヲ得ヘク民生ノ幸福永久ナルヲ得ヘク國力從テ永久ニ旺盛ナルヲ得ヘシ、然ルニ世勢滔々、極端ヨリ極端ノ狀況ヲ呈出シ中流社會ノ衰微ヲ來スコト上述ノ如シ、嗚呼誰カ此至難問題ヲ解釋スルモノソ、加之、ヨシ競爭上ノ弊害コレナシトスルモ、抑モ産業上ノ經策ハ最少ノ費用又ハ準備ヲ以テ最多ノ効果ヲ收ムルヲ以テ則ト爲ス、個々細微ノ事業、能ク此則ニ協ハンニハ、據ルヘキノ途、果シテ奈何

余輩竊カニ思フ、産業組合ハ實ニ如上ノ問題ニ對シ最高點ヲ得ヘキ答案ニアラサルヲ得ンヤト、産業組合法案ノ第十四議會ニ提出セラルヽヤ其理由ニ曰ク「中産以下ノ産業者ヲシテ低利ノ資本ノ供給ヲ得セシメ其ノ他産業上共同ノ利益ヲ保護進捗セシムルノ方法ヲ設クルハ國富ノ基本ヲ涵養スルニ於テ一日モ忽

ニスヘカラサルノ施設タリ、加之、今ヤ勸業農工及拓殖銀行ノ設備既ニ成ルト雖未タ中産以下ノ産業者ニ利スル所少ナシ依テ此等ノ社會ニ對シ信用ヲ主トスル各種ノ組合ヲ設立セシメ勤儉貯蓄ノ美風ヲ養成セシムルト共ニ經濟上ノ發達ヲ企圖セシムルノ途ヲ啓キ以テ國家及國家經濟ノ基礎ヲ鞏固ナラシメンコトヲ期ス」ト、組合ノ抱負明カナリト謂フヘシ、而カモ産業組合ノ抱負ハ猶ホ裏面ニ於テ大ナルモノアルヲ忘ルヘカラス、今章ヲ更メテ以テ組合ノ概念ヲ論セントス

第二章　産業組合ノ概念

産業組合法第一條第一項ノ規定ニ曰ク

本法ニ於テ産業組合トハ組合員ノ産業又ハ其ノ經濟ノ發達ヲ企圖スル爲メ左ノ目的ヲ以テ設立スル社團法人ヲ云フ

一　組合員ニ産業ニ必要ナル資金ヲ貸付シ及貯金ノ便宜ヲ得セシムルコト（信用組合）

二　組合員ノ生産シタル物ニ加工シ又ハ加工セスシテ之ヲ賣却スルコト（販賣組合）

三　産業又ハ生計ニ必要ナル物ヲ購買シテ之ヲ組合員ニ賣却スルコト（購賣組合）

四　組合員ノ生産シタル物ニ加工シ又ハ組合員ヲシテ産業ニ必要ナル物ヲ使用セシムルコト（生産組合）

ト依是觀之、産業組合ハ、資金ノ貸付、貯金ノ取扱、生産物賣却、需要品購買、加工、使用

等種々ノ事業ニ依リ、組合員ノ産業又ハ經濟ノ發達ヲ企圖スル社團法人ナリ、或ハ之ヲ組合員ノ經濟機關ナリト云フヘシ

産業組合ノ成立ニ欠クヘカラサル要件三アリ、曰ク組合員トシテ七人以上ノ合意アルコト、曰ク各組合員ハ必ス相當ノ出資ヲ爲スコト、曰ク組合員ヨリ成ル總會及組合員中ヨリ選出スル理事監事アルコト是也、斯ノ如ク(一)人アリ(二)金アリ三機關アリテ始メテ事業ノ經營ヲ爲スヲ得ヘシ、而シテ單ニ以上ノ點ヲノミ看ルトキハ、組合ハ普通ノ營利社團ト毫モ選ム所ナシト雖、法規ヲ熟覽シ、深ク其ノ精神ノ在ル所ヲ察スレハ、組合ハ隣保共同相助ノ精神ヲ基トシ、著シク特異ノ性質ヲ有スルコトヲ知ルニ難カラス、今其ノ梗概ヲ說カントス

一、産業組合ハ元來中産以下ノ者ノ組合ナルヲ以テ組合員ハ多クノ金ヲ有セサルハ勿論ナリ、多クノ金ヲ有セスシテ猶良ク前記ノ要件ニ應スルヲ得ヘキカ、思フニ正直ナル勞働强健ナル體格ハ資本タルノ働キヲ爲スニ於テ敢テ疑フヘクモアラス、是レ即チ少許ノ資金ヲ以テ漸次ニ組合ノ繁盛ヲ期スルヲ得ル所以ニシテ、組合ハ實ニ對人信用ニ其ノ基礎ヲオクモノト云フヘシ、サレハ組合ハ金ノ結合ニアラス寧ロ人ノ自助的精神ノ結合ニ依リ成立スルモノナルカ故ニ、組合員タルヘキ人ノ資格ノ如何ハ組合成立上根本的重要ノコトタリ、已ニ人ノ結合タル以上ハ、一組合員ノ行爲ト雖直チニ組合ニ影響シ從テ他ノ組合員ニ及フヤ大ナルヲ以テ、誠實勤勉ナラサル者ノ如キハ決シテ組合員タルヘキ資格ナキモノトス、然レトモ若シ相當ノ資格ヲ有スル者ニシテ組合員タルヲ望ムアラハ組合ハ決シテ其ノ望ヲ拒ムヲ得ス(法第十條)喜ンテ之カ加入ニ應スヘシ、是レ産業組合ハ營利ノ團體ナレトモ猶公益ヲ進ムル性質ヲ有スルニ基クモノナリ

一、抑モ資本ハ勞力ヲ壓シ大ハ小ヲ倒シテ其ノ獨立ノ地位ヲ蓆卷シ去ル是レ今日社會ノ通弊ナリ、而シテ産業組合ハ弱ナルモノ小ナルモノヲ合セテ以テ大ナルモノ强キモノヽ如ク獨立ノ働キヲ爲サントス、即チ組合ニ於テハ資本ノ跋扈ハ嚴重ニ之ヲ禁止セサルヘカラス、又、組合ハ元來人ノ結合ナリ、何ソ資本ニ因リテ組合員ニ輕重ノ差ヲオクノ理アランヤ、法律ハ明カニ這般ノ道理ヲ表明セリ曰ク出資ハ十口ヲ超ユヘカラス、一口ノ金額ハ平等ナルヘク五十圓ヲ超ユヘカラス(法第十七條第十一條規則第一條)ト、以テ一人ノ出資最高額ヲ五百圓トシ、資本

ノ壓力ヲ軟カラシムルヲ得ヘシ(若シ多額ノ出資ヲ有スル者カ脫退シテ持分ノ拂戻ヲ請求スルトキハ一人ノ爲ニ組合ハ大ニ動搖ヲ來スヘシ)又曰ク組合員ノ表決權ハ平等ナルヘシ(法第三十八條)ト、以テ勢力ノ集中ヲ防止スルヲ得ヘシ

一、上來述フルカ如ク對人信用ヲ基礎トシ、一人之ヲ能クセサルモ數人之ヲ能クスルノ意氣ヲ以テ成立スル産業組合ノ事業ハ固ヨリ種々アリト雖、其事業ノ便益ノ及フ範圍ハ組合員ナリ、何トナレハ組合ハ組合員ヨリ成リ組合ノ事業ノ相手方ハ組合員ニ限ラルレハナリ(法第一條)又組合ノ利益ハ之ヲ組合員ノ手ニ渡スモ將タ組合ニ積立テオクモ同シク組合員ノ利益ニ外ナラス、何トナレハ組合財産ハ組合員ノ「持分」ノ集合ナレハナリ、之ヲ例ヘハ銀行ニ比センニ銀行事業ノ便益ヲ受クル者ハ其ノ株主ヨリモ世間一般ナリ、又銀行ヨリ融通ヲ受ケタル人ハ融通ノ利ヲ得ルノミニシテ、其拂フヘキ利子ハ其人ノ利益ニアラスシテ全然銀行ノ利益ナリ、コレ其ノ人ト銀行トハ何等密接ナル關係ナケレハナリ、而シテ産業組合ニ於テハ此利子ヲモ併セテ組合員ノ利益タルナリ、何トナレハ組合員ト組合トハタトヘ法律上別人ナリト雖組合ノ財産ハ組合員ノ持分ノ集合ナレハナリ、切言スレハ組合ノ富ハ組合員ノ共同貯蓄ナレハナリ、多クノ積立金ヲ强ヒ利益ノ配當ヲ制限スル理由ノ一モ亦是ニ在リ(法第四十六條規則第四條第十一條)最モ注意スヘキノ點ナリトス

一、夫レ「人ハ麵麭耳ニテ活クルモノニアラス」ト雖、衣食足テ榮辱ヲ知リ倉廩滿チテ禮節ヲ知ル」ナリ、衣食住、嗚呼富ナル哉、富アリテ初メテ天下太平ナルヲ得ヘシ、産業組合ハ實ニ組合員ニ富ヲ與フルノ機關タリ、信用組合、販賣組合、購買組合、生産組合皆之レ法律ノ特別ナル保護ノ下ニ組合員ノ富ヲ增殖セントハスルナリ(經濟的利益ノ依テ來ル所以ハ第四章乃至第八章ニ於テ詳說スヘキカ故ニ茲ニ略ス)、然レトモ世ニ勞セスシテ樂アルモノハコレアラサルナリ、天ハ自ラ助クル人ヲ助ク、産業組合亦然リ、最モ誠實勉勵ナル組合員ハ最モ多ク組合ノ利益ニ浴スルヲ得ヘシ、眼前實ヲ懸ケテ人ノ來リ取ルニ任ス誰カ躊躇スルモノソ、組合員イカテカ奮勵セサランヤ、勉勵ナル者ハ愈勉勵ニ自暴ニ陷レル人モ亦自ラ勉勵ナルヲ得ヘシ、「懶惰者ハ勤勉家トナリ放蕩兒ハ節儉者トナリ暴飲家ハ飲酒ヲ止メテ謹愼家ト化シ嘗テ酒亭ノ顧客タリシモノモ今ハ寺院ノ聽衆トナリ目ニ一

丁字ヲ有セサリシ者モ遂ニ文字ヲ知ルニ至レリ」トノウオルレンボルグ氏ノ言、是ヲ事實ニ見ルヘカラスヤ、然レトモ人情ハ往々常規ヲ逸ス、自ラ勵ミ自ラ助ケント心懸クル人モ時ニ克己ノ念ヲ失フコトアリ、況ンヤ悠々時ト共ニ移ルノ徒ニ於テオヤ、サレハ組合員ヲシテ其ノ向フ處ヲ正シカラシメンニハ、必スヤ他ヨリ其ノ行動ヲ監視シ制裁スルトコロナカルヘカラス、凡ソ自己ノ非ヲ氣付クモノハ少ナク他人ノ缺點ハ容易ニ眼ニ映スル是レ世情ナリ、サレハ自己ノ行動ハ他ニ監視セラレ他ノ行動ハ自己之ヲ監視シ、相互ニ戒メ勵ムノ仕組ニシテ圓滑ナルヲ得ハ、其ノ效果ヤ即チ知ルヘキノミ、是ヲ彼ノ五人組制度ノ效果ニ顧ミヨ、組合員ハ相互ノ行爲ヲ監視スルト共ニ相互ノ行爲ニ責任ヲ負フ、其ノ他動的自治制ヤ如何ニ共同擔保ノ效ヲ奏セシヤ、之ヲ實際ニ考ヘ理ヨリ推シ以テ賞歎セスンハアラサルナリ、而シテ此理豈ニ今日ノ社會ニ適用セラレサルノ理アランヤ、産業組合ヤ其ノ目的ヲ異ニスルニ從ヒ且ツ其ノ組織(責任)同シカラサルニ依リ、其ノ無形ノ效果ヲ奏スルニ於テ輕重ノ差ハ有之ト雖、其ノ理ニ至リテハ即チ一也、有形ノ利益眼前ニ在リ、之ヲ得ンニハ自ラ愼マサルヘカラス、自ラ愼マサルモノハ他ノ嚴重ナル制裁ヲ受ク以テ頭裡ニ潛ム良心ヲ喚起シ自助ノ精神ヲ發輝スルヲ得ヘシ、是レ組合ノ仕組ナリ、斯ノ如クニシテ人ノ心ハ改良セラレ從テ經濟上ノ利亦進ムヘク自助的精神ノ光輝粲然タルヘキナリ、伊太利ノ僧侶曾ツテ其ノ教會區ニ於ケル信用組合ノ效果ヲ歎賞シテ曰ク、「今ヤ勞働者ノ酒亭ニ過キルモノ頗ル稀ニシテ皆其ノ職業ニ精勵勤勉ナラサルナシ方正ナル人民ノミ此ノ組合員タルヲ許サル、ヲ以テ習ヒ性トナレル暴飲家モ足再ヒ酒亭ノ閾ヲ踏マサルヲ誓ヒ能ク其ノ言ヲ守リ、耳順ノ文旨者モ其ノ貸借ノ證書ヲ記入シ得ンカ爲ニ文字ヲ習ヒ或ハ又其ノ教會區ノ貧民救助金ヲ受クルカ爲メニ組合員タルヲ許サレサルノ徒ハ貧民帳ヨリ姓名ヲ削除セラレント欲シテ勤勉至ラサルナク遂ニ救助ヲ受ケテ生活ヲ送ルノ有樣ヨリ一躍シテ自己ノ勞働ニ依リ衣食スルニ至ルモノアリ從來ハ自己ノ糊口スラ困難ナリシ貧民モ今ハ牝牛ヲ求メ其牛乳及乾酪ニヨリテ負債ヲ返還シ尙ホ純益トシテ犢ヲ成育スルモノアルニ至レリ」ト、組合ノ個人及ヒ地方ニ及ホス效果深遠ニシテ永久ナリトセサランヤ

隣保共同相助ノ主義ヲ基トスル産業組合ノ效果其レ斯ノ如シ、經濟上ニ精神上ニ中流社會自主獨立ノ民ノ繁盛期シテ待ツヘカラスヤ、産業政策ニ社會政策ニ相關係スルトコロ看取スルニ難カラサルナリ

今ヤ此章ヲ終ルニ臨ミ少シク法律上ノ解說ニ及ハントス、抑モ一般ノ法律行爲ハ民法ノ規定ニ依ルヲ原則トスレトモ、或ル行爲カ商行爲ナルカ如キ場合ニ於テハ固ヨリ商法ノ下ニ支配セラレサルヘカラス、元來商法ハ敏速簡約ヲ旨トシ民法ニ特例ヲ開キタルモノニシテ民法ナル普通法ニ對スル特別法ニ外ナラス、然リ而シテ産業組合ハ純然タル「自己ノ名ヲ以テ商行爲ヲ爲スヲ業トスル者」ナルヤト云フニ、必スシモ然ラサルモノアリト雖、一々法律行爲ノ根原ニ遡リテ論センニハ、民法商法ノ適用上少ナカラサル混雜ヲ惹起スヘキカ故ニ、法律ハ「産業組合ニハ本法ニ別段ノ規定アルモノヲ除クノ外商法及商法施行法中商人ニ關スル規定ヲ準用ス」(法第五條)トセリ其意ノ在ル所察知スヘキナリ、斯ノ如ク法律ハ一種ノ商人トシテ産業組合ヲ遇スト雖、而カモ産業組合ヤ目的トスル所單純ナル營利事業ニ在ラスシテ、深遠ナル公益上ノ目的ヲ有スルコト前已ニ述ヘタルトコロニ依リ明ナリ、サレハ組合ヲ一般商人ト同樣ニ認ムルヲ得サルヤ理ノ明カナル所ニシテ、法第六條ハ實ニ這般ノ消息ヲ傳フルモノナルコトヲ知ルヘシ、曰ク「産業組合ニハ所得稅及營業稅ヲ課セス、産業組合ニシテ登記ヲ受クルトキハ營利ヲ目的トセサル社團法人ト同一ノ登錄稅ヲ納ムヘシ但シ組合員名簿ノ記載ニ付テハ登錄稅ヲ課セス」ト

附言

一　「産業」トハ其ノ意義如何、或ハ經濟學ニ所謂生産ノ意義ニ基ケル生産業ナリト論スル人モアラン、或ハ諸種ノ營業ナリト解スル人モアラン、然レトモ余輩ハ産業組合ノ事業ニシテ個人及國家社會ニ利益ヲ與フル以上、農工商水産山林ハ勿論可成實際的ノ解釋ニ從ハンコトヲ望ム、故ニ茲ニ「産業」ノ定義ヲ下シテ其ノ範圍ヲ定ムルノ結果、反テ實際上ノ不便ヲ來スヘキコトヲ避ケント欲スルナリ

二　ウオルンボルク氏及伊太利僧侶ノ言ハ、國民銀行論ノ譯ニ從ヘリ

三　本章說キシ所ハライフアイゼン氏組合ノ主義ト一致スル點多シ以下說ク所亦同シ(第十九章參照)

四　余ハ左ニ拙稿ノ一二ヲ掲ケテ組合ノ觀念ノ知得ニ資セントス、願クハ微意ヲ諒

シ陋ヲ告ムル勿レ

○「組合欄」ノ新設ヲ慶フ　（三十七年二月中央農事報）

農業ノ發達ハ、技藝上ノ進歩ト經濟上ノ措置ト相俟テ、始メテ之ヲ期スルヲ得ベシ、何トナレバ農業ハ亦之レ一ノ營利ノ事業ナレバ也、農業ニシテ純益ヲ見ルコト尠ナクンバ、何ヲ以テカ其ノ位置ヲ上進スルヲ得ン、農業者ニシテ家ニ餘財ナク債鬼ノ常ニ迫ルアラハ、農業發達ノ餘地何ノ處ニカ存スル。

思フ、生産費ノ節減ト生産價値ノ增加トハ、以テ農業ノ純益ヲ大ナラシムベク、貯蓄ノ好手段ヲ與フルハ、以テ農民ノ懷ヲ暖ナラシムル所以也ト、蓋シ這般ノ事理、固ヨリ珍奇ニアラズ、何人ト雖之ヲ口ニシ筆ニスルヲ得ン、然レドモ如何ニセバ、爭ノ効果ヲ擧グルヲ得ベキヤノ方法ニ至リテハ、是決シテ容易ニアラズ、況ンヤ其ノ成績ヲ實地ニ見ルコトノ困難ナルニ於テオヤ。

今ノ時ニ於テ如上ノ要求ニ應センニハ余輩ハ實ニ熱心ニ「産業組合」ヲ推擧スルニ躊躇セズ、乞フ少シク其ノ然ル所以ヲ陳ベンカ。

産業組合（信用組合、販賣組合、購買組合、生産組合）ノ期スル所ハ組合員ノ産業又ハ其ノ經濟ノ發達ヲ企圖スルニアリ、其ノ特性トシテ擧グベキ事項尠ナカラズ

一　組合員ノ對人信用ニ基礎ヲオクコト

二　出資金ニ最高ノ制限アルコト

三　組合員數ノ制限ヲ許サザルコト

四　組合員相互擔保制ナルコト

五　資本ノ跋扈勢力ノ集中ヲ許サザルコト

六　多クノ積立金ヲ强ユルト共ニ多クノ配當金ヲ許サザルコト

七　組合事業上ノ利益ヲ受クル者ハ組合員ニ限リ、組合財産ハ實際上組合員ノ共同財産タルコト

八　公益法人ノ待遇ヲ享クルコト

凡ソ如上ノ事果シテ何ヲ意味スル、中小ノ者皆平等ノ地位ニ立チ隣保相助ケテ共同ノ利益ヲ擧ゲ、以テ國家社會ノ幸福ヲ資クル意、看取スルニ難カラザルナリ（是等詳細ナル論點ニ就テハ願クバ他日ヲ期セン）。

組合ノ性質此ノ如キヲ以テ、其ノ効果ヲ論セントセバ自ラ三種ノ觀察點アルヲ知ル、曰ク組合員ノ經濟ニ及ボス關係、曰ク國家經濟ニ及ボス關係、曰ク社會上ニ及ボス關係即チ是也、然リ而シテ悉ク此ノ三點ヲ論スルコトハ本篇ノ目的ニアラズ、本篇ニ於テハ僅カニ組合員ノ經濟ニ及ボス關係ヲ農業者ニ付、論スルヲ以テ足レリトセン。

産業組合カ農業者ノ經濟ニ及ボス關係ハ、之ヲ兩種ノ方面ヨリ觀察スルヲ得ベシ

一　共同事業上ノ利益ヲ享クルコト。

二　貯蓄ノ適切ナル方便ヲ得ルコト。

第一共同事業上ノ利益ヲ享クルコト。

(ア)信用組合ハ「組合員ニ產業ニ必要ナル資金ヲ貸付シ及貯金ノ便宜ヲ得セシムルコト」ヲ目的トス、農民ハ之ニ依リテ農具、肥料ノ購入其他農業經濟ニ要スル一切ノ資金ヲ容易ニ得ベク、又其ノ零碎ノ餘財ヲ容易ニ蓄積スルヲ得ベシ、顧フニ現今農村ニ於ケル痛心事ノ一ハ簡便ナル金融機關ノ欠除ニアリ、數割ノ利益ヲ拂フモ猶能ク資金ヲ得ル能ハザリシモノ、實ニ思半ニ過ギン。

(イ)販賣組合ハ「組合員ノ生產シタル物ニ加工シ、又ハ加工セズシテ之ヲ販賣スルコト」ヲ目的トス、穀類、蔬菜、果實ニ論ナク苟シクモ適當ノ法ニ依リ共同ノ販賣ヲ爲ス以上ハ利ナラザルモノ蓋シ之ナシ、常ニ「買倒サレ」ノ地位ニアル農業者ハ之ニ依リテ大ニ其ノ生產ノ價値ヲ增加セシムルヲ得ン、況ンヤ經濟社會ノ進歩ハ益々大量取引ヲ要求スルニ於テヲヤ。

(ウ)購買組合ハ「組合員ノ產業又ハ生計ニ必要ナル物ヲ購買シテ之ヲ組合員ニ賣却スルコト」ヲ以テ目的トス、共同購入カ價額、品質、勞費等ノ上ニ如何ニ利アルヤハ論ヲ要セス、肥料、種子、鹽、油、曰ク何、曰ク何、組合カ如何ニ生產費ノ節減ト家政ノ餘裕トヲ資クルヤ、之レ自明ノコトタルナリ。

(エ)生產組合ハ「組合員ノ生產シタル物ニ加工シ、又ハ組合員ヲシテ產業ニ必要ナル物ヲ使用セシムルコト」ヲ目的トス、粗製品ヲ自ラ精製品トス、是レ勞銀利潤等ヲ併セ收ムルノ法タリ、共同シテ物ヲ使用ス、是レ物ノ効用ヲ大ナラシメ、或ハ高價ノ器械類スラモ尙ホ且ツ用ヰ得ルノ便法ナリ、揚水器、消毒器、收穫器、種畜等ノ共同使用ハ其一例タリ、生產ノ効果ヲ大ナラシムルノ事情豈見ルベカラズヤ。

以上餘リニ簡略ニ過ギタルヲ患フト雖、組合事業ガ農業生產及農家經濟ニ及ボス利益ノ大要ハ之ニ據テ知ルヲ得ン

第二貯蓄ノ適切ナル方便ヲ得ルコト。

余輩ハ自ラ屢々經驗セリ、自己財囊中ニ携帶スル若干ノ金圓ハ、何ニ費シタリトナク何時ノ間ニカ消耗シ盡スト雖、之レヲ預金或ハ他ノ方法ニ依リ、兎モ角モ自己ノ手ニ現ニ有セザルトキハ、零碎ノ金ト雖容易ニ消費スルナキコトヲ、思フニ此事情ハ世間一般ニ同樣ナリト見テ不可ナシ、組合員ノ出資、增加シ行ク組合財產、信用組合ノ貯金、皆之レ組合員ノ貯蓄タラザルハナシ、而シテ此等ノ貯蓄ハ組合事業活動ノ基礎トナリ、農業及農家經濟ヲ資クルコト前述セル所ノ如シ、指シテ以テ貯蓄ノ適切ナル方便ト云フ、何ノ不可カコレアラン、余輩ハ近時社會ノ賞歎ヲ値シタル、某々自治團體ノ經濟上ノ發展ノ基礎ノ如キ、悉ク村

有財産或ハ共同積立金ニアラザルナキヲ見テ、感殊ニ深キヲ加ヘタリキ。

サレバ組合ハ一方ニ生産上ノ利益ヲ永久完カラシムルモノナルコトヲ知ルヘシ、農藝技術ノ進歩ニ伴ナヒ、農産ノ利益増加シタリトスルモ、之ヲ各個人ノ手ニ委ネ置カバ、其ノ利益ハ次期ノ生産ニ活力ヲ現出シ來ルコトヲ保スベカラス、余輩ハ之ヲ當時最モ人口ニ膾炙セル耕地整理ニ就テ説カン、耕地整理ノ結果ハ地産力ヲ増加スルコト三割四割ニ達スト云フ、然レドモ此ノ數割ノ利益ハ之ヲ各自ノ爲スガ儘ニ放任セバ、偶々以テ一時彼等ノ生計ヲ度ヲ上達セシムルニ止リ、生産純利ノ増進モ得ルトコロナク、依然トシテ窘態ヲ持續スルニアラザルカヲ患フ、余輩ハ豊年ニハ反テ借金ノ増加スル所以ヲ察シテ轉タ痛心セズンバアラザルナリ、然リ而シテ斯ノ利益ヲ年々組合ノ資ニ投ジタリトセヨ、彼等ハ常ニ之ヲ利用スルヲ得、生産ノ活動累進スベキヤ當然ノミ、是生産上ノ利益ヲ永久完カラシムル所以ニアラズシテ何ゾヤ。

産業組合ガ農民ノ經濟ニ及ホス關係、以上ノ小言ヲ以テ一班ヲ知ルヲ得バ、誰カ亦組合ノ經營カ農産ノ純益ヲ高メ農業者ノ貯蓄ヲ進メ、以テ良ク農業ノ發達ニ資スル所以ノ事情ヲ否定スルヲ得ン、嗚呼産業組合乎、余輩ハ其ノ設立及其ノ發達ヲ以テ我農村ニ於ケル最大急務ト爲スモノ、アヽ今ソレ何ノ時カ、内外相通ジテ競爭ハ愈激甚ヲ極ムルノ時ニアラズヤ。

中央農事報ハ今回新ニ「組合」ノ一欄ヲ設ケラレタリ、同報ガ其ノ趣味多キ數頁ヲ新ニ分割スル、決シテ輕忽ノ擧ニ出ヅルモノニアラザル、昔之レ人ノ信ズル所ナラン、余輩ハ茲ニ同報ガ農事上ノ注意深厚ナルヲ多謝シ、「組合」ノ將來ヲ祝スルト共ニ、組合ノ實地成効者タル且ツ余輩ノ最モ尊敬スル子爵加納久宜閣下ノ健康ヲ祈ルト云爾。

（三十六年十月太平洋）

○農家經濟ト合業

分業ノ由來

經濟學ノ教ヘ又實際ノ示ストコロニヨレバ、分業ノ効果ハ偉大ナルモノデアツテ、今更アダム、スミスノ留針製造ノ引例ヲ繰リカヘスマデモナイ、然レドモ或ル事業ガ分業ノ手段ニ依リテ、永久ニ爲シ遂ゲラルヽニハ、其ノ事業ハ必ズヤ或ル一定ノ性質ヲ保有スルコトヲ必要トスル、即チ其ノ分タレタル各部分ノ小事業ガ、絶エズ同ジク報酬ヲ與ヘ得ル營業トシテ成立ツコトガ出來ネバナラヌ、例ヘバ綿ヨリ衣服ヲ製スルニハ、紡績、染色、機織、裁縫等ノ仕事ガアル、而シテ此ノ製服ナル事業ガ、分業ニヨリテ成立スル爲ニハ、紡績業、染色業、機織業、裁縫業等ガ各別ニ、一箇獨立ノ營業トシテ維持セラレ得ルヲ必要トスル、思フニ工業商業ノ如キハ、最モ多ク分業經營ニ適スル性質ヲ備ヘテ居ル、蓋シ其ノ各部分ノ仕事ガ絶ヘズ同ジク報酬ヲ生ミ出ス性質アルニ起因スルノデアル。

農業ニハ分業ヲ應用スル能ハズ

然レドモ之ヲ農業ニ就テ考フルトキハ、其關係大ニ相異ナルコトヲ容易ニ發見スル、抑モ農業ノ經營ハ、天ノ時ニ支配セラルヽコト尤モ多クシテ、人間ノ自由行動ヲ許サナイ、秋ニ稻ヲ植ウルコトモ出來ネバ、冬ニ麥ヲ刈ルコトモ出來ヌ、即チ季節々々ニ從ツテ、爲スベキ仕事ガ定マツテ居ル。

故ニ例ヘバ、米麥二毛作農業ニ於テ、分業ヲ應用シ、甲ハ米、乙ハ麥ノ栽培ヲ受持チタリトセバ、彼等ハ一年中、其半ハ爲スベキ仕事ガナイ爲ニ、寢テ暮サネバナラヌコトヽナル、斯ノ如キハ到底不可能ノコトデアル。

一歩ヲ進メテ之ヲ論ゼンカ、タトヘ一ヶ農家ガ(普通爲スヿ如ク)農業トシテ經營スベキ仕事ハ、悉ク之ヲ自ラ行フトスルモ、猶農ニハ所謂繁閑アリ、植付、中耕、收穫ノ季節ニ於テハ繁忙ヲ極ムルモ、又甚ダ閑散ナル季節モアル。

是ニ於テカ左ノ結論ニ到着スル、農業ハ其ノ仕事ノ各部ガ一箇獨立ノ業トシテ成立シ能ハザルガ故ニ、分業ヲ應用スルコトガ出來ナイ許リデナク其ノ仕事ニ繁閑アルガ故ニ、閑ナルニ際シテハ反テ仕事ヲ合スルノ必要ガアル、副業奬勵ノ如キハ蓋シ此邊ヨリ割リ出サレタルモノデアル。

社會ノ進歩ハ農家經濟ヲシテ複雜ナラシム

農業ノ經營ハ、各種ノ仕事ヲ綜合スルヲ要スルコト上言ノ如シトシテ、サテ農家ガ其ノ經濟ヲ立テヽユクニ必要ナル着目點ハ如何トイフニ、今ヤ經濟社會ノ進歩ハ農家ヲシテ、悠々閑日月ヲ送ルヲ許サナイデ、農家ハ其ノ産業上ニ、其ノ生計上ニ、日進ノ經濟手段ヲ施サネバ遂ニ獨立ノ地位ヲ維持スルコトガ出來ナクナツタノデアル、實ニ農家ハ單ニ多クノ收穫アリタルコトヲ以テ安心スルコトハ出來ヌ、農業用、生計用物品ノ購入、生産物ノ賣却、生産費節減、曰ク何、曰ク何、陸續トシテ起リ來ル諸種ノ問題ニ、深ク注意セネバナラヌヤウニナツタノデアル。

農家經濟ハ合業ニヨリテ立ツヲ得ベシ

農家ハ其ノ生産物ヲ賣却スルニ先チテ、事情ノ許ス限リニ於テ之ニ勞ヲ加ヘ、精製ニ近ツカシムルノ必要ガアル、或ハ餘暇ヲ利用シテ特ニ工作ヲ爲ス場合モアル、此點ニ於テ農家ハ工業ヲ加味スベキモノトイツテヨイ。

農家ハ諸物品ノ購入又ハ賣却ニ際シテハ、大ニ相場上ノ利益ヲ占ムル途ヲ講ズルノ必要ガアリ、又彼等ハ其ノ實際ノ必要ヨリシテ、金融上ノ畫策ヲ爲スヲ要スル、果然農家ハ商業ヲモ加味セネバナラヌコトヽナツタ。

斯ク云ヘバトテ余輩ハ、農家ガ工業者又ハ商業者ニ變セネバナラヌト云フノデハナイ、或ル範圍内ニ於テ斯ノ如キ仕事ヲモ、合セ營ムノ必要ヲ唱フルノデ、コレガ又國家ノ爲メナルコトヲ信ズルノデアル、唯ダ商業工業ノミデナイ、林業ノ如キハ農家自營上、必ズ經營ス

ルヲ要スル仕事デアル、果シテ然ラバ農家經濟ハ實ニ合業ニ依リテ、維持發達セシメ得ベキモノナルコトヲ疑ハナイ。

農業者ハ多方面ノ智識ヲ備ヘザルベカラズ

商業ヤ、工業ヤ、之ヲ略言スレバ、其ノ仕事ノ性質ハ、餘リ複雜デナイコトハ、或ル事業ノ一部分ヲ經營スルガ故デアツテ、農家ノ合業ニヨリテ組ミ立ツベキ經濟ノ複雜ナルニ比スベクモナイ。

是ヲ於テ農業者ハ、多種多樣ノ知識ヲ備ヘネバナラヌ、一事物ヲ專ニシテ、他ヲ省ミザルニ於テハ、或ハ其ノ經濟ヲ維持スルコトガ出來ヌ、然ルニ現今農業者ノ狀態ハ如何ナルヤ、自ラ強ウスルニ足ルモノアリヤ否、他ノ壓迫ヲ受クルコトナキヤ否。

農界ノ指導者ヲ以テ任スル學者、亦同ジク學識多方面ナルヲ要スルヤ、固ヨリ其ノ所デアル、加フルニ西洋ト日本ト農業經營法異ナルニヨリ、或ハ季候異ナルニヨリ、彼ヲ取テ我ニ用ウルロトノ、殊ニ其ノ技術ノ點ニ於テ困難ナル、他ノ諸學ト趣ヲ異ニスルモノガアル。

大勢ハ必要ヲ壓スルコトナシ

社會發達ノ順序ハ先ヅ農業起リ、工商之ヨリ分レ來レリトハ經濟學者ノ說ク所、近時ニ於テモ紡績ノ事ノ如キ、全ク農家ノ手ヲ去リテ、工ニ移リタルガ如ク、農家ノ仕事ハ古ヘヨリ今ニ至ル迄、漸次他ニ移リテ其ノ範圍ヲ狹バメツヽアツタノデアル、而ルニ余輩茲ニ農家ノ合業論ヲ以テス、大勢ニ反スルニアラザルカト問フモノアラバ、余輩ハタヾ大勢ハ必要ヲ壓スルコトナシト答ヘンノミ。

○新式農業　（明治三十九年一月中央農事報）

外國デハ、此頃新式農業」即チ The New Agriculture トイフ語ガ、唱ヘラレル樣ニナリマシタ、ソレハ、產業組合組織ヲ應用シタル農業ヲイフノデアリマス、而シテ丁抹國ノ乳業組合ノ如キハ新式農業ノ著名ナルモノヽ一トシテ、稱揚セラレテ居リマス。

丁抹ノ乳業組合ハ、組合員即チ農業者ガ、其飼養スル數頭宛ノ乳牛ヨリ搾リタル牛乳ヲ、組合ニ差出シ、組合ニ於テ之ヨリ「バター」ヲ共同製造シテ、之ヲ市場ニ共同販賣スル、所謂生產販賣組合デアリマス、此仕組ニヨリマシテ、乳業ノ利益ガ甚ダ多イ、從テ牛ヲ飼フ所ノ農業ガ大ニ發達スル次第デアリマス。

新式農業ハ、單ニ右ノ生產販賣ノ仕組ヲ立ツルコト計リデハアリマセン、資本融通ノ事、需用物品購入ノ事等、凡ソ、農業ノ盛否ヲ左右スル、經濟上ノ關係ヲ、一新改善シテ、經營スル農業ヲ總稱スルノデアリマス、歐米各國ハ、何處ニテモ此新式農業ノ經營ニ汲々トシテ居リマス、官廳ノ保護奬勵、團體ノ斡旋、有志ノ勸誘ハ勿論當事者ノ興奮ナカナカ目ザマシイ有樣ニ見受ケラレマス。

我國ノ農業ハ、外國ニ比スレバ、甚ダ小規模デアリマスル故ニ、新式農業ヲ採用スルコト、一

層切且ツ急ナルモノガアリマス、信用組合、販賣組合、購賣組合、生産組合ノ農業上ニ於ケル應用ハ、農業ノ利益ヲ高メ、其發達ヲ促ガス、明々白々デアリマシテ今更ラ言ヲ俟クヌ所デアリマス、世界强大國ニ列リタル我國ハ、其農業ニ於テモ、亦固ヨリ列國ニ劣リテハナリマセヌ、現狀ヲ一新再新、新式農業ヲ營ムニ到ルノ急務タルコトハ、吾人ノ大聲疾呼シテ憚カラヌ所デアリマス。

○産業組合ノ産業上ニ於ケル効用ノ三方面　（明治三十九年三月中央農事報）

産業組合ノ産業上ニ於ケル効用ハ、之ヲ三方面ヨリ觀察スルコトヲ得

(一)既成ノ産業ヲ發達セシムルコト

例ヘバ、拔ニ養鷄業者アリ、彼ハ、從來、種鷄ヲ高ク買ヒ又之ニ要スル資金ハ高歩ヲ拂ウテ借リ、卵ヲ賣ルニハ極メテ不利ノ地位ニ立チタル故ニ、彼ノ嘉ミスベキ丹精モ、年末ノ決算ニ於テハ、其効ヲ現ハサズ、折角ノ養鷄モ、餘リ利益アルモノニアラズト感ジ、又彼ハ最モ心ヲ用ヒテ優等ノ卵、鷄ヲ産スルコトニ力メタリシモ、之ヲ賣ルトキニハ、苦心セルダケノ報酬ヲ得ル能ハザルニ心付キ、餘リ改良ニ熱スルモ損ナリトノ考ヲ起シ、仍テ、養鷄ハ振ハズ、品質ノ改良ハ行ハレザルコトヲ感スルニ至レリ。

然レドモ、彼ハ、同業者ト申合セ、適當ニ産業組合ヲ應用スルトキハ、如上ノ不利ヲ排除シテ、其事業ヲ發達セシムルヲ得ベシ。

(二)未成ノ産業ヲ勃興セシムルコト

或地方ハ、柑橘ノ適地ナルニモ拘ラズ、之ヲ栽植スルモノ甚ダ微々タリ、何故ニ隣保之ニ倣ウテ大ニ産出スルノ礒運ニ向ハザルヤ、顧フニ、産物賣却ノ上ニ恰好ノ地位ヲ占メ有利確實ノ事業タルナランニハ、我モ彼モト、栽植ヲ始ムルニ至ルハ、蓋シ當然ノ事タラン、而カモ、其然ラザルハ全ク事業上缺クル處アルニ因ル、産業組合ノ經營ハ、栽植上ノ改良ヲ致スハ勿論、産物ノ有利ナル條件ヲ以テ市場ニ輸出セラルヽ上ニ、最モ有力ナル手段ニシテ、隣保相競ヒ相勵ム産業ヲ勃興セシメ、能ク地方的物産ヲ形成シテ、市場ニ名産ノ名ヲ擧ゲシムルニ至ルヤ、必セリ。

(三)餘財ヲ蓄積シ他日産業ノ用ニ供セシムルコト

組合ノ經營進ムニ隨ヒ、其財産亦漸ク蓄積ス、而カモ此蓄積ヤ、組合員ニ直接ニ何等ノ苦痛ヲ與フルコトナクシテ、年々累加スルノ實際ナルヲ見ル、今購買組合ヲ經營シ、組合員ニ好適ノ物品ヲ供給スルト共ニ、組合ノ財産、何時ノ間ニカ增加シ來ランニハ、其組合ノ經營ニ支障ナキ限リ、或ハ之ヲ基トシテ、更ニ販賣組合ノ事業ヲ經營シ、或ハ新ニ生産ヲ起スガ如キ、蓋シ、易々タルモノアランノミ

組合ノ効用ハ其レ斯ノ如シ、而シテ右三箇條ノ効用ハ、實際ニ於テハ、相伴ウテ、組合經營ノ上ニ現ハルヽヲ普通トス、然レドモ、良ク三種ノ効用ヲ區別シ、深ク之ヲ稽ヘ、以テ運用ノ法

ヲ盡サズンバ、或ハ鼎ノ三足全カラザルノ感ヲ遺サン

○競爭ト産業組合（明治三十九年四月産業組合）

産業組合ノ産業上ニ於ケル目的ハ、先ヅ、競爭ノ爲ニ萎微セントスル中小産業ヲ救濟スルニアルコト、叫ナ競爭ノ勢力ニ對抗シテ、利ヲ收ムルニ在ルコトハ、衆口ノ一致唱導スル所デアリマス、然ルニ、凡ソ産業ナルモノハ、競爭ニ因テ發達スルモノデアル、各人自由ニ能力ヲ發揮シ、最モ有利ナル手段ノ發育ニ基キテ、進歩スルモノデアル、小仕掛ノ産業ト雖亦固ヨリ此理ニ漏ルヽコトナキハ、明白ナル道理デアリマスル以上ハ、組合ノ制度ハ反テ、競爭ノ利益ヲ抑壓シテ、産業ノ進歩ヲ阻害スルモノデハナイカ、トノ疑問ガ或ハ起ルカモ知レマセヌ、併ナガラ、此疑問ハ深慮ヲ經ナイモノデアリマス、産業組合ハ、實ニ競爭ノ影響ノ惡キ部分ヲ矯メルト同時ニ、其良キ部分ハ十分ニ收得シテ行クトコロノ、申サバ、一舉兩得ノ仕組デアリマス。

産業上ニ於ケル競爭ハ、之ヲ二樣ノ方面ヨリ觀察スルコトガ出來マス、一ハ大中小産業ノ階級間ノ競爭、二ハ同階級ノ産業ノ間ニ於ケル競爭デアリマス、階級間ノ競爭ハ自然大ナルモノガ中小ノモノヲ壓倒イタシマシテ、所謂大小ノ懸隔ヲ成シ、弊害ヲ續出スルニ至リマス、反之、同階級ノ間ニ於ケル競爭ハ、競爭ノ度合ガ進ムニ從テ、自ラ大ナルモノト小ナルモノトヲ生シ、階級ヲ形成スルニ至ルハ、勿論デアリマスルケレドモ、其懸隔ヨリ生ズル弊害ノ未ダ起ラザル間ハ、弊害ヲ伴フコトナクシテ、物産ノ改良增殖ヲ進メ國力ヲ發展セシムル作用ヲ爲スノデアリマス、然リ而シテ、産業組合ハ、一方ニ、階級競爭ノ弊害ヲ抑制シ、他方ニ、同階級間ニ於ケル競爭ノ利益ヲ收メル、一舉兩得ノ働ヲ爲シマスル。

組合カ中小産業者ノ團結デアリ、各個ノ微力モ合シテハ大トナリ、能ク競爭渦中ニ小産業ヲシテ大産業ト併進角逐セシメ、競爭ノ弊害ヲ除去スルコトハ、今更申ス迄モナイコトデアリマス、即チ階級ノ懸隔セントスルヲ防止シ、小仕掛ノモノト雖、能ク其處ヲ得シムルノデアリマス、單ニ、此事ノミヲ以テシテモ、組合ノ働キハ偉大ナル効果ヲ齎スデアリマシヤウ、加之、組合ハ其組合員ノ間ニ、最モ有利ナル競爭ヲ爲サシムル樣ニ、仕組マレテアリマス、信用組合ニ於テハ、例ヘバ、信用程度表ノ作用ニ因リ、組合員ヲシテ競ウテ勤勉ナラシメ、競ウテ有利ノ事業ヲ起サシムルヲ得ベク、販賣組合ニ在リテハ、物品ノ品質査定及品質ニ對スル代價分配ノ妙用ニ因リ、組合員ヲシテ物産ノ改良增殖ニ、競ウテ力ヲ致サシムルコトガ、容易ニ出來ルデアリマセウ、其他各種ノ組合各種ノ事業ニ於テ、良ク運用ノ法ヲ盡サハ、組合カ競爭ノ利ヲ擧ゲル上ニ偉大ノ力ヲ有スルコト、思ヒ半ニ過グルモノカアルデアリマシヤウ、而シテ、此競爭タル、階級間ノ競爭トハ異ナリテ、爲ニ競爭ニ後レテ爲シタル組合員ヲシテ失墜起ツ能ハザルニ至ラシムル樣ナコトハアリマセン、何トナレハ、組合員ノ競爭ニ對シ、組合ノ附與スル利益ハ、正當公平ナルモノデアリマシテ、如何ニ働キテモ大ナル

モノニハ壓倒セラルヽヲ常トスル階級間ノ競爭ノ狀態トハ、頗ル趣ヲ異ニスル理由カアルカラデアリマス。

是ニ於テ、余輩ハ、競爭制度ノ産業社會ニ於テ、産業組合ノ仕組カ最モ有効適切ナルモノデアル、ト云フコトヲ信セザラント欲スルモ得ヌ次第デアリマス、特ニ組合經營ニ當ル人ハ、組合ニ依テ、競爭ノ弊ヲ矯メル計デナク、又大ニ、其利ヲ擧ゲテ行クコトニ、心ヲ注カネハナラヌコトヽ、信ジマス。

概說

第三章　資金

組合カ事業ヲ開始スルニ當リテハ先ツ資金ヲ要スルヤ論ナク、事業盛大ニ赴クニ從テ又益々其ノ必要ヲ感ス、此ノ資金ハ如何ニシテ得ラルヘキヤト云フニ、其ノ根本ハ

一　出資金

二　借入金

三　寄附金等

四　信用組合ニ在リテハ貯金

ニ待ツノ外ナシ、而シテ事業經營ニ着手スルトキハ

五　事業利益及手數料等

ヲ收入シ、直ニ資金トシテ運轉スヘク、又決算ニ於テ利益生スルトキハ

六　準備金其他積立金(加入金等ヲモ加ヘ)

トシテ積立テラレ、相當利用セラルヘシ

出資金

出資金ハ必ス拂込ムコトヲ要スル組合員ノ義務出金ニシテ、一口乃至十口ノ範圍ニ於テ之ヲ定ムヘシ、且ツ一口ノ金額ハ普通五十圓ヲ超ユルコトヲ得ス（法第十七條規則第一條）サレハ一組合員ノ引受ケ得ヘキ出資金拂込額ハ五百圓ヲ超ユルコトナシ、若シ各組合員皆五百圓ヲ拂込ムモノトセハ十人ニテ五千圓、二十人ニテ一萬圓トナリ、組合ノ資金トシテハ本邦ノ經濟程度ニ在リテハ不足ナリト云フヲ得ス、然レトモ以上ノ如キハ實ニ最高限ニシテ一般ノ場合ニ於テハ各斯ノ如カラサルノミナラス、又實ニ斯ノ如ク爲シ得サルナリ、何トナレハ斯ク爲シ得サル程ノ中產以下ノ人ニ向テ產業組合ノ必要ハコレ有レハナリ、即チ出資金ノ總額甚タ大ナラサル所以ニシテ、組合カ單ニ此金額ニノミ賴リテ其ノ事業ヲ營ムコトノ容易ナラサル次第ナリ、況ンヤ未タ出資ノ拂込結了ニ至ラサル設立初期ニ於テオヤ

借入金

是故ニ多クノ場合ニハ借入金ヲ以テ如上ノ必要ニ應セサルヘカラス、組合ハ固ヨリ出資以外ノ財產ヲ有セス、而シテ組合員モ亦中產以下ノ人多ク、纏マリタル抵當物ヲモ有セサルヘキニ拘ラス、如何ニシテ借入ヲ爲スヲ得ヘキヤト云フニ是レ實ニ組合員ノ對人信用及團體ノ力ノ事實ニ現ハルヽ一端ニシテ、組合ノ効力亦偶然ナラサルヲ知ルニ足ルヘシ、農工銀行法第七條ノ二ニ曰ク「產業組合法ニ依リ設立シタル無限責任ノ信用組合購買組合及生產組合ニハ五箇年以內ニ於テ定期償還方法ニ依リ無抵當貸付ヲ爲スコトヲ得」ト、而カモ此ノ貸付ヲ喜フモノ豈ニ獨リ農工銀行ノミナランヤ、而シテ農工銀行以外ニ於テ心良キ融通ノ利便ヲ受ケ得ルモノ豈ニ唯タ無限責任ノ組合ノミナランヤ、信用購買生產三種組合ノミナランヤ、苟シクモ信用ニシテ存センカ、或ハ他ノ團體ヨリ或ハ一個人ヨリ融通利用ノ道決シテ少ナカラサルヘシ、況ンヤ組合ノ隆盛ハ公益ヲ進ム、人誰カ公益ニ資スルヲ喜ハサラン、然リト雖組合ノ事業ハ組合員ノ狀勢ト相伴フテ進マサルヘカラス、不釣合ノ借金ノ爲メニ自ラ身ヲ過マルモノ世間其ノ人ニ乏シカラス、以テ組合項門ノ一針ト爲スヘシ、是故ニ規則第九條ハ一事業年度ニ於テ借入ルヽコトヲ得ヘキ最高金額ハ毎年總會ノ決議ヲ經テ理事之ヲ地方長官ニ屆出ツヘキコトヲ命シタリ、蓋シ過チヲ未發ニ防カントスルノ意也

寄附金等

世間滔々出スモノハ爪垢猶ホ惜シトスルノ今日寄附金等ノ如キ敢テ期待スヘ

キニアラス、然レトモ組合カ公益」ヲ進ムルノ故ニ因リ、其ノ成効ヲ祈ルノ意ヲ表スル特志者亦コレナキニアラス、是レ甚タ喜フヘシ但組合員ハ自助獨立ノ精神ヲ始終一貫スルノ心懸ケ肝要ナリ

富豪ニ望ム

余輩茲ニ一言世ノ富豪家ニ望ムヘキコトアリ、産業組合ハ社會ノ不平等ヲ調和スル性質ヲ備フ、諸氏ソレ自ラ組合員トナリテ組合ノ發達ヲ助ケ、且ツ諸氏ノ産ノ百ノ一ヲ割キ相當ノ利子ヲ付シテ組合ノ資ニ投スルノ法ヲ講セラレヨ、諸氏ノ恐レラルヽ社會不平ノ聲ノ少クトモ一部ヲ休スルヲ得ン、而シテコレ諸氏ノ鄉里ヲ賑ハスノ途ナリ、諸氏ノ名譽タリ、且ツヤガテ、諸氏ノ子孫訓戒ノ一法タリ、是豈ニ諸氏ノ放資ノ一良策ニアラスヤ、

一、出資拂込ニ對シ金錢以外ノモノヲ以テスルコトハ法ノ認ムル所ニアラスト雖、組合外ニ契約ヲ以テ組合員ノ生産品等ヲ集メ此代金ヲ以テ出資ニ充ツルノ法ヲ開クコトハ固ヨリ妨ナシ、而シテ是地方ニヨリテハ大ニ適切ナル事項ナルヘシ

一、餘裕金ノ處置ニ付テハ第四章中「金額及擔保」ノ項下ニ記セシモノアリ參照ヲ望ム

第四章　信用組合

性質

信用組合ヲ云々スル者ハ必ス所謂信用即チ對人信用ニ付テ深キ注意ヲ爲サヽルヘカラス、何トナレハ對人信用ハ信用組合活動ノ基礎ナレハナリ

信用組合ノ目的ハ「組合員ニ産業ニ必要ナル資金ヲ貸付シ及貯金ノ便宜ヲ得セスムルコト」ニ在リ、即チ産業資金ノ貸付及貯金ニ關スル事業ヲ營ムモノニシテ且ツ貸付及貯金ノ兩者ハ組合カ必ス兼ネ營マサルヘカラサル要件タリ、故ニ單ニ貸付ノミヲ爲シ又ハ單ニ貯金ノミヲ取扱フカ如キハ是レ信用組合ノ本義ニ協ハサルナリ、然リ而シテ貸付モ貯金モ共ニ組合員ニ限リ取扱フヘシ、若シ夫レ組合員外ノ者ニ貸付シ組合員外ノ者ノ貯金ヲ取扱フハ是レ信用組合ノ爲スヘカラサル事ニシテ法律ノ禁スル所タリ、貯金ノ如キモ組合員ノ家族ノ分ナラハ差支ナカルヘシト論スル人モアランカナレトモ、家族ナリトテモ其ノ名義ヲ以テ預ケ入ルヽハ固ヨリ法ニ協フモノニアラス(組合員カ通帳數冊ヲ受取リ其ノ名義ヲ以テ其ノ家族ノ貯金ヲ各別ノ通帳ニ依リ預ケ入ルヽハ差支ナカラン)斯

ノ如ク總テ組合員ニ限ルコトハ組合ノ特異ナル性質ニシテ深ク注意スヘキノ點ナリ、之ヲ普通ノ銀行等ニ比スレハ其間大差アルヲ知ルヘシ

以上說クカ如ク信用組合ハ必ス貸付貯金ノ二種ノ事業ヲ營ムヘク、貸付金ハ必ス產業ニ必要ナル資金ナラサルヘカラサルヲ以テ、組合ノ便益ヲ受クヘキ者ハ產業ニ從事スル者ニ限ラルヽナリ、故ニ信用組合ノ組合員タル者ハ必ス產業者タルコトヲ原則トス(學校敎師、神官、僧侶等カ地方ノ爲ニ、自ラ組合員トナリテ盡力スル如キハ法ニ背クト云フ程ノコトニアラサルヘシ)

貸付用途

貸付ニ關スルコトハ稍複雜ナルカ故ニ之ヲ數項ニ分テ說カント欲ス

(一)用途　貸付ハ產業ニ必要ナル資金ニ限ルヘシ、例ヘハ農業用牛馬、農具、肥料ノ購入費、土地改良費、開墾費ノ如キ或ハ工業用器械、原料ノ購入費ノ如キ是ナリ(舊債償還費ノ如キハ其ノ種類ニ依リテハ固ヨリ差支ナカルヘシ)彼ノ冠婚葬祭ノ費用ノ如キハ產業ニ必要ナル資金ニハアラサルナリ、當事者ハ深ク是ニ注意シ嚴ニ判斷ヲ下シ、苟シクモ情實ニ流レテ理ヲ輕クスルナキヲ期スルト共ニ、貸付ノ目的タル事業ハ果シテ成効ノ見込アルヤ否ヤニ眼ヲ注カサルヘカラス、若シ

夫レ是ヲ度外視シ、組合員ノ來リ請フカマヽニ用途ノ種類モ成効ノ如何ヲモ省ミスシテ貸付ヲ爲サンカ、到底組合ノ盛運ヲ見ル能ハサルコト恰カモ百年河清ヲ待ツカ如ケンノミ

金額及擔保

(二)金額及擔保　金額ハ用途ニ適應スヘシトノ一句ニテ說キ盡セリト信ス、然レトモ是レ實ハ想理ノ標準ニシテ實際ニ於テハ種々ノ故障アルヲ免レス、其ノ故障ノ最モ大ナルモノハ信用(對人信用及對物信用)是ナリ、信用深キ者ニハ金額大ナルヘク然ラサル者ニハ小ナルヘキハ固ヨリ言ヲ俟タス、思フニ信用ハ對人信用ヲ主トスヘキハ勿論ナリト雖、時ニ依リ處ニ依リ各種ノ事情ハ又對物信用ヲ重シトセサルヲ得サル場合ナキニアラス、或ハ一歩ヲ進メテ抵當又ハ有價證券ノ擔保ヲ必要トスル場合モアルヘシ、斯ノ如キハ實際止ムヲ得サル次第ナリトスルモ、可成ハ對人信用ニ近ツカンコトヲ努メサルヘカラス、而モ庶幾クハ保證人制ヲ採用セン哉、信用ニ依リテ貸付ノ要求ニ削減ヲ爲シ又ハ拒否ヲ爲スヘシトセハ如何ニシテ信用ノ程度ヲ定ムヘキヤ、是實ニ重大ナル問題ニシテ當事者ノ意ヲ注カサルヘカラサル所ナリ、模範定款ノ定ムル如ク信用評定委員ノ設ケア

リテ時々會合シテ各組合員ノ信用程度表ヲ作成シ之ヲ理事ノ座右ニ備フルカ如キ亦良好ナル手段ナルヘク、又總會ニ於テ無記名投票ノ法ニ依リ相互ニ程度ヲ定ムルモ一法ナルヘシ、而シテ信用程度査定ノ標準ハ可成對人信用ニ重キヲオクヘキヤ固ヨリ論ナシ

種々ノ考慮ニ依リテ正當ナル金額ヲ定ムト雖、時トシテ多大ノ貸付ヲ爲スノ弊生セサルニアラス、元來中産以下ノ産業者ノ資金トシテハ決シテ多大ナルヲ要セサルニ、時トシテ多大ナルモノアルカ如キハ其理必スヤ情實其他秘密ノ伏在スルニ由ラスンハアラス、法律ハ此種ノ弊ヲ防カンカ爲メニ一事業年度ニ於テ一組合員ニ貸付スルコトヲ得ヘキ最高金額ハ毎年總會ノ決議ヲ經テ地方長官ニ報告スヘキ旨ヲ命セリ(規則第九條)注意スヘキノ點ナリ

信用組合ニ在リテ一ノ不便ナル點ハ、産業殊ニ農業資金ナルモノハ、大抵其入用ノ時期ヲ一ニスルコト是ナリ、例ヘハ肥料ノ購入ノ如キ然リトス、故ニ組合ニ於テハ多クノ貸出ヲ爲スヲ要スル時期ト然ラサル時期トアリ、從テ必迫ノ場合ト緩慢ノ場合ト懸隔甚タ大ナリト云フヘシ、故ニ慢緩ナル場合ニ於テハ丁度其ノ時期ニ於テ融通ヲ要スル他種ノ組合ノ便宜ヲ計ルヲ得ハ、双方共ニ好都合ナルヘシト考ヘラルレトモ、信用組合ハ組合員外ニハ預ケ金ハ差支ナケレトモ貸付ヲ爲スヲ得ス、又他種ノ組合ハ借入金ハ差支ナケレトモ預リ金ヲ爲スヲ得サル力故ニ、直接如上ノ便宜ヲ計ルノ途ナシ、タヽ他種ノ組合ヲ信用組合ノ組合員ト爲スヲ得タル場合ニ於テハ前述ノ不便ナカルヘシト雖、斯ノ如キハ大ニ實際上ノ考慮ヲ爲シタル後ニアラサレハ決行シテ反テ不可ナルコトモアラン、組合若シ餘裕金アラハ信用アル一個人又ハ銀行ニ預ケ置クコト是レ幼稚ナル組合ニ於テ一般普通ノ法ナリ

組合進歩スルニ從テ相互金融ノ便益ヲ計ル爲ニ、聯合シテ中央金庫ヲ設立スルノ域ニ達スヘシ、中央金庫ノ制度ニ就テハ追テ卑見ヲ開陳スルノ機アルヘシ

償還期限

(三)償還期限　是亦用途ニ適應スルヲ必要トス、例ヘハ稲作肥料ノ資金ノ償還ハ稲ノ收穫後ナルコトヲ要ス、餘リ短カキニ失スルハ宜シカラス長キニ失スル固ヨリ不可ナリ、要ハ貸付資金ニ因ル利益ヲ組合員カ收入スル時期ヲ目安トスヘシ、月賦償還ノ如キ事業ノ如何ニ依リテハ甚タ良好ナル方法ナリ

利子

(四)利子　西洋ニ於ケル信用組合ノ濫觴ハ、中産以下ノ産業者ヲシテ高利貸ノ非道ヨリ逃レシムルニアリシ、我カ信用組合亦固ヨリ低利ノ資金供給ヲ以テ主眼トス、然ラハ幾何ノ利率ニテ可ナルヤト云フニ余輩ハ左ノ一語ヲ提シテ自ラ安ンス、曰ク、利率ノ程度ハ其ノ資金ヲ利用スル産業ノ利益ノ率ヨリモ大ナルヘカラスト、然レトモ若シ事情ノ許スアラハ利率多少高クトモ甚シキ不可ナキカ如シ、何トナレハ高キ利率ハ組合ヲ利シ組合ノ利ハ組合員ノ貯蓄ナレハナリ、タヽ如何ナル場合ニ於テモ普通市場ノ利率ヨリモ高カルヘカラサルハ原則トスヘシ、勸業銀行農工銀行ノ利率ハ參考スヘキナリ

制裁

元來種々ノ重要ナル條件ニ基キテ貸付ヲ爲シタル以上ハ、其等ノ條件ニ違フアラハ嚴重ナル制裁アルヘキハ固ヨリ當然ノ理ナルノミナラス、又秩序的精神ヲ養フ一助タラサルニアラス

(一)資金ヲ豫定ノ用途ニ用ヰサル片、又ハ豫定ノ事業ニ誠實ニ從ハサル片ハ直チニ資金取戻シヲ爲スヘシ、或ハ一歩ヲ進メテタトヘ豫定ノ通リ遂行ノ途ニ在リト雖、其他ノ事柄ニ於テ不都合ナルアラハ同シク制裁ヲ爲スモ可ナラン

貯金

(二)償還期限ヲ經過シ尚ホ遲延スルトキハ、相當ノ理由ナケレハ嚴ニ制裁ノ途ヲ設クヘシ

(三)事情ノ不正ナルト否トヲ問ハス、償還ヲ爲サヽル場合又爲シ能ハサル場合ニ於テハ、若シ保證人アラハ假借スル處ナク支拂ヲ爲サシムヘシ、事情實ニ憫然ナルカ如キ場合ニ於テハ同情救護ノ法ハ他ニコレアルヘシ、組合ノ事業ニ缺點ヲ與フヘカラス、而シテコレ組合員相互監視ヲ進ムルニ大ニ力アルモノナリ

法律ノ規定ニ依レハ「貯金ノ便宜ヲ得セシムルコト」トアリ、サレハ組合カ自ラ貯金ノ預リヲ爲サス單ニ其ノ取次ヲ爲スノミニテモ不可ナシト云フヘシ、然レトモ是表面上ノ議論ニシテ實際ハ組合自ラ取扱ヲ爲スコトノ最モ利益ナルハ特ニ云ヲ俟タサルヘシ、然リ而シテ組合員ノ懷中ニ殘ル零碎ノ金錢ハ何ニ費シタリトナク何時シカ消エテ跡ナクナルモノヲ、集メ〳〵テ大勢力ト爲スコトノ極メテ大切ナル所以ニ付テハ、茲ニ蛇足ヲ加フルニ及ハサルヘシ

貯金ヲ爲ス方法ニ二アリ一ハ組合員ノ隨意ニ任シ二ハ强制シテ爲サシム、前者ハ説明ヲ要セサルヘシ、後者ハ例ヘハ月々何程トスルカ如ク、或ハ或ル一定ノ仕

事ニ成効シタルトキハ、何程トスルカ如シ、猶ホ他ノ方面ヨリ分類スレバ當座貯金ト定期貯金トアリ、組合ハ常ニ拂戻ニ差支ナキ準備ヲ爲シオカサルヘカラス

貯金ノ利率ハ貸付金利率ト相當ノ懸隔ヲ保ツヘシ、而シテ利子ハ重利法ニ依リテ元金ニ繰入ルヽコトヲ要ス、其ノ期限ハ六ケ月又ハ一年、便宜ニ定ムヘシ

効益

今組合事業經營ニ依ル組合員ノ利益如何ヲ考フルニ、無形ノコトハ姑ク之ヲ措キ有形ノ上ニ於テハ、各組合員ノ出資ハ貸付金トナリ不用ノ所ヨリ有用ノ所ニ融通セラレ、金融上隣保相助ケ、適當ノ利率期限ヲ以テ資金ヲ得ルコト、及零碎ノ資財ヲモ容易ニ之ヲ蓄積シ得ルコト是第一也、且例ヘハ十圓ノ出資ヲ爲シタル組合員カ同シク十圓ノ貨付ヲ要求シ得ルトセハ、之ヲ組合ニ出資セストモ自分ノ金庫内ニ藏メオカハ常ニ利用スルヲ得テ反テ利ナルカ如シト雖、而カモ金庫内ノ金ハ利ヲ生マサルヲ如何セン、組合ニ資スレハ其ノ金ハ常ニ運轉セラレテ絶エス利ヲ生スヘシ、貯金ニ於テモ亦固ヨリ然リ、然ラハ之ヲ銀行等ニ預ケオクハ如何ト云フニ、銀行ニ於テハ常ニ多少ノ利ヲ生スレトモ、利子ノ幾分及其金ヲ基トスル企業益ハ銀行ノ所有ニ歸シテ預ケ人ニ關係アルコトナシ、然ルニ信用組合ニ於テハ是等諸種ノ利益ハ皆組合員ノ利益タルナリ、組合ノ効益小ナリトセンヤ(無形ノ利益ニ付テハ已ニ大概ヲ説キタレハ玆ニ省ク)

信用組合ト農村

信用組合ノ事業前述ノ如クナルカ故ニ、金融意ノ如クナラサル地方ニ於テ最モ其ノ設立ノ必要ヲ見ル、熟ラ社會ノ現狀ヲ觀スルニ、金ハ田舍ヨリ都會ヘ〳〵ト移流スルノ傾向アリ、例ヘハ郵便貯金ニ於テモ銀行貯蓄ニ於テモ、農村ノ餘裕ノ金ハ其融通セラルヽ場處ハ都會ナリト云フヲ得ヘシ、コレ世勢ノ然ラシムルトコロナリトハイヘ、又必スヤ相當ノ金融貯蓄機關ノ缺如セルニ因ラスンハアラス、サレハ農村ニ於ケル餘裕ノ金ハ成ルヘク之ヲ農村ニ止メオキ、相當ノ利ヲ生ムト共ニ常ニ之ヲ融通シ得ル有樣ニ爲シオクノ必要アリ、而シテ都會ニ於テハ特ニ農村ニ於ケルカ如ク缺乏ヲ感スルコトハアラス、コレ農村ニ於テ經濟上特ニ信用組合ノ必要ナル所以ナリ

産業組合ハ單純ナル經濟機關ニアラサルコトハ、前幾度カ之ヲ述ヘタリ、而シテ就中信用組合ハ無形ノ效果ヲ奏スル上ニ於テ最モ有力ナルコトハ、外國ノ實例ニ照シ又理ヨリ推シテ當ニ然ルヘキコトナリトス、而シテ其ノ効果ハ組合ノ組

織(責任)ニ大ナル關係ヲ有ス、要スルニ組合ト組合員トノ利害關係極メテ密接ナルコトヲ必要ナリトス、余輩ハ信用組合殊ニ農村ニ於テハ悉ク無限責任ノ組織ヲ採用センコトヲ希望シテ止マサルナリ

一、無限責任ハ例ヘハ正宗ノ刀ナリ、其ノ用ヲ過ツコトナクンハ之ニ加ケモノナシト雖、力足ラサルニ於テハ之ヲ手ニスルコト、我社會ノ現狀ニ鑑ミレハ安全ナラサルモノナシトセス、理事ノ私心アル者アルカ如キ場合是也

一、獨逸ニ於テル信用組合ノ經營法ニ就テハ、ライフアイゼン氏ノ法及シユルチエ氏ノ法ノ二種アリテ利害得失ノ論盛ナリ、前者ハ農村ニ大ニ光ヲ放チ、後者ハ都會ニ發達セリ、本章説ク所ハ殆ントヲ氏ノ法ニ一致ス、第十九章ヲ參照スヘシ

性質

第五章　販賣組合

販賣組合ノ目的ハ組合員ノ產業又ハ經濟ノ發達ヲ企圖スル爲メニ「組合員ノ生產シタル物ニ加工シ又ハ加工セスシテ之ヲ賣却スルコト」ニアリ、即チ組合ニ於テ取扱フ物品ハ必ス組合員ノ生產シタルモノナラサルヘカラス、組合員外ノ生產ヲ取扱フコトハ雷ニ違法ノ處置タルノミナラス、實ニ共同販賣ノ本旨ニ違フモノナリ、販賣組合ハ法文ノ解釋上二種ニ分タル

一、組合員ノ生產シタル物ヲ賣却スルコトヲ目的トス

二、組合員ノ生產シタル物ニ加工シ之ヲ賣却スルコトヲ目的トス

三、組合員ノ生產物ニ加工シタル物及加工セサル物ヲ賣却スルコトヲ目的トス

何レノ種類ニ於テモ組合ノ取扱フヘキ物品ハ組合員ノ生產物ナラサルヘカラサルカ故ニ、組合員ハ必ス或ル物ノ生產者ナラサルヘカラス、サレハ組合員ハ組合設立ノ爲メニ實際上、生產、加工(第二第三種ノ組合)及賣却ナル三段ノ業ヲ爲ス

モノト見ルヲ得ヘシ

販賣組合ハ諸種ノ產業組合中經營最モ困難ナルモノヽ一ナリ、コレ賣却ノ好機ヲ見ルノ困難ナルト生產物ハ組合員ノ經濟上主タル財源ナルトニ依ルカ如シ、其ノ故如何ト云フニ、相場最高ノ時期ヲ見ルハ固ヨリ困難ナル上ニ、或ル組合員ハ若シ組合ニ依ラスシテ自ラ賣却セシナラハ猶ホ好結果ヲ得タルヘシト思フモアリ、或ハ生產物品等査定ニ自惚心ヲ起シ乃至生產物ハ自家經濟榮枯ノ分ルヽ、財源ナルカ故ニ、可成自己ノ手元ニ置キ心一ツニ處置ヲ爲サント考フルモアリテ、組合ニ信賴セサル向キ尠ナカラサルヘク從テ組合ノ事業圓滑ニ運ハサルニ至ルヘシ、斯ノ如キハ人情實ニ止ムヲ得サル點アリト云フヘキナリ、サレハ販賣組合ノ効果ヲ收メンニハ事業經營ニ機敏ナルハ勿論、又必スヤ先ツ大ニ組合員タルヘキ者ノ共同心ヲ喚起シ、相互保險ノ性質ヲ知得セシメ、以テ永久ノ利益ヲ占ムルコトニ考ヘ及ハシムヘキナリ

事業

加工セスシテ賣却スル場合ト然ラサル場合トヲ問ハス、組合ト組合員間ノ物品ノ受授ニ二樣ノ方法アリ、(一)組合員カ組合ニ委托スルコト(二)組合員カ組合ニ賣却スルコト是ナリ、即チ賣買成立セサル場合ト然ラサル場合アリト知ルヘシ、前者即チ「委托」ノ場合ニ於テハ物品ハ組合ノ手ニ渡リテモ其ノ所有權ハ依然トシテ組合員ニ存在シ、其儘賣却セラルヽカ故ニ、組合ハタトヘ自己ノ名ヲ以テ之カ賣却ヲ爲スト雖其ノ實ハ賣買ノ媒介ヲ爲スモノト云フヲ得ヘシ、而シテ後者即チ「賣却」ノ場合ニ於テハ物品ノ所有權ハ確然組合ニ移ルカ故ニ、物品一度組合ノ手ニ歸セハ組合員ハ之ニ對シ何等直接ノ權利ナキモノトス、今序ヲ逐フテ說明ヲ進メント欲ス

第一種組合

(一)組合員ノ生產シタル物(加工セス)ヲ賣却スル場合

(甲)組合ト組合員トノ間ニ賣買成立セサル場合(委托)

此場合ニ於ケル組合ノ事業ハ左ノ數段ニ分タルヘシ

一、組合員ヨリ物品ヲ受取ルコト

此事ハ(イ)如何ナル時期ニ(ロ)如何ナル場處ニ於テ(ハ)幾何量ノ如何ナル品質ノ物品ヲ(ニ)組合員ニ其代價又ハ賣却ノ時期ヲ指定セシメ又ハセシメスシテ受取ルヤノ問題ナリ

(イ)時期ノ問題ハ全ク組合員ノ隨意ニスルカ、又ハ時期ヲ限リテ其ノ間ニ於テハ隨間ニスルカ、或ハ全ク組合ニ一任スルカ等ニ依リテ定マラサルヘカラス、其ノ利害ノ如キハ物品ニ依リ又地方ノ狀況ニ從ヒ一定セスト云フヘシ(ロ)場處ノ問題ハ組合ニ倉庫ヲ備ヘ組合員ヲシテ持來ラシムルカ、又ハ組合ノ指定ノ場處(停車場海港等)ニ組合員ヲシテ持來ラシムルカ、或ハ組合員ノ私宅ニ於テ受取ルカ等ニ依リ定マルナリ、(ハ)數量ノ問題ハ生産物ハ總テ組合ニ委托スヘキモノト(定款ニテ定ムル)スルカ、又ハ組合員ノ隨意ナルカニ依リテ定マル、然レトモ組合ノ精神ヲ察シ其ノ隆盛ヲ企圖スル以上ハ生産物ハ悉皆之レヲ組合ニ提供スルヲ要ス、而シテ品質ノ等級ヲ定ムルコトハ亦困難ナル問題ナリ、理事又ハ理事ノ指揮ノ下ニ於ケル專門技術者ニ一任スル方簡便ナルヘシ、其檢定ハ組合ニ於テモ組合員ノ自宅ニ於テスルモ妨ナシ、(ニ)代價ハ組合員ヲシテ指定(商法第三百十六條參照)セシムルモセシメサルモ妨ナシ、然レトモ組合ノ事業ハ取リモ直サス組合員ノ事業ナルカ故ニ、代價ノ指定ヲ爲サシメサル方可ナルヘシ、賣却ノ時期亦同シ

茲ニ一ノ注意スヘキコトアリ、物品ニ對スル火災其他危險ノ負擔是ナリ、全ク組合員ノ負擔トスルカ又ハ已ニ組合ニ受取リタル以上ハ組合ノ負擔トスルカ、思フニ後者ハ穩當ナルベシ

二、物品ヲ整理貯藏スルコト

物品ヲ受取リタルトキハ、之ヲ賣却ニ適スル樣ニ整理シ(物品ノ種類ニ依リテハ改裝混合等ノ必要アルヘシ、是等ノ處置ニ對シテハ組合員ニ異議ナキ樣豫シメ定メ置クヘシ)且ツ賣却好機ノ至ル迄之ヲ貯藏セサルヘカラス、此ノ爲ニ相當ノ器具、倉庫、其他ノ設備ヲ要スルコトアルヘシ、(獨逸ニ於ケル穀物ノ販賣組合ノ如キハ壯大ナル倉庫ヲ有シ、完全ニ貯藏スト云フ)貯藏所ハ停車場、港等販賣上便宜ノ地ニ設クヘシ、而シテ組合自ラ之ヲ設ケサルトキハ、他ノ倉庫ニ依ルノ外ナシ

三、組合カ物品ノ賣却ヲ爲スコト

組合カ最好ト認ムル時機ニ於テ、可成仲人ノ手ニ渡サス大需要者ニ賣却スレハ可ナリ或ハ自ラ小賣ヲ爲スモ可ナリ、凡ソ取引ニ最モ肝要ナル心得ハ信用ナリ永久ノ利益ヲ慮ルニアリ、是等ノコト茲ニ詳說スルヲ要セサルヘシ

四、物品代金ヲ組合員ニ支拂フコト

多々ノ組合員ハ物品ヲ組合ニ提供スルニ於テハ直チニ金ヲ得ンコトヲ願フナルヘシ、コレハ無理ナラサルコトナレハ相當ノ額ヲ假渡スルノ準備肝要ナリ(多クハ或ハ借入金或ハ集合セル物品ニ對スル融通金等ヲ以テ)而シテ其ノ額ハ物品見積代金ノ範圍内ナラサルヘカラス、又此金額ニ對シハ代金支拂期日迄相當ノ利子ヲ付スル必要アリ、假渡ヲ爲ス場合ニ於テモ然ラサル場合ニ於テモ代金支拂ノ計算ヲ爲ス期日ハ別ニ差アルモノニアラス、即チ現品賣却ノ後直チニ拂渡スカ或ハ一定ノ時期例ヘハ月末トカ一ケ月越トカニ拂渡スノ類是ナリ、假渡ヲ爲シタル分ニ對シテハ支拂計算ニ際シ差引ヲ爲セハ可ナルヘシ

茲ニ甚タ困難ナル問題アリ、組合カ賣却スル物品ハ皆組合員ノ所有ナルカ故ニ組合カ之ヲ賣却スルニ際シテハ或ル組合員ノ物品ハ賣却セラレタルモ、或ル組合員ノ分ハ賣レ殘ルカ如キコトアルヘク、或ハ組合員カ隨意ニ物品ヲ提供スル場合ニ於テ、早ク提供シタルモノカ賣レ殘リ、遲ク提供シタルモノカ反テ早ク賣却セラル、等ノコトアルヘシ、斯カル場合ニ於ケル代金ノ拂渡ハ如何ニスヘキヤ、賣却セラレタル物品ノ所有者ニ對シテノミ拂渡ヲ爲ストセハ簡便ハ簡便ナリト雖不公平ノ嫌ハ到底免カルヽコト能ハス、況ンヤ物品ノ種類ニシテ賣却スルニ際シテ、誰彼ノ所有タルヲ問ハス混合シ一團トセサルヘカラサルモノニ於テハ、到底前記ノ方法ニ依ルコト能ハサルヲ知ルヘシ、故ニ斷然左ノ方法ニ從フヲ最モ適當ナリト信ス、即チ物品ノ數量品等ヲ檢定シテ組合ニ受取リタル以上ハ、其物品ノ誰彼ノ所有タルヤハ帳簿上ニ殘リ居ルノミニテ、現品ハ一團ト爲シ所有ノ區別ヲ存セサル約束ニ依リ、之ヲ賣却シタルトキハ受付ノ順序ニ依リ數量品等ニ應シテ配分スルノ法是ナリ、其ノ細密ナル點ハ當事者便宜考案ヲ立ツヘキナリ

賣切代金中ヨリ歩合金トシテ其ノ幾分ヲ組合ニ收メテ事業ノ經營ニ充ツルコトヲ要ス、其ノ法ハ各組合員ニ付キ一々計算セストモ總賣却代金ノ何分ヲ引去レハ可ナリ、猶ホ代金ハ悉ク之ヲ組合員ニ拂渡シ、別ニ組合員ヨリ金錢ヲ取立ツルノ法等アルヘシト雖、手數ノ煩雜ナルノミニシテ道理ハ一ナリ、歩合金ハ組合設立ニ因リ得ヘキ利益割合ノ範圍内ニ在ルヲ必要トス、而シテ歩合金ハ之ヨリ

組合諸經費ヲ控除シタル殘ハ組合財産トシテ積立ツヘク、又其ノ一部ヲ年度末ニ販賣高又ハ持分ニ應シ配當スルモ可ナリ

（乙）組合ト組合員トノ間ニ賣買成立スル場合

即チ組合員ハ組合ニ物品ヲ引渡シタル以上ハ、最早其ノ物品ニ對スル所有權消滅スルモノトス、此場合ニ於テ特ニ注目スヘキ點ハ、組合ト組合員トノ間ニ於ケル賣買ノ代價ナリ、組合員ハ組合ノ利益ハ自己ノ利益ナリトハ云ヘ、必ス先ツ高ク組合ニ賣ラントスルハ人情ノ自然ナルヘク、組合理事者ハ又其組合ノ目的組合員ヲ利スルニアリトハイヘ、自己ノ効蹟ヲ殘サンカ爲メニ安ク買ハントスルハ人情ノ自然ナルヘシ、是ニ於テカ組合ト組合員トノ間ニ多少ノ衝突アルヲ免カレサルヘシ、然リ而シテ組合ハ物品ヲ買入レテ賣却スルカ故ニ、時トシテ相場ノ下落ニ依リ大ナル損失ヲ招クコトアルヲ覺悟セサルヘカラス、要スルニ此方法ニ依ル組合ハ投機ノ性質ヲ帶ヒ危險ノ分子ヲ含ミ基礎確カナラス、故ニ特別ノ事情習慣アル場合ニアラサレハ事業圓滑ナラサルヘク、採用スヘキニアラサルナリ

第二種組合

事業ノ順序等ハ細說スルノ必要ナカラン

（二）組合員ノ生産シタル物ニ加工シテ之ヲ賣却スル場合

（甲）組合ト組合員トノ間ニ賣買成立セサル場合（委托）

第一種組合（甲）ト異ナル點ハ「加工」スルコトニアリ、即チ組合ハ加工ニ要スル設備ヲ爲サヽルヘカラス、例ヘハ組合員ノ生産シタル玄米ヲ組合ニ集メテ精白シ之ヲ賣却スル爲メニ、組合ハ精米場及勞役者ヲ備フルカ如シ、加工ノ事業ハ元來生産組合ノ一目的ナリ、故ニ本組合ハ一ノ生産販賣組合ト見ルモ可ナリ、サテ加工ノ設備ニ對シテハ固ヨリ相當ノ料金ヲ收ムルノ必要アリ、特別ニ徵收スルモ可ナレトモ、賣却代金支拂ニ際シ歩合金ニ加ヘ收ムルヲ簡便ナリトス、又加工ニ要スル勞役者ノ如キハ可成組合員中ヨリ之ニ充ツルヲ相互ノ利益ナリトス

其他ノ事ハ第一種組合ヲ、又「加工」ノコトニ付テハ第七章生産組合ヲ參照セラレヨ

（乙）組合ト組合員トノ間ニ賣買成立スル場合

物品ヲ組合ニ買取リテ後加工スヘキナリ、特ニ說クノ必要ナカラン

第三種組合

(三)組合員ノ生産物ニ加工シタル物及加工セサル物ヲ賣却スルコト

第一第二種組合ヲ參照スレハ自ラ明カナラン、本組合ハ多クノ種類ノ物品ヲ取扱フ場合ニ於テ必要ナリ

効益

販賣組合事業ノ困難ナルコトハ前ニモ少シク說キシカ如シ、然レトモコレ世俗ノ通弊ニ由ル困難ニシテ、苟シクモ經濟上ノ考慮ニ吝ナラス其ノ經濟的地位ヲ進メントスル者ハ、此ノ困難ヲ排除スルコト決シテ困難ナラスト信ス、思フニ生産者ノ爲メニ最モ患フヘキコトノ一ハ、生産物ヲ個々別々ニ賣却スルカ故ニ種類品質不同ニシテ且ツ多量ナラサルヲ以テ、高價ニ賣ルヲ得ス、又金錢ノ需要ト貯藏ノ不備トニ因リ、好機ニ至ル迄物品ヲ保留スル能ハスシテ所謂「買倒サレ」ノ狀況ニアルコトコレナリ、方今經濟界ノ變遷實ニ目ノ覺ムル許リニシテ共同ニ次クニ共同ヲ以テシ、諸般ノ大勢ヲ支配セントスルノ勢愈盛ナリ、生産者ニシテ自己ノ地位ヲ高メント欲セハ、必スヤ其生産物價ノ支配者タルノ域ニ進マサルヘカラス、所謂「買倒サレ」ノ狀況ニ在リテ何ソ能ク社會ノ進歩ニ伴フヲ得ンヤ、サレハ深ク大勢ニ着眼シ遠ク永久ノ利害ヲ思ハサルヘカラス、而シテ「買倒サレ」ノ地位ヲ脫シ高價ヲ得ンニハ採ルヘキ方策ノ主要ナルモノハ必スヤ共同ニアルコトヲ疑フヘカラス、共同シテ物ヲ賣ル是レ販賣組合ノ主旨ナリト知ルヘシ

販賣組合ノ設立ニ依リ組合員ノ利スルトコロ一ニシテ足ラス、相場上ノ利益及企業益ヲ得ルコトハ勿論、加工ノ場合ニ於テハ賃銀(加工ニ對スル)企業益ヲ併セ取ルヲ得ヘク、又個々ノ賣却ノ場合ニ比スレハ多クノ時間勞費ヲ節スルヲ得ヘシ、且ツヤ共同販賣ノ効果ハ(時ニ賣却ノ好機ヲ誤マルコトハ誰ニシテモアルコトナリ、組合ニ於テモ免カレサルコトナリト雖、少クトモ同一時期ニ於テハ)最高ノ價ヲ得ヘキノミナラス、又個々ノ賣却ヨリ起ル損失又ハ危險ニ對シ大ニ相互保險ノ實ヲ擧ケ得ヘク、以テ永久ノ勝利ヲ期スルヲ得ヘシ、猶且ツ共同販賣ノ結果ハ品質檢査及利得ノ必要ヨリ生産物品質種類ノ改善整頓ヲ期スルヲ得ヘキナリ、以上說クトコロハ次章購買組合ニ參照スヘキノ點尠ナカラサルヘシ

人或ハ曰ク販賣組合ノ事業ハ甚タ危險ナリト、余輩思フニ其ノ事業ニシテ組合ト組合員トノ間ニ賣買成立スル場合ニ於テハ、組合ノ危險ハ時トシテ是アルヘシ、然レトモ賣買成立セス委托ノ主義ニ依リ歩合金ヲ收ムルトキハ決シテ危險

ナキノミナラス、恐クハ諸種ノ組合中最モ安全ナルモノナルヘシト、何トナレハ賣却スヘキ物品ノ數量ノ多少又ハ相場ノ高低ヤ決シテ甚シキ差アルモノニアラス、而シテ組合ハ常ニ歩合金ヲ以テ其ノ收入ト爲シ又特別ノ支出ヲ要セサルカ故ニ極メテ僅少ノ利害ノ外其ノ經濟ヲ攪亂スルノ元素ナケレハナリ

二三ノ注意

已ニ販賣組合ヲ設立シタル以上ハ、組合ニ於テ取扱フヘキ組合員ノ生産物ハ特別ノ事由ナキ限リハ悉ク之ヲ組合ニ差出シ決シテ個々ニ賣却スル等ノコトアルナキ契約(定款ヲ以テ)ヲ爲シ制裁ヲ附スルハ組合發達上極メテ肝要ナルヘク又組合ノ精神ニ協フモノナリ

取扱物品ノ種類ニ依リテハ、組合ハ或ハ勸工場的賣店ヲ設備スルノ必要ヲ感スル場合アルヘシ

物品代金ノ假渡ハ生産物多額ナル組合員ニ對シテハ多クヲ渡ササルヘカラス、而シテ斯クノ如キ組合員ハ組合經營ノ爲ニ受クル利益モ亦大ナリ、從テ組合ニ對シ多クノ義務ヲ負擔セシムルモ異議アルヘカラス、保證責任組織トナシ以テ等級ヲ附ス如キ、或ハ出資口數ニ等級ヲ附スルカ如キ方法アルヘシ

性質

第六章　購買組合

産業又ハ生計ニ必要ナル物ヲ購買シテ之ヲ組合員ニ賣却シ、以テ組合員ノ産業又ハ經濟ノ發達ヲ企圖ス、是レ購買組合ノ目的ナリ、サレハ購買組合ニ於テ取扱フ物品ハ組合員ノ産業又ハ生計ニ必要ナルモノナラサルヘカラス、産業ニ必要ナル物トハ産業用ノ器具、器械、牛馬、原料、其他諸種ノ有體資本ノ類是ナリ、商業者ノ商品ノ如キハ之ヲ産業ニ必要ナル物トハ云フヲ得ス、生計ニ必要ナル物トハ食料品、家具、什器、其他日用品ノ類是ナリ、之等ノ物品ハ組合ニ於テ購入シ(法律上所有權ノ移轉ニシテ單純ナル媒介ニアラス)之ヲ組合員ニ賣却スルモノトス、而シテ之ヲ組合員外ニ賣却スルヲ得サルコト是レ購買組合ノ特色ニシテ、共同購入ノ主旨ニ基クモノナルコトヲ注意セサルヘカラス

購買組合ハ法文ノ當然ノ解釋トシテ其ノ目的ヲ三種ニ分ツヲ得ヘシ

一、産業ニ必要ナル物ヲ購買シテ之ヲ組合員ニ賣却スルコト

二、生計ニ必要ナル物ヲ購買シテ之ヲ組合員ニ賣却スルコト

三、産業ニ必要ナル物及生計ニ必要ナル物ヲ購買シテ之ヲ組合員ニ賣却スルコト

而シテ三種トモ組合員ノ産業又ハ經濟ノ發達ヲ企圖スルモノ也、依是觀之、唯一ノ例外ヲ除キ其他ノ購買組合ニ於テハ、之カ組合員タル者ハ總テ産業者タルヲ必要トスルナリ、何トナレハ産業者ニ非スシテ産業ニ必要ナル物ヲ購買シ又ハ産業ノ發達ヲ企圖スル必要ナケレハナリ、然ラハ一ノ例外ハ如何ト云フニ「生計ニ必要ナル物ヲ購買シ之ヲ組合員ニ賣却シ以テ組合員ノ經濟ノ發達ヲ企圖スル」ヲ目的トスル購買組合ニシテ、所謂生計用品ノ消費組合是也、此目的ニ由ル組合ニ於テハ法文上別段ノ制限ナキカ故ニ、官吏ニテモ勞働者ノ如何ナル類ニテモ其他誰人ニテモ經營スルヲ得ヘシ、然レトモ元來産業組合ノ精神ハ明白ナリ、苟クモ斯ノ精神ニ協ハスンハ例ヘ法文ノ咎ムルナキモ行政權ハ猶ホ伸長スルヲ得ヘシ、宜シク人選ニ注意シ信用ヲ保持シ以テ圓滿ナル發達ヲ期スヘキナリ

事業

事業ハ之ヲ二段ニ分ツヲ得ヘシ(一)購買シ貯藏スルコト(二)賣却スルコト是ナリ、今序ヲ逐フテ少シク説クトコロアラン

購買貯藏

購買組合事業ハ組合員ノ共同購買ノ主旨ニ基クモノナルコトハ前已ニ之ヲ述ヘタリ、唯タ異ナル所ハ表面上ニテハ組合員ト供給者トノ間ニ人格ヲ備フル組合ノ介在スルアルノミ、然リ而シテ組合カ物品ヲ購買スルニハ種類數量等ハ如何ニ見込ヲ立ツルヤト云フニ、(一)組合員ノ注文ニ應スルカ(二)組合員ノ需要ヲ調査シ組合自ラ見込ヲ立ツルカノ二途ニ出テサルヘカラス、組合員ノ注文ニ應シテ購買スレハ最モ簡易ナリト雖、物品ノ種類ニ依リテハ一々注文ヲ集ムルカ如キハ、徒ラニ煩雜ヲ加フルノミナラス、又購買ノ好時期ヲ逸スルノ虞尠シトセス、例ヘハ農具、種苗、蠶種、肥料、或種ノ原料、器具、器械等購買ノ過不足ハ、組合又ハ組合員ニ多大ノ迷惑ヲ及ホスカ如キ又ハ貯藏ニ困難ナル如キ物ハ、可成豫メ注文ヲ集メテ購買ノ好機ヲ待ツヲ可トシ、食料品日用品等組合員需要ノ過不足ニ對スル處置、割合ニ容易ニ、貯藏モ困難ナラス、且ツ注文ヲ集ムルニ困難ニシテ時々購買ヲ要スルカ如キ物ハ、組合ノ見込ニテ時機ヲ察シ購買シ置ク方便宜ナルヘシ、當事者宜シク如上ノ事情地方ノ習慣等ヲ察シ輕便有効ノ法ヲ定ムヘキナリ、而シテ物品ハ可成仲人(生産者ト消費者トノ間ニ立ツ者)ノ手ヲ經サルモノヲ、直接

ニ購買スルノ利益ナルハ特ニ說クヲ要セサルヘシ

物品ヲ賣却スル迄相當貯藏ノ設備アルコトヲ要ス、英國ニ於ケル購買組合(我カ購買組合トハ稍ヤ其ノ仕組ヲ異ニス)ハ著シキ發達ヲ爲シ殊ニ都會ニ於テ其ノ然ルヲ見ル、而シテ多クハ勸商場ニ類スル賣店ヲ備フ、我カ購買組合ニ於テモ都會又ハ村落ノ稠密ナル地方等ニ於テ日用品食料品等ヲ取扱フ場合ハ、特ニ此種ノ賣店ヲ設備スルノ必要アルヘシ、或ハ組合カ購買シタル物品ハ其購買先ニ預ケオキ組合員ハ組合ノ證票ヲ持參シテ之ヲ引取ルノ法有リ得ヘシト雖、種々ノ弊害ヲ生スル恐レアリ

賣却

購買物品ノ代價ハ直取引ナラハ先ツ金策ヲ爲サヽルヘカラス、營業資本借入金等ニテ猶不足ナラハ、注文物品ニ對シテハ前金ヲ集ムルモ可ナラン、組合ノ信用厚クシテ組合員ヨリ賣却代金ヲ受取リ終ル迄、支拂ノ延期(低利ニテ)ヲ取引先ト約スルヲ得ハ大ニ便宜ナルヘシ

組合己ニ物品ヲ購買セハ如何ニ之ヲ組合員ニ賣却スヘキヤヤ、注意スヘキノ點尠ナカラス、物品ノ種類ニ依リテハ賣却ニ先タチ、荷造ノ更改其ノ他多少手入ヲ爲

スノ必要アルヘシ、是等ハ止ムヲ得サル措置ナリト雖、「加工」ニ亘ル事例ヘハ組合ニ藍染工場ヲ有シ白木綿ヲ購買シ之ヲ染メテ、組合員ニ賣却スルカ如キハ、購買組合ニテハ爲サヽルトコロナリ、コレ共同購入ノ主旨ニ基ク當然ノ結果タリ、若シ加工ノ事ヲモ爲サント欲セハ相當ノ仕組ニ依リ生產組合ノ事業ヲ兼ヌヘキナリ、サテ物品賣却ノ方法如何ト云フニ、物品若シ注文ニ依ルモノナリセハ豫約ノ通リ直ニ賣却スルヲ得ヘシ、但シ此場合ニ於テ注意ヲ要スルコトハ、若シ何時迄モ組合員カ物品ヲ引取ラサルトキノ處置是ナリ、物品ニシテ貯藏ニ堪エ永ク危險損害ノ恐ナキモノナラハ、敢テ大ナル迷惑ナカルヘシト雖、然ラサルモノニアリテハ直チニ引取ラシムルコト肝要ナリ、又組合カ見込ニ依リ隨意ニ購買シタル物品ナラハ之カ賣買ヲ組合員ニ迫ルコトヲ得サルカ故ニ、相當ノ場處ニ陳列シ以テ組合員ノ來リ買フヲ待タサルヘカラス、前已ニ述ヘタル如ク勸工場的賣店ノ設備ヲ要スルハ此ノ種ノ場合ナリトス、家屋密集セサル農村等ニ在リテハ賣店ト名ツクヘキ程ノ設備ハ固ヨリ必要ナカルヘシ此場合ニ於テ注意スヘキコトハ物品ニハ必ス價額(賣價)ヲ附シオクコト是ナリ、日用諸雜貨ヲ取扱フ組

合ニ在リテハ一週間ニ一日或ハ二日等、定期ニ開店スルコトモ妙ナルヘシ注文ノ場合ニ於テモ見込ニ依ル場合ニ於テモ、組合員ニ賣却スヘキ代價ハ如何ニ之ヲ定ムヘキヤハ重要ナル問題ナリ、思フニ組合事業ノ目的ハ組合員ニ安價精良ノ物品ヲ供給スルニアリ、而シテ組合員カ別々ニ購入セハ十圓ノ物品モ組合カ之ヲ購買セハ九圓又ハ八圓ニテ足ルヘシ、其ノ差額一圓又ハ二圓ハ即チ組合ノ經費及ヒ組合又ハ組合員ノ利益トナルモノナリ、サレハ賣却代價ハ之ヲ定ムルニ二樣ノ方法アリト云フヘシ

一、原價ニ組合ノ手數料實費等ヲ加ヘタル價額

二、組合員カ別々ニ購入スル場合ニ於ケルト同シ價額(即チ市價)

前者ニ依レハ組合員ハ平常安價ナル物品ヲ需用スルヲ得ヘシト雖、其ノ安價ナルタケノ金員ハ果シテ彼等ノ手中ニ殘リテ貯蓄サルヘキヤ甚タ覺束ナシト云フヘシ、後者ニ依レハ組合員ハ平常ハ市價ト同シ代價ノ物品ヲ(品質ハ宜シカルヘシ)需用シ敢テ利益ヲ感セサルカ如シト雖、ソレタケノ金員ハ組合ニ殘リ、組合事業年度ノ終ニ於ケル算盤上勘ナカラサル貯蓄トナリ居ルヲ知ルヘシ、コレ取リモ直サス組合員ノ利益ナリ、此利益ハ年度末ニ於テ其幾分ヲ組合員ニ配當(一部ハ賣却價額ニ應セシムルヲ正當トス)スルモ可ナリ、又全ク積立テ置キ、其ノ積立金ニ對スル組合員ノ權利ヲ賣却價額ニ應セシムルモ可ナリ、要スルニ余輩ハ前記二種ノ代價査定ノ方法ハ必ス後者ニ從フノ利ナルコトヲ主張スルモノナリ、何トナレハコレ貯蓄手段ノ本義ニ協ヘハナリ、但シ地方ノ事情ニ依リ臨機ノ處置ハ敢テ咎ムヘキニアラス、

猶ホ注意スヘキハ賣却代金ノ受取時期是ナリ、注文物品ニ於テハ前金ヲ取ルコトモ得ヘシ、思フニ、種々手段ハコレアルヘシト雖、要スルニ主義トシテハ現金賣却ノ方法ニ依ルコト最モ適當ナリト信ス、殊ニ食料品日用品ノ如キニ於テ然リトス、彼ノ掛賣ノ如キハ時トシテ反テ組合員ヲ困難ノ位置ニ陷ルヽコトアルヲ思ハサルヘカラス、唯々器具、器械、肥料等ノ如ク効果必ス現ハレ來ルモノニシテ且ツ代金モ割合ニ纏マリ居ルカ如キモノニ於テ、相當延期ヲ爲シ或ハ月賦等ノ方法ヲ設クルモ實際上便宜ナルヘシ

猶ホ一ノ注意ヲ要スルコトアリ、組合員カ組合ヨリ購買シタル物品ヲ故意ニ他

ニ轉賣シタル場合ニ於ケル制裁是ナリ、斯ノ如キハ固ヨリ組合ノ精神ニ協ハサルノミナラス組合ヲ濫用スルモノナルカ故ニ、相當ノ制裁ヲ爲スハ當然ノコトナリ

効益

購買組合設立ニ依リ組合員ノ得ヘキ利益ハ(一)安價ナルコト(二)品質良好ニシテ買ヒ損シ等ナキコト(三)購買上ノ時間勞費等ヲ減スルコト等ナリ、其然ル所以ハ殆ント自明ノコトニシテ茲ニ蛇足ヲ加フルノ必要ナカルヘシ(販賣組合參照)

購買組合ハ諸種ノ産業組合中事業最モ簡易ナルモノニシテ其ノ利益亦直チニ眼前ニ現ハレ來ル、故ニ諸種ノ事情ニ依リ産業組合設立ニ困難ヲ感スルカ如キ地方ニ在リテハ、先ツ購買組合ヲ設立シテ漸次ニ他ニ及ホスノ得策ナルコトヲ思フ、又工場ニ通勤スル勞働者ノ如キハ信用組合モ販賣組合モ將タ生産組合モ殆ント其ノ必要アルコトナシト雖、購買組合ニ至リテハ甚タ利益アルヘキヲ見ルナリ

性質

組合員ノ生産シタル物ニ加工シ又ハ組合員ヲシテ産業ニ必要ナル物ヲ使用セシムルコトヲ目的トシ、以テ組合員ノ産業又ハ經濟ノ發達ヲ企圖スルモノ、是レ生産組合ナリ、即チ生産組合ハ之ヲ三種ニ分ツヲ得ヘシ

一、組合員ノ生産シタル物ニ加工スルコト

二、組合員ヲシテ産業ニ必要ナルモノヲ使用セシムルコト

三、組合員ノ生産シタル物ニ加工シ及組合員ヲシテ産業ニ必要ナル物ヲ使用セシムルコト

法文ノ明示スル如ク生産組合ニハ二樣ノ事業アリ「加工スルコト及「使用セシムルコト」ニシテ、前者ニ在リテハ加工スヘキ物ハ必ス組合員ノ生産物ナラサルヘカラス、從テ組合員亦必ス生産者タルコトヲ要ス、後者ニ在リテハ使用セシムヘキ物ハ必ス組合員ノ産業ニ必要ナル物ナラサルヘカラス、從テ組合員亦必ス産業者タルコトヲ要ス、而シテ組合ノ事業ハ以上二種ヲ出テス又其及フ範圍ハ組

第七章　生産組合

合員ニ限ルモノナリ、詳言スレハ組合員外ノ生産物ニ加工スルヲ得ス組合員外ニ物ノ使用ヲ爲サシムルヲ得サルト共ニ、「加工」「使用」以外ノ事業ヲ爲スヲ得サルモノトス、

「加工」ト「使用」トハ一見別種ノ性質ヲ備フルカ如シト雖、其實ハ意義確然タル區別ナシ、例ヘハ組合カ水車ヲ備ヘテ組合員所產ノ玄米ヲ精白スルコトハ、組合員ノ生產シタル物ニ加工スルコトナレトモ、一方ヨリ之ヲ見ルトキハ組合員ニ水車ヲ使用セシムルコトナリト云フヲ得、斯クノ如ク兩者ノ間ニ實際上ノ區別ヲ附スルコト甚タ困難ナリト雖、法文ニ之ヲ用ヰタル所以ハ左ノ對比ニ依リテ略之ヲ推知スルヲ得ヘシ

(一) (加工) 組合カ加工スル
　　(使用) 組合員カ使用スル

(二) (加工) 物ハ組合員ノ生產シタル物ナラサルヘカラス即チ「加工スルコト」ハ第二次以後ノ生產ヲ爲スコトナリ
　　(使用) 產業ニ必要ナル物ノ使用ナルカ故ニ「使用スルコト」ハ第二次以後ノ生產ヲ爲スヲ爲サシムルヲ得サルト共ニ、「加工」「使用」以外ノ事業ヲ爲スヲ得サルモノトス、

「加工」ト「使用」トハ一見別種ノ性質ヲ備フルカ如シト雖、其實ハ意義確然タル區別ナシ、例ヘハ組合カ水車ヲ備ヘテ組合員所產ノ玄米ヲ精白スルコトハ、組合員ノ生產シタル物ニ加工スルコトナレトモ、一方ヨリ之ヲ見ルトキハ組合員ニ水車ヲ使用セシムルコトナリト云フヲ得、斯クノ如ク兩者ノ間ニ實際上ノ區別ヲ附スルコト甚タ困難ナリト雖、法文ニ之ヲ用ヰタル所以ハ左ノ對比ニ依リテ略之ヲ推知スルヲ得ヘシ

(一) (加工) 組合カ加工スル
　　(使用) 組合員カ使用スル

(二) (加工) 物ハ組合員ノ生產シタル物ナラサルヘカラス即チ「加工スルコト」ハ第二次以後ノ生產ヲ爲スコトナリ
　　(使用) 產業ニ必要ナル物ノ使用ナルカ故ニ「使用スルコト」ハ第二次以後ノ生產ヲ爲ス場合モアレト第一次ノ生產ヲ爲スコトモアリ

即チ區別判然セサレトモ、極メテ大體ニ於テ

「加工」ハ組合カ組合員ノ生產物ニ精製ヲ加フルコトヲ主トシ

「使用」ハ組合員カ新タニ物ヲ產出スル場合モアリ

ト云フヲ得ヘシ、此事ニ就テハ曾テ大日本農會報第二百四十三號ニ小論ヲ試ミタルコトアリ、參照アランコトヲ望ム

組合ノ事業斯クノ如クナルカ故ニ、組合ト組合員トノ間ニハ物品所有權ノ移轉アルコトナシ、サレハ加工スヘキ物品ノ混合等ヲ爲ス場合ニ於テハ、定款ヲ以テ豫メ異議ナキ約束ヲナシオクコト肝要ナリ

事業

組合ノ事業ハ「物」ヲ異ニスルニ從ヒ、種々特異ノ經營方法アルヘキハ勿論ナリト雖、本章ニ於テハ他ノ各章ニ於ケルト同シク通論的ニ述フルニ止マル

第一種組合

(一)組合員ノ生產シタル物ニ加工スル場合

組合ハ先ツ加工ニ要スル設備ヲ爲サヽルヘカラス、設備ハ固ヨリ組合財產ニシテ器械的ノモノモアルヘク器具的ノモノモアルヘシ、且ツ附帶物トシテ消耗品

ノ必要モアラン、又從テ相當ノ勞役者ヲ要ス、勞役者ハ出來得ヘクンハ組合員中ヨリ從ハシムルヲ得策トナス、次ニ組合員ノ生産物ハ之ヲ組合ニ集合スルヲ必要トスル場合モアラン、又或ハ組合員ノ各戸ニ付キ加工スル場合モアラン、要バ「物」ノ種類ニ依リ差アリ、而シテ組合ノ設備ニシテ一時ニ組合員ノ申込ニ應スルニ不適當ナラハ、加工ノ申込期限等秩序ヲ設ケテ整然不公平ナカランコトヲ要ス、加工ニ要スル勞役ハ前ニモ述ヘタル如ク可成ハ組合員又ハ組合員ノ家族等ヲシテ之ニ當ラシムヘシ、コレ相互利益ヲ進ムルノ助ケタリ、已ニ加工ヲ了リタルトキハ出來上リタル物品ハ之ヲ組合員ニ渡ササルヘカラス、物品ニシテ所有者ヲ明ニスルヲ得ル程ノモノナラハ何等云フヘキコトナシト雖、加工ノ場合ニ於テ混合ヲ要スル カ如キ物品ナルトキハ之カ分配ノ方法ハ豫シメ嚴重ナル契約ヲ設ケオカサルヘカラス、即チ組合ニ受付ケタル當初ノ數量品等ノ如キハ分配ノ標準ト爲ルヘシ

組合ハ其ノ存立ニ必要ナル收入ヲ得サルヘカラス、此種ノ組合ニ於テハ加工ノ程度ニ應シテ一定率ノ加工料ヲ收ムルヲ以テ最モ適當ナル方法ト信ス

第二種組合

(二)組合員ヲシテ産業ニ必要ナル物ヲ使用セシムルコト

組合ハ先ツ使用ニ要スル設備ヲ爲スヘキコト前ニ同シ、設備ハ一定ノ場處ニ備フルモノト、組合員各個持ヲ廻リ得ルモノトノ別アルヘキヤ論ナシ、消耗品ノ如キハ附帶物ナリ、組合員カ此設備ヲ使用セントスルニハ、豫メ約束ニ依リ又ハ時々ノ申出ニ依リ、自ラ使用スル場合モアルヘク或ハ組合ニ托シテ使用(加工ノ場合ト殆ント相同シ即チ實際ノ仕事ハ組合カ爲ス)スル場合モアルヘシ、而シテ事業ノ種類ニ依リテハ各組合員ニ公平ニ使用セシメン爲メニ、使用ノ程度日限等整然タル秩序ヲ設クルノ必要アルヘシ、或ハ使用ノ多少ニ應シ組合員ニ相當ノ義務ヲ負ハシムル爲メ「販賣組合」ノ章ニ於テ述ヘタル如ク保證責任ノ組織ヲ採用シ又出資口數ニ差等ヲ附スルモ可ナラン

組合員ハ設備ヲ使用シタル後ハ正シク之ヲ組合ニ返付スヘシ、而シテ組合ハ使用ノ程度ニ應シ一定率ノ使用料ヲ徵シ以テ其ノ繁榮ヲ期セサルヘカラス

第三種組合

(三)組合員ノ生産シタル物ニ加工シ及組合員ヲシテ産業ニ必要ナル物ヲ使用セシムルコト

効益

第一第二種組合ヨリ類推スルヲ得ヘシ

生産組合ノ利益ハ之ヲ數種ノ方面ヨリ觀察スルヲ得ヘシ、今之ヲ概括スレハ、曰ク高價ナル新規大仕掛ノ設備ヲ容易ニ使用スルヲ得、生産費ヲ減シ且ツ生産品ノ改善整頓ヲ期スルヲ得ヘシ、曰ク新ニ事業ヲ起スヲ得ヘシ、曰ク粗生産品ヲ精製品ト爲スヲ得ヘシ、其ノ細密ナル點ニ至リテハ各種ノ事業ニ就テ特ニ論スルヲ要ス

茲ニ忘ルヘカラサルコトハ、單純ナル生産組合ハ決シテ販賣ノ事業ヲ營ムヲ得サルコト是ナリ

第八章　兼營組合

信用組合ハ單ニ一種ナレトモ、他ノ組合ニハ各三種ノ別アルコトハ前各章ニ於テ述ヘタル所ナリ、而シテ各種ノ事業ハ一組合ノ名ノ下ニ兼ネ營ムヲ得ルカ故ニ、幾多ノ組合成立シ得ヘシ

是等各種ノ組合ヲ代表スル名義及組合種類ノ數ハ左ノ如シ

一、信用販賣組合　三種
二、信用購賣組合　三種
三、信用生産組合　三種
四、販賣購買組合　九種
五、販賣生産組合　九種
六、購買生産組合　九種
七、信用販賣購買組合　十五種
八、信用販賣生産組合　十五種

九、信用購買生產組合　十五種
十、販賣購買生產組合　二十七種
十一、信用販賣購買生產組合　三十六種

備考、右ノ種類數ハ、例令ハ信用販賣組合ニ於テハ

一、組合員ノ產業ニ必要ナル資金ヲ貸付シ及貯金ノ便宜ヲ得セシムルコト(信)及組合員ノ生產シタル物ニ加工シテ之ヲ賣却スルコト(販)ヲ目的トス

二、同上(信)及組合員ノ生產シタル物ヲ加工セスシテ賣却スルコト(販)ヲ目的トス

三、同上(信)及組合員ノ生產シタル物ニ加工シ又ハ加工セスシテ賣却スルコト(販)ヲ目的トス

ノ如ク三種アルヲ以テ、其ノ數ヲ掲ケタルモノナリ

以上ハ二種以上ノ組合ヨリ成立スル產業組合ノ種類ニシテ、總計百四十四ヲ以テ算ス、之ニ信用組合一、販賣組合、購買組合、生產組合各三ヲ加フレハ、百五十四ノ多キニ達ス、苟クモ產業組合タル以上ハ必ス此百五十四種ノ一タラサルヲ得ス若シ或ル事業ニシテ其ノ何レヲモ適用スルヲ得スンハ、是產業組合ノ事業ニアラサルナリ、然リ而シテ本章百四十四種ノ內ニハ實際ニ應用シテ或ハ不便ナルモノモコレアルヘシト雖、ソハ事業上實際ノ問題ニ屬スルヲ以テ玆ニ一々論明スルノ遑ナシ、今ハ唯當事者ノ適宜應用スルニ任スルノミ、猶ホ各組合ノ事業ニ關スル事項ハ前各章ヲ參照アランヲ望ム

夫レ、多數產業者ノ現狀ハ、信用、販賣、購買、生產各種ノ事業ヲ要求シツヽアリ、是ヲ以テ見レハ兼營組合、殊ニ信用販賣購買生產組合ハ、理想的ノ制度タルニ似タリ、然レトモ事ノ實際ニ至リテハ、或ハ複雜ヲ避ケ事業ノ單一ナルヲ成効シ易シトスル事情モアラン、要ハ歩一歩ノ進歩膨脹ヲ期スヘキナリ

第九章　設立

甲　設立ニ先タツ考慮

設立ニ先タツ考慮

抑モ産業組合カ個人、地方及國家ノ繁榮ト永久ノ關係ヲ有スルコトハ已ニ述ヘタルトコロナリ、サレハ其設立ニ當リテハ必スヤ先ツ愼重ノ考慮ヲ廻ラシ苟シクモ蹉跌失敗スルコトナキヲ期スヘシ

設立者

産業組合ハ專ラ中産以下ノ人ニ向テ其ノ必要アリ、而シテ中産以下ノ人ハ一般ニ智識ノ程度モ世故ノ經驗モ甚タ深廣ナリトハ思ハレス、サレハ組合ノ原理ニ基ツキ同胞相互ニ監視スルト共ニ、組合ノ事業經營ニ注意シ監督ヲ怠ラストスルモ、組合内部ノ細微ノ事情ヲ看破シテ役員ノ不都合ヲ責ムルカ如キコトハ容易ナラサルノミナラス、實際ニ於テハ組合員ハ各其ノ日々ノ仕事ニ忙カシクシテナカ〳〵監督ノ餘裕ナカルヘキナリ、故ニ或ハ奸佞ノ輩ノ爲メニ組合ヲ利用セラレ、折角ノ好事業モ組合員ノ熱心ト伴フテ繁盛ナル能ハサルノミナラス、或ハ反テ大損害ヲ被ムルヤモ計ラレス、西洋ノ産業組合ノ創設者ノ如キハ組合ノ

繁盛ニ赴クト否トハ、一ニ役員其人ヲ得ルト得サルトニ因ルト云ヘリ、コレ實ニ當然ノコトニシテ設立者ハ勿論監督官廳ノ深ク注意スヘキノ事項タリ、彼ノ一般商事會社ノ實例ニ徵スルモ其ノ悲境ニ沈ミ破産ノ患ヲ招クカ如キハ、經濟社會ノ勢ノ然ラシムルトコロナリト云フモ、役員ノ私利奸計ニ基クモノ決シテ少ナカラサルヲ見ルナリ

産業組合ノ最初ノ役員ハ設立者ノ全員又ハ數人ナルノミナラス、設立者ハ實ニ最初ノ組合員ナルカ故ニ其組合ノ盛運ニ向フト否トノ基礎ヲ固ムルハ一ニ彼等ノ責任ニアリテ存ス、即チ設立者ハ組合ノ盛否ニ關シ皆同シク責任アリトイヘトモ、而カモ多クノ場合ニ於テハ設立者ノ中猶ホ少數ノ重立チタル人々アリテ、組合設立ノ計畫其他一般ノ事務ヲ掌理スルヲ普通トス、サレハ設立者ノ中ニ在リテモ此少數ノ重立チタル人々ノ責任ハ特ニ大ナリト云フヘシ、而シテ是等ノ人々ハ組合最初ノ役員タルヘキヲ以テ、産業組合カ單ニ營利ノミナラス公益ノ目的ヲモ有スルニ鑑ミ、深ク組合員及ヒ其地方ノ利害ニ注意スルノ心懸ト雅量ナカルヘカラス、若シ是等重立チタル人々ニシテ、他ノ世間馴レス事理ニ疎キ

考慮

人々ヲ利用シテ私利奸計ヲ營マンカ爲メニ、甘言ヲ以テ誘導シ以テ善良ナル人々ヲ困難ニ陷ラシムルカ如キアラハ、彼等ハ單ニ法律、道德ノ罪人タルノミナラス、國家ノ亂臣賊子トシテ責ムルモ一言ノ申譯ケナカルヘキナリ

組合ヲ設立スルモノハ、必スヤ先ツ十分ナル考慮ヲ廻ラシテ組合ノ前途ニ不運ナク春風駘蕩ノ快アラシムヘキナリ、而シテ其運ラサヽルヘカラサル考慮ハ如何ト云フヤ、一言ヲ以テ之ヲ蔽ヘハ組合ノ目的ヲ達スル爲ニ必要ナル用意ニ關スル考案ニ外ナラス、此考慮ハ時ニ依リ處ニ依リ自ラ種々ノ差異アルヘキハ勿論ナリトイヘトモ、今其重ナル事項ニ付キ少シク說クトコロアルヘシ

一、設立地方ノ人氣ノ如キ處ニ依リ相同シカラス、例ヘハ黨與ノ相喧噪スルカ如キ地方ニ在リテハ、自然組合ノ進運ヲ阻害スルカ如キコト無キヲ保セス、宜シク注意スヘキナリ

一、組合ノ區域ハ信用組合以外ノ組合ニ就テハ法律ハ別ニ之ヲ命セサレトモ、組合ヲ設立スルニ當リテハ必スヤ區域ノコトニ考及ハサルヘカラス、何トナレハ組合ノ事業ハ地方的ナルト同時ニ個人ノ集合力ヲ以テ活動スレハナリ、組合ノ

事業ニ從ヒ差別アリトイヘトモ、要スルニ其地方ノ行政區劃即チ郡市町村等、人情風俗、地方的利害關係、組合ノ目的ニ對スル地方的事情等ハ區域ヲ定ムルニ付キ欠クヘカラサル考慮タルヘキ也

一、產業組合ハ七人以上ナレハ設立スルヲ得トイヘトモ、組合員餘リ少ナクシテハ組合ノ盛運モ亦容易ニ望ミ難シ、サレハ組合員トシテ相當ノ人數アルハ必要ナルコトナリ、マタ組合少シク盛運ニ向ヘル時ニ比スレハ設立ノ初期ニ在リテハ基礎薄弱ナルカ故ニ、組合員中忠實ナラサル者少ナカラサリセハ容易ニ組合ノ發達ヲ期シ難カルヘシ、故ニ特ニ設立ニ先タチ考慮ヲ費サヽルヘカラス

一、資金ニ關スル考慮ハ又甚タ重大ナルコトナリ、固ヨリ產業組合ハ富者ノ組合ニアラサルカ故ニ多クノ資金ヲ集ムルヲ得ストイヘトモ、而カモ組合員ノ出資ハ組合事業經營ノ經濟的基礎ヲ形成スルモノナルヲ以テ、其金額ハ幾何ニ達スヘキヤ其金額ノミニテ事業ヲ經營シ得ヘキヤ、若シ不足ナラハ他ヨリ借入ル、ニ就テハ如何ナル計畫ニ依ルヘキヤ等ニ考及ハサルヘカラス

一、且ツ組合ノ目的ニ從ヒ各異リタル考慮若クハ調査ヲ必要トス、信用組合ニ在リテハ產業資金トシテ幾何ノ貸付ヲ要スル幾何ソ組合員アルヘキヤ、其現在ニ於ケル信用ノ程度ハ如何及ヒ各組合員ハ如何ニ貯金ヲ爲シ得ヘキヤ等ニ關スル考慮ヲ要シ、販賣組合ニ在リテハ各組合員ノ販賣スヘキ生產物ノ數量ハ如何、其販賣ノ方法ハ如何、其販路ハ如何、或ハ組合員ノ生產物ハ如何ニ加工スヘキヤ等ノ考慮ヲ要シ、購買組合ニ在リテハ組合員ノ需要スル物ノ數量ハ如何ナルヘキカ、其物ハ何處ヨリ如何ニ買フヘキカ、如何ニ賣ルヘキカ等ノ考慮ヲ要シ、生產組合ニ在リテハ如何ニ加工スヘキカ、如何ニ使用セシムヘキカ等ノ考慮ヲ要スルカ如シ

一、組合設立セラルレハ、他ノ競爭ニ遇ヒ又ハ妨害ヲ被ムルコトナキニアラス、宜シク豫メ注意スヘキナリ

一、其他事業ノ見込、利益ノ豫想

斯ノ如ク研究ヲ爲シ、確カニ良好ノ目算立チタル上ハ、聊カモ遲疑スルトコロナク、困難ハ固ヨリ之ヲ排除シテ、直チニ設立ノ手續ニ及フヘキナリ

乙　設立ノ手續

申合セ

先ツ七人以上ノ申合セヲ必要トス(法第七條)此制限ハ組合員ニシテ餘リ少數ナルトキハ到底組合ノ目的ヲ達スル能ハルサノミナラス、之テ設立スルノ必要ナキニ由ル、別ニ深キ意味ハ是ナシ、而シテ「七人」ナル員數ノ據テ來ルトコロハ、獨逸産業及經濟組合法ノ制限及我カ商法第百十九條株式會社ニ於ケル制限ニアルナラン

定款ノ作成

七人以上ノ同意者ヲ得タルトキハ、相集マリテ先ツ定款ヲ作成セサルヘカラス(法第九條)、定款ノ組合ニ於ケルハ恰カモ憲法ノ立憲國ニ於ケル如ク重要ナル關係ヲ有シ、組合ノ行動ハ法律ノ範圍内ニ於テ一切此定款ノ規定ニ從フヘキモノナレハ愼重ナル協議ニ依リ決定セラルヘキモノナリ、定款ニ關シテハ別ニ章ヲ設ケテ詳細ニ說明スルノ必要アルカ故ニ茲ニ多言セス

設立許可ノ申請

定款已ニ出來シタルトキハ、設立者全員署名捺印シタル組合設立許可申請書ニ其ノ定款ヲ添エ、組合ノ主タル事務所所在地ノ地方長官ニ差出スヘシ(法第八條)而シテ其ノ申請書ハ主タル事務所所在地ノ郡長又ハ郡長ノ職務ヲ行フヘキ者ヲ經由スヘシ(規則第十七條)其ノ書式ハ左ノ如クニテ可ナラン

産業組合設立許可申請

今般産業組合法ニ據リ、、責任、、信用組合設立致度ニ就テハ御許可相成度別冊定款相添エ此段申請候也

年月日

設立者住所氏名捺印

全員連名

何府縣(道廳)知事何某殿

地方長官ノ許可アリタルトキハ、組合ハ已ニ公然存在シ法律上人格ヲ備フルニ至ル、即チ社團法人トシテノ存在ヲ認ムヘシ、然レトモ未タ第三者ニ對抗スルヲ得ス(法第十六條ニ準用シタル民法第四十五條)從テ未タ事業經營上完全ナル存在トハ云ヒ難シ

出資第一回ノ拂込

設立ノ許可アリタル以上ハ、組合ノ機關タル理事モ監事モ就任スルモノナリ、サレハ設立者ノ任務ハ以上ニテ了リタルモノト云フヘシ、以下ハ理事監事ノ任務トナルナリ、即チ理事ハ定款ノ定ムル所ニ依リ遲滯ナク出資第一回ノ拂込ヲ爲サシムヘシ(法第十二條)、遲滯ナクト云フコトハ別段時日ニ確然タル制限ナキカ

設立登記

如シト雖、要スルニ直チニト云フ意ナリ、第一回ノ出資拂込アリタルトキハ二週間以内ニ事務所(事務所數多アルトキハ各事務所)所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲スヘシ(法第十三條及法第十六條ニ準用シタル民法第四十七條)此登記ヲ申請スルニハ理事及監事ノ全員連署スルヲ要シ其登記事項及添付書類左ノ如シ(法第十四條法第八十一條)

登記事項

一　法第九條第一號乃至第五號及第十二號ニ掲ケタル事項

二　設立許可ノ年月日

三　理事及監事ノ氏名住所

添付書類

一　定款

二　地方長官ノ許可書又ハ其認證アル謄本

三　法第十五條第二號及第五號ニ掲ケタル事項ヲ證スル書面

右ノ登記申請ト共ニ左記ノ事項ヲ記載シ産業組合登記取扱手續第五條第六條ニ依リ之ヲ調製シタル組合員名簿ヲ主タル事務所所在地ノ裁判所ニ差出スヘシ(前記添付書類ニ合セ差出シテ可ナリ)(法第十五條)

一　各組合員ノ氏名住所

二　各組合員ノ出資口數

三　各組合員ノ拂込ミタル金額及其拂込ノ年月日

四　出資各口ノ取得ノ年月日

五　保證責任組合ニ在リテハ各組合員ノ保證金額

登記濟ノ屆出

斯クシテ登記濟ミタルトキハ組合ハ完全ナル法人トシテ法律ノ範圍内ニ於テ隨意ニ行動スルヲ得ルニ至ルナリ、而シテ登記濟ノ上ハ遲滯ナク登記シタル事項及其登記ノ年月日ヲ地方長官ニ屆ケ出ツヘシ(規則第十六條)

注意

既ニ設立ノ手續ヲ運フニ至リタルトキハ、帳簿・細則等ノ調製モ、手遲レナク整フヘク、又設立ノ許可ヲ得、登記モ出來、登記濟ノ屆出モ濟ミタラハ、規則第九條ノ事モアリ、又種々ノ相談モアルヘケレハ、多クノ場合ニ於テ臨時總會開設ノ必要アルヘキナリ

備考

書類ノ差出、登記ノ手續其他ニ關シ設立ノ場合ノミナラス一般ノ場合ニ適用セラルヘキ事項等ニ付キテハ後ニ各個ノ場合ニ說クヘシト雖、茲ニモ、備考トシテ摘錄シ以テ讀者ノ便ニ供セン

地方長官ニ出スヘキ書類ノコト

一、地方長官ニ差出スヘキ書類ノコト

○組合ヨリ地方長官ニ差出スヘキ書類ハ郡長又ハ郡長ノ職務ヲ行フヘキ者ヲ經由スルコトヲ要ス(規則第十七條)

○本法ノ規定ニ依リ郡長ノ行フヘキ職務ハ伊豆七島ニ於テハ東京府知事北海道ニ於テハ支廳長沖繩縣ノ區ニ於テハ區長島司ヲ置キタル島嶼ニ於テハ島司之ヲ行フ(法第八十九條)

登記所ノコト

二、登記所ノコト

○產業組合ノ登記ニ付テハ其事務所所在地ノ區裁判所又ハ其出張所ヲ以テ管轄登記所トス(法第七十九條)

○產業組合ニ關スル登記ノ事務ハ商業登記ヲ取扱フ登記所ニ於テノミ之ヲ取扱ハシム(明治三十三年司法省令第二十四號)

○其他法第八十條第八十八條及產業組合登記取扱手續等ヲ參考スヘシ

登記ヲ要スル事項ノコト

三、登記ヲ要スル事項ノコト

○設立ノ登記(法第十三條)

○登記事項(法第九條第一號乃至第五號及第十二號ニ揭ケタル事項、理事及監事ノ氏名住所)變更ノ登記(法第十四條第二項)

○組合員名簿中ノ事項ニ變更ヲ生シタル場合ノ記載申請(法第十五條第二項)

○設立後新タニ事務所ヲ設ケタルトキノ登記(法第十六條ニ準用シタル民法第四十五條第三項)

○事務所移轉ノ登記(同上民法第四十八條第一項第二項)

○解散ノ登記(法第六十三條)

○合併ノ場合ニ於ケル登記(法第六十六條)

○清算人ニ關スル登記(法第八十八條ニ準用シタル非訟事件手續法第百七十五條乃至第七十七條及法第七十五條ニ準用シタル民法第七十七條)

登錄稅ノコト

四、登錄稅ノコト

○財團法人又ハ營利ヲ目的トセサル社團法人ニシテ登記ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ(線下ノ金額ハ非常特別稅法ニ依ル增納額ナリ)

一　法人ノ設立(民法施行法ニ依リ法人ト認メラレタルモノヽ新ニ受クル登記ト

モ）

二　法人設立後ノ事務所設置　毎一件　金五圓

三　事務所ノ移轉　仝　金三圓

四　登記事項ノ變更、消滅又ハ廢止　仝　金二圓

五　登記ノ更正又ハ、抹消　仝　金一圓

六　解散　仝　金一圓

七　清算人ノ選任、解任又ハ變更　仝　金五十錢

八　清算ノ結了　仝　金五十錢

主タル事務所ニアラサル事務所ヲ在地ニ於テ前項各號ノ登記ヲ受クルトキハ毎一件金五十錢ノ登錄稅ヲ納ムヘシ　仝

○組合員名簿ノ記載ニ付テハ登錄稅ヲ要セス（法第六條第二項）

○產業組合登記簿ノ謄本又ハ抄本ノ受付ノ請求ニ關スル手數料ニ就テハ明治三十三年司法省令第三十號ヲ見ルヘシ

登記申請ニ付キ參考スヘキコト

五、登記申請ニ付キ參考スヘキコト

○理事及監事ハ豫シメ印鑑ヲ提出スヘキコト（產業組合登記取扱手續第十四條ニ準用シタル商業登記取扱手續第六條第七條）

○登記申請ノ書面ノコト及申請人ノコト

書面ノ明確（仝上ニ準用シタル仝上第二十五條）

書面ノ記載（仝上ニ準用シタル不動產登記法施行細則第三十八條第三十九條及ヒ法第八十八條ニ準用シタル非訟事件手續法第百四十九條及第百五十條）

申請人ノ出頭（產業組合登記取扱手續第十四條ニ準用シタル商業登記取扱手續第十四條）

登記濟證ノ受付及ヒ原本還附ノ請求（仝上ニ準用シタル仝上第二十七條及第四十六條）

錯誤遺漏更正ノ申請（法第八十八條ニ準用シタル非訟事件手續法第百四十八條）

○組合員名簿ノ記載ノ變更申請書ノコト（產業組合法登記取扱手續第七條）

○申請書却下ニ對スル抗告（仝上ニ準用シタル仝上第百五十一條）

組合員名簿ノコト

六、組合員名簿ノコト

組合員名簿ハ法第二十九條ニ依リ其一冊ヲ常ニ主タル事務所ニ備ヘ置クコトヲ要シ、且ツ其一冊ヲ設立登記申請ト共ニ裁判所ニ差出スノ必要アルカ故ニ之ヲ作成スルニ當リテハ少クトモ二冊タルヘシ、而シテ裁判所ニ差出スヘキ分ハ其外形ノ体裁ニ一定ノ制限アリ、即チ產業組合登記取扱手續第五條及第六條ニ依リ之ヲ

調製スルヲ要ス、然レトモ其內容ノ記載ニハ一定ノ形式ナキカ故ニ、當事者ハ可成簡明ニ便ナル方法ヲ案出スルヲ要ス

名簿ニ記載スヘキ事項ハ前ニモ已ニ述ヘタル如ク

一　各組合員ノ氏名住所

二　各組合員ノ出資口數

三　各組合員ノ拂込ミタル金額及其拂込ノ年月日

四　出資各口ノ取得ノ年月日

五　保證責任組合ニ在リテハ各組合員ノ保證金額

ノ四項又ハ五項ニシテ何レモ時ニ變更スヘキモノナルカ故ニ、名簿ニハ此變更ヲ記載スルニ足ル餘裕ヲ存セシメサルヘカラス、就中二及ヒ三ノ如キハ相當ノ欄ヲ設クルヲ要シ、又新加入者ニ當ツル爲メ相當ノ無記載用紙アルヘシ、而シテ冊數及丁數ノ記載アルヘキハ勿論ナリ

要スルニ組合員名簿ハ其記載事項ハ常ニ變化スヘキモノナリトイヘトモ、其形式ニ付テハ何種ノ組合ニ付テモ又ハ如何ナル場合ニ於テモ一定スルヲ得ヘキモノナリ

第十章　定款ノ說明

前說

產業組合ハ之ヲ設立スルニ當リテハ必ス先ツ定款ヲ作成シ、設立許可ノ申請ヲ爲ストキニモ設立ノ登記ヲ爲ストキニモ、其定款ヲ提出セサルヘカラサルコトハ前章ニ之ヲ述ヘタリ

意義

抑モ法人ハ法律上其ノ人格ヲ認ムルニ止マリ之ニ固有ノ意思アルコトナシ、サレハ法人カ如何ナル目的ヲ有シ如何ナル行動ヲ爲スヘキヤ等ノ重要ナル事項ヲ豫メ定メオクコトハ、法人ノ存在ニ必要欠クヘカラサルコトナリ、而シテ設立者ノ一致ノ意思ニ因リテ成立スル社團法人ニ於テハ以上ノ事項モ亦設立者ノ一致ノ意思ニ因リテ協定セラルヽモノニシテ之ヲ稱シテ定款ト云フ、然レトモ法人ハ前述ノ如ク法律上人格ヲ認ムルモノナルカ故ニ其目的行動等ニ付テハ固ヨリ絕對ノ自由ヲ許サス、換言スレハ法律ノ制限內ニ於テノ自由ヲ認ムルニ止マル、サレハ定款ノ規定ハ法律ノ制限外ニ脫出スルヲ得サルハ固ヨリ言ヲ俟タサルヲ以テ、定款ヲ作成スルニ當リテハ先ツ十分ニ法律ノ精神ノ存スルトコ

ロチ解シ、苟シクモ違法錯誤ノ患ナキヲ期セサルヘカラス、而シテ産業組合法ハ其條規甚タ浩瀚ナラストイヘトモ、而カモ其係ルトコロ決シテ狹シト云フヘカラス、當事者宜シク卷末ニ付セル法規ヲ熟誦シテ過ナキヲ勉メラレヨ

効力

定款ハ固ヨリ其法人ヲ組成スル各員ノ間ニ於ケル相互ノ契約ニ外ナラストイヘトモ、其成立モ其變更モ共ニ官廳ノ認許ヲ經サルヘカラス、即チ法律カ公ニ認ムルモノナルカ故ニ、其規定ハ遺漏ナク各員ノ履行ヲ求メ得ルノ効力アルモノナリ

掲載事項

産業組合ノ定款ニ付テハ法第九條ニ必ス之ニ掲ケサルヘカラサル事項ヲ規定シタリトイヘトモ、其他猶ホ掲クルヲ必要トスルコトアリ又掲クルヲ可トスルコトアリ掲クルモ妨ナキコトアリ、是等ノ事項ヲ詳知スルコトハ、取リモ直サス定款事項ノ範圍ヲ知得スルニ欠クヘカラサルカ故ニ、先ツ之ヲ列記シ次ニ其説明ヲ爲サント欲ス

法第九條ノ命スル事項

(甲)法第九條ニ依リ必ス掲ケサルヘカラサル事項

一　目的

二　名稱

三　組織

四　事務所

五　出資一口ノ金額及其ノ拂込ノ方法

六　第一回拂込ノ金額

七　剩餘金處分及損失金分擔ニ關スル規定

八　準備金ノ額及其ノ積立ノ方法

九　組合員タル資格ニ關スル規定

十　組合員ノ加入及脫退ニ關スル規定

十一　組合ノ目的タル事業ノ執行ニ關スル規定

十二　存立時期又ハ解散ノ事由ヲ定メタルトキハ其ノ時期又ハ事由

十三　信用組合ノ區域

其他必要ナル事項

(乙)掲クルヲ必要トスル事項

十四　理事及監事ノ員數

十五　設立當時ノ理事及監事ノ就任ニ關スルコト
十六　組合財産ニ對スル組合員ノ權利ニ關スルコト
十七　總會招集ノ方法
十八　除名ノ事由

(丙)掲クルヲ可トシ又ハ妨ケサル事項

十九　組合ノ區域
二十　拂込ミタル出資金額及其ノ拂込ノ年月日記載ニ付取纏ムヘキ期日
二十一　出資口數ノ制限
二十二　組合員カ總會ノ招集ノ請求ヲ爲ス權利ニ關スル制限
二十三　理事及監事ノ任期
二十四　理事及監事ノ選任及解任定款ノ變更、除名、解散及合併ニ關スル總會及其他ノ總會ニ於ケル決議ノ條件
二十五　組合事務ノ決定ニ關スル條件
二十六　理事カ特定ノ行爲ノ代理ヲ他人ニ委任スルコトニ關スル制限

二十七　通常總會開會ノ度數及開期
二十八　議決權ノ代理ニ關スル制限
二十九　總會ニ於ケル決議事項
三十　事業年度ノ始終
三十一　隨意脱退者ノ豫告期間
三十二　脱退者ニ對スル持分拂戻ニ關スル事項
三十三　脱退者ノ責任負擔ノ期間ノ延長ニ關スル契約
三十四　清算人ノ就任
三十五　理事及監事ノ給料報酬又ハ賞與
三十六　總代會ニ關スル事項

説明

定款ニ掲クヘキ事項ハ以上ノ記載ニ依リテ明カナリ、今是等ノ事項ニ付キ可成詳細ノ説明ヲ爲シ以テ讀者ノ深厚ナル注意ヲ乞ハントス、前ニモ述ヘタル如ク組合ノ行動ハ定款ノ規定ニ從フヘキモノナルカ故ニ定款ハ實ニ組合ノ盛否ヲトスル豫言ナリト云フモ過言ニアラス、慮カラサルヘケンヤ

（甲）法第九條ニ依リ必ス掲ケサルヘカラサル事項

目的ノ觀念

一、目的

凡ソ事目的アリテ始メテ爲スヲ得ヘシ、學生カ學校ニ昇ルハ身ヲ立テンカ爲メニ學問スル目的ニ因ルニ外ナラス、而シテ學生ノ一切ノ行動タル固ヨリ皆其目的ノ範圍ヲ脱スヘカラス、若シ一朝其範圍ヲ逸出センカ失敗墮落セサル者ハ蓋シ是ナシ、然レトモ一方ヨリ之ヲ觀察スルトキハ斯ク失敗墮落スルニ際シテハ彼等ノ目的ハ已ニ學問ニアラスシテ不健全ナル遊樂ニ轉化シタルヲ認メサルヲ得ス、換言スレハ此場合ニ於ケル彼等ノ目的ハ極メテ曖昧ノ域ニアルヲ見ルナリ、サレハ凡ソ事ヲ成サントスルニハ必ヤ先ツ目的アルヲ要シ、一切ノ行動ハ其目的ノ範圍ヲ脱セサルヲ要シ、且ツ其目的ハ羅針ノ常ニ北ヲ示スカ如ク北極星ノ舟人ヲ導クカ如ク、常ニ不變ニシテ明確ナルヲ要スルヤ固ヨリ言ヲ俟タス、余輩カ茲ニ法律ノ規定ト余輩ノ自由ノ意思トニ依リテ、定欵ニ掲クヘキ總テノ事項ノ劈頭ニ此「目的」ヲ説カントスルモノ亦故ナキニアラサルナリ

法ノ規定ニ關スル解釋

法第一條ニ依レハ産業組合トハ組合員ノ産業又ハ其經濟ノ發達ヲ企圖スル爲メ左ノ目的ヲ以テ設立スル社團法人ヲ謂フトアリ、然レトモ其目的トシテ掲ケラレタル四箇ノ事項ハ事業ノ範圍ヲ定メタルモノニシテ、之ヲ目的ト稱スルハ稍穩當ヲ缺クノ嫌ナキニアラスト論スル者モアラン、然リ余輩モ亦是等四箇ノ事項ハ組合ノ目的ヲ達スル方便ニシテ、目的ハ「組合員ノ産業又ハ其ノ經濟ノ發達ヲ企圖スルニアリ」ト云フコトノ普通ナルヲ認メサルニアラス、然レトモ産業組合ノ仕組タル先ツ高尚尊重ナル理義ヲ説テ而ル後實際ノ利害ニ及ホサントスルモノニアラスシテ、先ツ眼前卑近ノ實際ヨリシテ不知不識ノ間ニ堂奥ニ進メントスルニアリ、倉廩滿チテ禮節ヲ知ラシメントスルニアリ、衣食足リテ榮辱ヲ知ラシメントスルニアリ、此倉廩滿チ衣食足ルト云フコト即チ眼前卑近ノ實際ニシテ、之ヲ事實ニ見ルコトヲ得ハ、禮節ノコトモ榮辱ノコトモ、不知不識ノ間ニ進ムコトヽハナルナリ、斯ノ如ク四箇ノ事項ニシテ遺憾ナク經營セラルヽヲ得ハ取リモ直サス「産業又ハ經濟ノ發達」ニコソアレハ、漠然タル文字ヲ弄セスシテ短刀直入方便ヲ以テ目的トシ、一見能ク組合ノ進路ヲ明カニスルヲ得セシメシモノナラン、思フニコレ中産以下ノ民ノ爲ニスル産業組合ノ精神ニ照シ間然

スヘキトコロナシ、宜シク立法者苦心ノ存スルトコロヲ察知スヘシ

目的ノ種類

産業組合ノ目的ハ第四章乃至第八章ニ記載セル如ク總計百五十四種ヲ以テ數フルヲ得ヘク、又之ヲ代表スル名稱ハ單獨ノ組合四、兼營組合十一、計十五ニ達スヘシ、而シテ如何ナル産業組合ト雖其ノ目的ハ必スヤ此百五十四種ノ一ニ協フヲ要スルナリ

其規定ノ方法

法律ニ記載セラレタル目的ハ多クノ場合ヲ網羅シタル總合的ノモノタルニ過キス、例ヘハ、生産組合ノ「組合員ノ生産シタル物ニ加工スルコト」ハ各種ノ事業ニ通スル表示ニ過キサルヲ以テ單ニ此規定ノミヲ以テシテハ其果シテ如何ナル特種ノ場合ナルヤ固ヨリ明カナラス、サレハ目的ヲ一層明確ナラシメンニハ其特種ノ事業ヲ記載スルニ如カス、即チ、例ヘハ組合員ノ生産シタル玄米ヲ共同シテ精白スル組合ヲ設立セントセハ、其目的ハ「組合員ノ生産シタル物ニ加工スルコト」ト記載セスシテ、「組合員ノ生産シタル玄米ヲ精白スルコト」ト記載スルヲ以テ最モ適切ナリト云フヘシ、其他各種ノ目的皆然ラサルハナシ、當事者ノ注意ヲ要スルトコロナラン

二、名稱

名稱其ノ概念

法人ニ名稱ノ必要ナルコトハ吾人ニ氏名ノ欠クヘカラサルコト、擇フトコロナキヤ固ヨリ言ヲ俟タス、而シテ吾人ノ氏名カ互ニ混同セサル樣各相異ナルヲ必要トスルカ如ク、法人ニアリテモ同種ノ法人ノ名稱ハ相同シカラサルヲ必要トスルコト亦固ヨリ明ナリ、加之凡ソ事物ノ名稱ナルモノハ可成其ノ實質ヲ表明スルニ足ルヘキ文字タリ且ツ其文字ハ可成世間ノ善良ナル感想ヲ惹キ記憶ニ止ムルニ足ルコトヲ望ムヘキハ、吾人ノ氏名ニ於テモ法人ノ名稱ニ於テモ決シテ相異ナルコトナカルヘシ、殊ニ産業組合ハ多クノ場合ニ於テハ或ル一定ノ地區ヲ限リテ成立スルモノナルヲ以テ、其地名ヲ名稱中ニ入ルヽコトハ世ノ記憶ニ對シ大ナル効力アルヘキ也

其ノ文字

法第四條ニ曰ク「産業組合ノ名稱中ニハ其組織及目的ヲ示スヘキ文字ヲ用ウヘシ」ト、組織トハ組合員カ組合ニ對スル金錢上ノ責任ノコトニシテ法第二條ニ規定セル如ク無限責任有限責任及保證責任ノ三種アリ、目的ハ前已ニ述ヘタル如ク數多是アリトイヘトモ、之ヲ示スヘキ文字ハ十五種ニ過キス信用、販賣、購買、生

産、信用販賣、信用購買、信用生産、販賣購買、販賣生産、購買生産、信用販賣購買、信用販賣生産、信用購買生産、販賣購買生産及信用販賣購買生産即チ是ナリ、サレハ名稱中ニハ必ス前記三種組織ノ一及十五種目的ノ一ヲ示ス文字ヲ加ヘサルヘカラス

注意

普通ノ例ニ依ルニ例ヘハ無限責任何々信用組合ト命名スルヲ以テ最モ可ナリトス、而シテ「何々」ニハ地名又ハ善良ナル風俗ニ適スル文字等ヲ用ウヘシ

而シテ茲ニ注意スヘキハ同市町村内ニ於テハ已ニ他ノ組合カ附シタル名稱ト同一ノ名稱ハ、商法ノ規定ニ因リ之ヲ附スルヲ得サルコト是ナリ、此區別ヲ立ツルニハ「何々」ニ適當ノ文字ヲ用ユレハ遺憾ナシ

參照

商法第十九條　他人カ登記シタル商號ハ同市町村内ニ於テ同一ノ營業ノ爲メニ之ヲ登記スルコトヲ得ス

同上第二十條　商號ノ登記ヲ爲シタル者ハ不正ノ競爭ノ目的ヲ以テ同一又ハ類似ノ商號ヲ使用スル者ニ對シテ其使用ヲ止ムヘキコトヲ請求スルコトヲ得但損害賠償ノ請求ヲ妨ケス

同市町村内ニ於テ同一ノ營業ノ爲メニ他人ノ登記シタル商號ヲ使用スルモノハ不正ノ競爭ノ目的ヲ以テ之ヲ使用スルモノト推定ス

組織

無限責任

三、組織

組織ノ如何ハ地方ノ狀況ニ依リ、組合ノ盛否ニ重大ナル關係ヲ有ス、彼ノ獨逸ノライフアイゼン氏組合ノ成効ノ原因ノ重ナルモノヽ一ハ、實ニ其組織ニアリト云フニ徵シテモ之ヲ知ルヲ得ヘシ、然レトモ法ハ元來死物ナリ其運用如何ニ依リテ始メテ奏効大ナルヲ得、組合ノ組織ノ如キ即チ亦然リ、當事者深ク思ヲ茲ニ致サヽルヘカラス、組織ニ三種アリ無限責任、有限責任及保證責任是ナリ(法第二條)

(一)無限責任トハ組合財産ヲ以テ其ノ債務ヲ完濟スル能ハサル場合ニ於テ、組合員ノ全員カ連帶無限ノ責任ヲ負擔スルモノヲ云フ、組合財産ヲ以テ其ノ債務ヲ完濟スル能ハサル場合トハ、組合カ破産スヘキ場合ナリ(法第六十九條ニ準用シタル民法第七十條)而シテ組合員ノ全員カ連帶無限ノ責任ヲ負擔ストハ、組合ノ債務ニ付キ組合員全體其資産ノ全部ヲ擧ケテ辨償スル義務アルコトヲ云ヒシモノナリ(其辨償ノ割合等ニ付テハ本章七、剩餘金處分及損失分擔ニ關スル規定ノ部

ヲ參照スヘシ)、サレハ無限責任ノ組合ニ在リテハタトヘ破産ノ厄運ニ遇フコトアルモ、債權者ハ猶ホ各組合員ノ私有財産全體ニ向テ償還ノ望ヲ有シ得ヘキカ故ニ、各組合員ハ組合事業ノ不運ナルニ際シテハ、其ノ出資額詳言スレハ拂込濟出資額及未拂込出資額ハ勿論、其家財總テヲ組合ノ爲ニ他ニ渡スヘキコトヲ覺悟セサルヘカラス此點ヨリ見ルトキハ無限責任ハ甚タ不利ナル組織ナルカ如シ、其果シテ然ルヤ否ヤニ付テハ後ニ詳論シテ以テ利害得失ヲ明ニセント欲スルヲ以テ、茲ニハ以上性質ヲ叙スルニ止メン

有限責任

(二)有限責任トハ組合員ノ全員カ出資額ヲ限度トシテ責任ヲ負擔スルヲ云フ、即チ組合員ノ責任ハ出資額、詳言スレハ拂込濟出資額及未拂込出資額ニ止マルカ故ニ、組合財産ヲ以テ其債務ヲ完濟スルコト能ハサル場合、即チ破産ノ場合ニ於テハ、債權者ハ組合財産以外ニ對シ最早其ノ權利ヲ執行スルニ由ナシ

保證責任

(三)保證責任トハ組合財産ヲ以テ其ノ債務ヲ完濟スルコト能ハサル場合ニ於テ、組合全員カ其出資額ノ外一定ノ金額ヲ限度トシテ責任ヲ負擔スルモノヲ云フ、此組織ハ正ニ無限及有限兩組織ノ中間ニ位スルモノナリ、即チ組合破産ノ場合ニ於テ各組合員ハ豫シメ定メタル一定ノ金額迄ハ出金スルヲ拒ムコトヲ得サルモノニシテ、無限責任ノ場合ノ如ク其資産全部ヲ差出スノ覺悟ヲ要セサルト共ニ、又有限責任ノ場合ノ如ク出資以外ニ少シモ出金ヲナサヽルヲ得サルナリ、斯ノ如ク兩者ノ中間ニ位ストイヘトモ債權者カ組合財産以外ニ對シテモ猶ホ望ミヲ屬シ得ヘキ點ヨリ考フレハ、其ノ性質無限責任ニ相近シト云フヘシ

其ノ規定ノ方法

以上述フルトコロニ依リテ三種組織ノ性質明カナリト信ス、而シテ之ヲ定欵ニ規定スルニハ如何ニスヘキヤト云フニ、前二者ニ在リテハ單ニ「無限責任トス」「有限責任トス」ト記載スレハ、各組合員ノ義務ハ如何ナルモノナルヤ直チニ明カナリト雖、保證責任組合ニ在リテハ然ラサルモノアリ、何トナレハ出資額ノ外一定ノ金額トハ其額幾何ナルヤ特別ノ規定ヲ待タサレハ明カナラサレハナリ、而シテ此特別ノ規定ハ保證責任組合ニ在リテハ決シテ欠クヘカラサルモノナリ、然ラハ如何ニ之ヲ定ムレハ可ナルカ、抑モ組織ノ表面上ノ効力ハ債權者ニ安心ヲ與フルニアルコトハ後ニ述ヘントスルトコロナリ、債權者ニ安心ヲ與ヘンニハ豫シメ保證シタル金額ハ何時ニテモ債權者ノ要求ニ應スルヲ得ヘキ用意アル

ヲ要ス、此點ヨリ推ストキハ組合員中ノ富者ハ多クヲ負擔シ貧者ハ少ナク負擔スルヲ可ナリトス、然レトモ他ノ觀察點ヨリスルトキハ各組合員ノ負擔ハ可成公平ナルヲ要ス、此公平ヲ得ルニハ組合ニ依リ平常多ク利益ヲ受クル者ハ、非運ニ際シテハ多クノ負擔ヲ爲ス樣ニスルヲ以テ最モ適切ナリト信セラル、而シテ最モ多クノ場合ニ於テ多クノ出資ヲ爲シタル者ハ組合ニ依リ利益ヲ受クルコトモ亦多シ、サレハ出資ノ多寡ニ應シテ負擔ノ多寡ヲ定ムルコト公平ヲ得タルニ近カラン、而ルニ出資ノ多クヲ有スル者ハ少ナク有スル者ニ比スレハ其資産モ亦多キヲ普通トスルカ故ニ、此法ニ依リ負擔ノ標準ヲ定ムレハ、債權者モ前記ノ如ク權利執行上安心ヲ爲スヘキカ故ニ、組合ノ信用モ增ス道理也此法ニ依リ定款ニ記載スルニハ「各組合員ノ保證金額ハ其出資額ト同額トス」或ハ二倍三倍トスルヲ以テ簡明ナリトス、且ツ余輩ハ猶ホ茲ニ一案ヲ有ス而チ累進法ニ依ルモノニシテ左表ノ示スカ如シ

各組合員ノ保證金額ハ左ノ標準ニ依リ出資口數ニ應シ之ヲ定ムルモノトス

出資	一口	一口ヲ有スル者ハ出資額ノ一〇倍
同	二	一、〇
同	三	一、二
同	四	一、四
同	五	一、六
同	六	一、六
同	七	一、八
同	八	一、八
同	九	二、〇
同	十	二、〇

以上ハ公平且ツ適當ナル觀察點ヨリ論述シタルトコロナルカ、保證金額ハ固ヨリ必スシモ或ル標準ニ依ルヲ要セス、各組合員ニ付キ別々ニ定ムルモ可ナリ、或ハ理事ノ見込ニ依リ或ハ組合員ト理事トノ相談ニ依リ或ハ其他ノ認定ニ依リ例ヘハ甲ハ十圓乙ハ二十圓丙ハ五圓ト各別ニ定ムルカ如キ是ナリ、且ツ斯ノ如ク各別ニ定ムル場合ニ於テハ資産アル者ハ奮テ多クヲ負擔スルヲ望マサルヲ

注意

三種組織ノ得失

得ス、組合ノ信用ヲ厚カラシムル所以ナレハナリ、其他保證金額規定ノ方法トシテ租税ノ負擔額ヲ標準トスルカ如キ方法モアルヘシ、要スルニ如何ナル場合ニ於テモ各組合員ノ負擔ハ各之ヲ支辨スルヲ得ル範圍内ニ在ラシムルヲ要シ、各組合員ニ付キ標準又ハ金額ヲ定メ之ヲ定款中ニ記載スルヲ要ス(「本組合ノ保證金額ハ五千圓トス」ノ如キ規定ハ各組合員ニ付キ其負擔スベキ額明カナラサルカ故ニ法第二條ノ主旨ニ副フモノニアラサルナリ)

無限責任及保證責任ニ在リテ組合破産ノ場合ニ於ケル損失額甚タ大ナラスシテ、各組合員ノ總資産又ハ總保證金額ヨリモ小ナル場合(斯ル場合ヲ普通トス)ニ於テハ、各組合員ノ實際出金スヘキ額ハ相互ノ契約ニ依リ豫シメ其ノ標準ヲ定ムルヲ可トスルノミナラス又必要ノ事項タリ、本章七「剩餘金處分及損失分擔」ニ關スル規定ノ部ヲ參照セラレヨ

今ヤ余輩ハ一歩ヲ進メテ、組織ノ効力及三種組織ノ得失ヲ考究スルノ順序ニ到着シタリ

抑モ組織ノ効力ハ之ヲ表裏ノ二方面ヨリ觀察スルヲ要ス、所謂、表面トハ組合對社會ヲ意味シ裏面トハ組合自身及組合對組合員ヲ意味ス、而シテ表面上ノ効力ハ第三者即チ債權者ニ安心ヲ與フル所以、換言スレハ社會ノ信用ヲ得ル所以ニ外ナラス、裏面上ノ効力ハ一ハ組合ノ事業經營ニ關スル利益ノ點、二ハ組合員カ組合ニ對スル利害ノ念及ヒ組合員相互ノ利福增進ノ點ニ於ケル程度ニ外ナラス、請フ今之ヲ三種ノ組織ニ就テ論究セン

無限責任

(一)無限責任ニ在リテハ第三者即チ債權者ハ、組合タトヘ破産ノ非運ニ遭遇スルモ、各組合員ノ資産ニシテ皆無ナラサル以上ハ決シテ損失ヲ被ムルコトナキヲ以テ、平常安心シテ金錢ノ融通ヲナシ又ハ其他ノ契約ヲ爲スヲ躊躇セサルヘシ、サレハ無限責任ノ組織ハ他ニ資金ノ融通ヲ仰クコト多キヲ要スル組合ニ取リテ實ニ必要ナル組織ナルヘシ、次ニ組合ノ事業經營上ヨリ之ヲ觀察センニ組合ノ事業ニシテ、若シ不振ノ域ニ赴クトキハ總組合員ニ非常ノ苦痛ヲ與フルヲ以テ、組合ハ常ニ特ニ非常ノ注意ヲ要スルノ結果、事業ノ經營ハ甚タ愼重ナラサルヲ得ス又一時ノ利益ヲ見ル能ハサル嫌ナキニアラスト雖、之ニ因リテ組合ノ基礎固マリ永久ノ盛運ヲ期スルヲ得ヘシ、且ツ此組織ノ性質上當然ノ結果トシテ、

新加入者ハ總組合員ノ同意ヲ得ルヲ要シ(法第四十九條、本章十「組合員ノ加入及脱退ニ關スル規定」ヲ參照スヘシ)、脱退者ハ脱退後二箇年間其責任ヲ負擔セサルヘカラサルカ故ニ(法第五十八條)、多クノ組合員ヲ網羅スルコトハ難シトイヘトモ、而カモ、確カナル善良ナル組合員ヲ收容シ得ヘシ、加之、此組織ニアリテハ各組合員ハ日夕相見ルノ徒タルヲ要スルヲ以テ組合ノ區域ハ餘リ廣カルヲ得ス、要スルニ此組織ノ効力ハ組合ノ事業經營ヲシテ機敏放膽的ナラシメサル代リニ、確固細心ノ域ニ進マシムルモノト云フヘシ、換言スレハ事業ニ危險少ナカラシムルノ効力ヲ有ス、第三ニ之ヲ組合員ノ側ヨリ論究センカ人或ハ曰ハン此組織ニアリテハ組合員ハ其資産全體ヲ擧ケテ責任ヲ負擔スルモノナルカ故ニ組合員ハ甚タ危險ノ地位ニアルモノナリト、然レトモコレ全ク杞憂ニ過キサルナリ、危險ナルカ如クニシテ而シテ其實極メテ安全且ツ有利ナル、コレ實ニ此組織ノ妙用ニハアラサルカ、思フニ組合員ハ組合ノ事業ニ關シ連帶無限ノ責任ヲ負フ結果トシテ平常組合カ損失ヲ爲ササル樣〳〵ト監視シ注意ヲ怠ラサルハ當然ノコトニシテ、從テ組合ニ對スル利害ノ念著シク增加シ來ル、タトヘ組合員其日常ノ業務ニ忙カシク又組合ノ事業ヲ監視スルノ遑ナシトスルモ其念慮ハ常ニ之ヲ去ラサルヘク、若シ組合ニ不都合アラハ直チニ相當ノ手段ヲ講スルニ至ルヘキナリ、斯ノ如ク組合ハ組合員ノ多クノ注意ヲ受クルカ故ニ其基礎愈固クナリ行カサルヲ得ス、從テ組合員各自ノ間ニ於テモ或ル組合員カ素行修マラス組合ニ對シ忠實ナラス損害ヲ被ムラシムルカ如キアラハ、其結果ハ延テ自己ノ頭上ニ少ナカラサル苦痛ヲ被ムラシムルカ故ニ、常ニ相互ニ監視ヲ怠ラサルコトトナル、即チ不忠實ナル組合員ニ就テハ除名等ノ制裁ヲ爲スニ至ルヘシ、斯ノ如クシテ組合員ハ其品性モ修マリ着實ノ風ヲ養成セラレ相互ニ親和ノ情ヲ誘起セラレ、幾多ノ美果ヲ收ムルヲ得ルニ至ルヘキナリ、嗚呼是實ニ産業組合ノ裏面ノ目的ニシテ而シテ組織ニ大關係ヲ有スルコトタルヲ忘ルヘカラス

保證責任
有限責任

(二)保證責任ニ在リテハ無限責任ト有限責任トニ於ケル効力ノ中間ニ位ス

(三)有限責任ニアリテハ債權者ハ組合財産以外ニ向テ望ミヲ屬スルヲ得ス、其組合ノ事業ニシテ繁盛ナル間ハ勿論十分ノ信用ヲ得ヘシト雖、一朝非運ナルニ際シテハ信用俄然トシテ低落シ、所謂二進モ三進モイカヌコト、ナルコト恰カモ

株式會社ニ於ケルカ如シ、タヾ財産上世間ノ信用ヲ得ルコト甚タ重要ナラサル種類ノ事業ニ取リテハ甚タシキ痛痒ハナカルヘシ、次ニ組合事業經營上ニ於テ如何ナル効力アルカト云フニ、組合ハ如何ニ失敗スルトモ組合員ニ被ムラシムル損失ハ其出資ニ止マルカ故ニ、且ツ組合員モ亦細密ナル監視ヲ爲サヽルヘキカ故ニ、事業ハ自然多少ノ危險ニモ近ツクコトアルヘキハ止ムヲ得サルノ結果タリ、又責任輕キ結果トシテ組合員トシテ多數ヲ收容スルヲ得レトモ其中ニハ自然組合ニ對シ不忠實ナル者モ混スヘシ、且ツ區域ノ如キハ廣大ナルモ甚タシキ妨ナシ、要スルニ此組織ニ在リテハ事業ノ經營敏活ナルヲ得ルモ而モ其内自ラ危險ノ性質相伴フノ恐レアリ、第三ニ此組織ニ於ケル組合員ハ組合ニ對スル念慮モ又組合員相互ノ監視モ十分ナルヲ得サルハ固ヨリ自然ノ結果ニシテ、社會改良上ノ望ミハ此組織ニ對シテハ十分ニ望ミ得ヘカラス

結論

以上述ヘタル如ク三種組織ノ効力自ラ差等アリ、無限責任ニ於テ最モ大ニ保證責任之ニ次キ有限責任ニアリテ最モ小ナリト雖、而カモ是一般ノ道理ヲ說キタルニ止マリ、事ノ實際ニ於テハ猶少シク論スヘキノ餘地アルヲ見ルナリ、思フニ

產業組合ノ因テ立ツ基礎ハ物的信用ヨリモ人的信用ニ重キヲ置ク觀察點ヨリ推ストキハ無限責任ハ最モ良好ナル組織ニ相違ナシト雖、而カモ無限責任ナル以上ハ組合員ハ日夕相見ルノ徒タルヲ要スルカ故ニ、其區域ハ甚タ大ナルヲ得ス又組合員モ甚タ多數ナルコトヲ望ミ難シ、サレハ或ル組合ノ事業ニシテ廣キ區域ヲ必要トシ多クノ組合員アルコトヲ必要トスルカ如キ場合ニ於テハ勢ヒ有限責任ノ組織ニ依ラサルヲ得ス、且ツ他ヨリ多クノ資金ヲ仰クヲ必要トセサル組合ニ於テモ亦然リ、要スルニ無限責任組合ハ人ノ集合ト云フヘク、有限責任ノ組合ハ其ノ性質ヲ減スルヲ以テ、當事者宜シク組合事業ノ性質且ツハ其地方ノ狀況ニ鑑カミ其ノ宜シキニ從テ之ヲ定メサルヘカラス、而シテ保證責任ハ他ノ二者ノ中間ニ位ス

獨乙ニ於テハ、初メシユルチエ氏主義モ(ウ氏主義ハ勿論)無限責任ナリシカ、一八八九年ノ法律ニ依リ有限責任モ亦採用スルヲ得ルニ至レリ、一九〇五年ノ初ニ於テハ一萬四千二百七十二ノ信用組合中、千六百二十三ノ有限責任アリテ、ポメラニヤ及サクソンノ地方ニ多キヲ見ル、ドクトル、ラーベー氏曰ク、大中小ノ資産家ヲ網羅スル組合ニ於テハ、無限責任ノ組織ハ適當セス、何トナレハ大資産家ハ貧者ノ爲ニ、

餘リニ大ナル責任ヲ負擔セサルヘカラサレハナリト、然レトモラ氏主義組合ハ徹頭徹尾、無限責任ノ主義ヲ遵奉スル狀況ナリ

附記

斯クノ如ク組織ノ撰擇ハ實際上ノ問題ナリト雖、而カモ世道人心ノ上ヨリ論スルトキハ無限責任ハ常ニ最上ノ位置ニアルコトヲ疑ハス、而シテ余輩ハ特ニ茲ニ言ハントス、即チ農村ニ於ケル產業組合就中信用組合ハ悉ク此無限責任ノ組織ヲ採用センコトヲ希望スト、蓋シ農村ノ實況ハ資金少ナク鄉黨ノ念盛ニ、土着ノ風ニ富メハナリ、而シテ其社會的好現象ハ實ニ一國健全ノ基ヲナセハナリ

茲ニ一言スヘキコトアリ、產業組合ノ名稱中ニハ組織ヲ示スヘキ文字ヲ用ユヘキコトハ法第四條ノ命スルトコロタリ、斯ノ如ク名稱ニ依リテ組織ノ何タルヲ知ルヲ得ルニ拘ラス法第九條ハ名稱ヲモ組織ヲモ各別ニ定款ノ揭載事項トシテ特ニ之ヲ命シタリ、思フニ名稱已ニ明カナレハ組織ヲ特ニ記載スルハ蛇足ノ嫌アルカ如シ、然レトモ組織ノ組合ニ於ケル實ニ重大ナル關係ヲ有スルカ故ニ、特ニ之ヲ揭示シテ其重大ナル所以ヲ忘レシメサランコトハ立法者ノ親切ナル用意ナリトセサランヤ

四、事務所

事務所

事務所トハ組合カ其業務ヲ行フノ場所ナリ、而シテ此業務ヲ行フノ場所ハ數多アルコトヲ妨ケス、商法ニ依ル本店支店ノ如キ兩者トモ組合ノ事務所タルコト勿論ナリ、斯ク數多アル場合ニ於テハ總テ之ヲ揭クルヲ要シ且ツ特ニ主タル事務所ヲ區別スルヲ要ス、此主タル事務所ハ即チ組合ノ住所ナリ、是等事務所ヲ定款ニ揭クルニハ單ニ其位置ヲ示セハ足ル

出資一口ノ金額及其ノ拂込ノ方法

五、出資一口ノ金額及其ノ拂込ノ方法

一口ノ金額概念

(一) 出資一口ノ金額ハ特別ノ場合ノ外五十圓ヲ超エサル範圍內ニ於テ(規則第一條)均一ニ之ヲ定メ(法第十一條)定款ニ記載スヘシ、此均一ニ定ムヘキヲ命シタルコトハ出資口數ノ制限ト相俟テ其効ヲ奏スルモノニシテ大ニ注意スヘキ點ナリ、例令ハ茲ニ一ノ組合アリテ出資總口數六十口出資總額一千圓ナリトシ內五十口ハ一口ノ金額十圓ニシテ十口ハ一口ニ付キ五十圓ナリトセヨ、而シテ或ル一組合員ハ後者ノ十口即チ出資額五百圓ヲ有シタリトセヨ、此場合ニ於テハ他ノ組合員ハ合計五十口ノ出資ヲ有スレトモ其金額ハ僅カニ五百圓ニ過キス、

サレハ若シ此一組合員ニシテ組合ニ對シ忠實ナラス或ハ陰謀ヲ抱クカ如キコトアラハ組合ノ基礎動搖セサルヲ得サルヘシ、而シテコレ實ニ一口ノ金額ヲ不均一ニ定メタルノ結果ニシテ其現象ハ即チ大資本ノ跋扈ニ外ナラサルナリ、抑モ産業組合ノ必要ハ中産以下ノ人ニ向テ有之、組合員ノ人的信用ト少額ノ資金トヲ集メテ大資本ノ働キノ如クナラシムルコト、即チ組合員ノ經濟的利益ノ因テ來ル所ニコソアレハ、如上ノ大資本ノ跋扈ハ決シテ許スヘカラサルコトナリ、又一口ノ金額ヲ均一ニ定ムレハ計算ノ上ニモ少ナカラサル便利ヲ得ルナリ

今以上ノ議論ヲ極端ニ推シ行クトキハ各組合員ノ出資額ハ之ヲ均一ニスヘシト云フ結論ニ到着スヘシ、獨逸ノライフアイゼン氏組合ノ式ハ即チ是也、然レトモ我産業組合法ハ前記ノ如ク或ル範圍内ニ於テ出資額ノ不均一ヲ認メタリ、一口以上十口以下ノ制限ニシテ一口普通五十圓ヲ超ユルヲ許サヽルカ故ニ、一組合員ノ引受ケ得ヘキ最多出資額ハ五百圓ニシテ、此場合ニ於ケル一組合員ノ最少出資額ハ五十圓ナリ、サレハ其懸隔ハ甚タ大ナラサルヲ以テ組合ノ基礎ヲ動カス程ノ弊害モ起ラサルヘク、一方ニ於テハ組合ハ之カ爲メニ多クノ財産ヲ得、

其ノ額

多少餘裕アル組合員亦之ニ依リテ實際上ノ貯蓄ヲ爲スヲ得ルノ便利アリ

然レトモ一口ノ金額ハ我國ノ民度ニ徵スレハ五十圓ト定ムルハ甚タ大ニ過クルノ感アリ、故ニ可成之ヲ小ニシテ小民ノ爲ニ計ランコトヲ望ムライフアイゼン氏ノ如キハ元來金錢ノ餘裕ヲ有セサル小民ヨリ出資ノ拂込ミヲ爲サシムルハ根本ニ於テ誤レリト云ヘリ、頗ル味フヘキナリ、唯タ事業經營上多額ノ出資ヲ要スルノ止ムヲ得サル場合ニ於テ、中産以下ノ者ノ加入ヲ杜絶スルコトナクンハ多額ニ定ムルコトモ強チ非難スヘキニアラサルナリ（規則第一條）

拂込方法

(二)出資第一回ノ拂込ハ組合設立ノ許可ヲ受ケタル後當然遲滯ナク之ヲ爲スヲ要スルカ故ニ（法第十二條）、別ニ規定ヲ設クルヲ要セス、サレハ本項拂込方法トシテ規定ヲ要スルハ第二回拂込ヨリ始マルコトヽ知ルヘシ

出資ハ之ヲ數回又ハ數十回ニ別チテ拂込ムヲ得ヘシ其毎回ノ金額ハ同一トスルモ相異ナラシムルモ隨意ナリ、且ツ其毎回拂込ノ時期ハ毎日トスルモ毎月トスルモ何ケ月越トスルモ一年一回トスルモ一回ニ拂込ムコトヽスルモ何レモ隨意ナリ、而シテ或ハ數種ノ拂込方法ヲ列記シテ組合員ノ便宜ニ任セ之ヲ撰擇

シ得ルノ仕組トスルモ、亦妙ナラン、斯ノ如ク方法種々アリテ當事者ノ隨意採用スルヲ妨ケストイヘトモ、要スルニ可成秩序正シキ方法ヲ設クルヲ要ス、何トナレハ苟シクモ産業組合ニ忠實ナル組合員ハ極メテ秩序アル行動ヲ爲スヲ要スルヲ以テナリ、猶一言スヘキハ組合員ノ便利ヲ妨ケス、困難ヲ感セシメサル以上ハ出資ハ可成速ニ拂込ヲ終ル樣定ムルコト之ナリ、コレ組合ノ基礎ヲ固ムルニ欠クヘカラサル注意ナリ

剩餘金ノ配當

此拂込ニ關シ更ニ注意スヘキコトアリ、法第四十三條ノ「組合員カ其出資ノ拂込ヲ終ル迄ハ之ニ配當スヘキ剩餘金ハ其ノ拂込ニ充ツヘシ」トノ規定ニ關スルコト是ナリ、抑モ組合員カ可成速ニ其ノ出資ノ拂込ヲ終ルヲ要スル所以ハ、之ヲ組合ノ側ヨリ云ヘハ前記ノ如ク組合ノ基礎ヲ固ムルヲ得ル利益アルコトナルカ、之ヲ組合員ノ側ヨリ云ヘハ各自ノ義務速カニ片付クノ利アルヘシ、即チ可成速カニ拂込ヲ終ラシメンカ爲ニ法律ニ前記ノ規定アル所以ナリ、此法律ニ依リ配當スヘキ剩餘金ハ必ス拂込ニ充ツヘキコトハ勿論ナルカ、其充當ノ方法ニ至リテハ少シク攻究スヘキ餘地アルナリ、余輩ハ此方法ニ付テハ配當金ノ爲メニ毎期ノ出金額ヲ變セシムヘカラストノ一語ヲ以テ結論トナサントス、換言スレハ組合員カ毎期手元ヨリ出スヘキ金額ハ此配當金ノ外トスルコト是ナリ、(今例ヲ以テ之ヲ説明センカ、毎年四圓宛ノ拂込ヲ爲スヲ要スル組合員ニ對シ、或ル年度ノ配當金二十錢ナリトセヨ、此場合ニ於テ此組合員ハ差引三圓八十錢ヲ手元ヨリ拂込ムトキハ結局過不足ナシト云ヘトモ、手元ヨリ四圓ヲ出シ配當金ト合セテ四圓二十錢ノ拂込トスルナリ)斯ノ如クスレハ、組合員ハ毎期一定ノ金額ヲ出スコトヲ忘レサルカ故ニ秩序アル思念ニヨリ行動スヘキノミナラス、最後ニ於テ其ノ拂込ノ義務ヲ輕クスルカ故ニ、拂込ヲ終ルニ際シテ特ニ喜悅ノ感想ヲ惹起スノ利アルヘキナリ

新加入者ノ拂込方法

猶茲ニ一言ヲ費サヽルヘカラサルコトハ、新加入者ノ出資拂込方法是ナリ、此方法ハ之ヲ大別シテ二トナスヲ得ヘシ、一ハ前記一般ノ方法ニ從ヒ、二ハ前組合員カ已ニ拂込ミタル額ト同額ヲ加入當時ニ於テ拂込ムコト是ナリ、兩者ノ得失ハ各一利一害アリ、前者ニ從ヘハ拂込ニ付キ特別ノ苦痛(一時ニ多クヲ拂込ム苦痛)ナケレトモ組合ノ帳簿計算上ニ於テハ少ナカラサル面倒アリ(持分計算等ニ於

テ)後者ニ從ヘハ帳簿計算上ニ於テハ少シノ面倒ナケレトモ一時ニ拂込マシムルノ結果ハ多クノ苦痛ヲ感セシメサルヲ得ス、斯ノ如ク一利一害ハ有之ト雖、抑モ組合ノ精神ヨリ推ストキハ組合員ニ可成苦痛ヲ感セシメサルコトヲ要ス當事者宜シク事業ノ性質地方ノ狀況等ニ鑑カミ其宜シキニ從テ處理セラレヨ、猶ホ後者ノ場合ニ於テ一言スヘキハ、一時ニ拂込マシムルノ苦痛ヲ輕カラシメンカ爲ニ、一時ニ拂込ミタル形トナシ實際ハ月賦其他利子付ノ方法ニ依リ一定ノ期間ニ全額ヲ拂込マシムル便法ナキニアラサルコト是ナリ

出資ノ拂込方法ハ、持分ノ計算ヲ公平ナラシムル爲ニ「加入金」ト併セ攻究スルノ必要アリ

第一回拂込ノ金額

六、第一回拂込ノ金額

組合設立セラレテ事業ヲ開始セシトスルニハ先ツ比較的多額ノ資金ヲ得サルヘカラス、又組合員モ初メニ比較的多クノ出金ヲ爲ストキハ、組合ニ加入スル感念モ鞏固ナルヘシ、故ニ第一回拂込金額ハ事情ノ許ス限リ可成多キニ從フヲ以テ可ナリトス、然ルトキハ組合ノ基礎モ固マリ事業モ容易ニ運フヘキナリ、此故ニ規則第二條ハ第一回拂込金額ハ出資額ノ十分ノ一ヲ下ルコトヲ得サル旨ヲ規定シタリ、實ニ其ノ當ヲ得タルモノナリトス

剰餘金處分及損失分擔ニ關スル規定

剰餘金處分

七、剰餘金處分及損失分擔ニ關スル規定

(一)抑モ産業組合ハ其精神、組合ノ利益ヲ計ルニ在リト云フヨリモ、寧ロ組合員ノ利益ヲ計ルニ在リト云フ方痛切ナリ(組合ノ利益ハ取モ直サス組合員ノ利益ニ相違ナケレトモ)、而シテ組合員ハ組合事業ノ執行中ニ利益ヲ享クルヲ以テ通理トナス、之ヲ例フルニ信用組合ノ組合員ハ低利ニシテ且ツ正當ナル期限付ノ資金ヲ容易ニ得、及ヒ安全ニ些細ノ貯蓄ヲモ爲スヲ得ルコトニ依リテ組合設立ノ利益ヲ享クヘク、購買組合ニ在リテハ安價ナル良好ノ物ヲ容易ニ購入スルヲ得ルコトニ依リテ組合設立ノ利益ヲ享クヘキナリ、サレハ若シ組合ニシテ安全ニ事業ヲ經營シ得ヘクンハ其ノ得ヘキ利益ハ事業執行中ニ組合員ニ與ヘラレ盡シテ年度ノ終ニ於テハ些ノ剰餘金ヲモ有スル必要ナカルヘシ、然レトモ實際ニ於テハ事業上ノ準備、經濟上ノ變動ニ關スル危險ノ擔保、其他ノ保險等ニ對スル用意ヲ爲シオクノ必要アルノミナラス、且ツ組合員ノ蓄財組合財産ハ即チ組合

員ノ蓄財ナリ)ヲモ大ニ進ムルノ必要アルカ故ニ、其ノ得ヘキ利益ヲ事業執行中ニ悉ク組合員ノ手ニ渡スヘカラサルハ勿論、年度ノ終リニ於テ尠ナカラサル剰餘金ヲ得ルヲ要スルナリ、而シテコレ取リモ直サス組合員ノ利益タルナリ、猶ホ此事ハ事業ノ種類ニ從テ他ニ多少異ナル論點ナキニアラス(第四章乃至第八章及本章十一「組合ノ目的タル事業ノ執行ニ關スル規定」ヲ參照セラレヨ)

處分ノ考案

事業經營ノ結果トシテ得タル剰餘金、詳言スレハ或事業年度ノ總益金ヨリ總損金ヲ差引キタル殘金ハ如何ニ之ヲ處分スヘキヤ、先ツ法律ノ命スルカ如ク其ノ總額ノ四分一以上ハ之ヲ準備金トシテ積立テサルヘカラス(法第四十六條)、其殘リノ四分ノ三以下ハ特別積立金、配當金、役員賞與金、組合員奬勵金、特別配當金、繰越金等種々ノ考案アルヘシ、當事者宜シク適當ト信スル項目及割合ニ依リテ査定セラレヨ、猶ホ注意スヘキコトハ組合ノ安固ハ組合員ノ利益ニ外ナラサルカ故ニ可成組合ノ財産ヲ增スノ方針ヲ採ルヲ要ス、即チ準備金ノ如キハ四分ノ一ノ積立ナラハ決シテ少ナシト云フヲ得サレトモ、事情ノ許ス限リ殊ニ設立日淺キニ當リテハ可成多クヲ積立ツルコト肝心ナリ、組合員ノ手ニ交付スヘキ配當金ノ如キ或ハ口腹ノ慾ト共ニ雲散霧消スルナキヲ保セス、思ハサルヘカラス、獨逸ライフアイゼン氏組合ノ如キハ組合員ハ事業執行中ニ直接ノ利益ヲ得ヘキモノナリトノ見地ヨリ、剰餘金ハ殆ント全ク準備金ニ積立テ、ヒタスラ組合ノ隆盛ヲ計ルノ結果今日ノ盛大ヲ見ルニ至レリ、頗ル味フヘキ也

二三ノ注意

剰餘金處分ニ關シ二三ノ注意ヲ要スルコトアリ、(一)損失(前年度ノ)ヲ塡補シタル後ニアラサレハ剰餘金ノ處分ヲ爲スコトヲ得サルコト(法第四十四條)、(二)組合員カ出資ノ拂込ミヲ終ラサル以前ニアリテハ其組合員ニ配當スヘキ剰餘金ハ出資ノ拂込ニ充ツルコト(法第四十四條)、(三)持分ノ全部又ハ一部ニ對スル配當ノ率ハ年六分ヲ超ユルヲ得サルコト(規則第十一條)等ハ法規ノ嚴ニ命スルトコロナリ、(持分ニ對スル配當率ノ制限、酷ナル如シトイヘトモ其實ハ然ラス、組合盛運ニ向ハヽ組合員ノ持分ハ大ニ增加スヘシ、其ノ出資ハ僅カニ十圓ニ過キサルモ其ノ持分ハ二十圓ナルコトモ二十五圓ナルコトモアルヘシ、此場合ニ於テ持分ニ對シテ年五分ノ分配ヲ爲サンカ、實際組合員ノ手ヨリ出シタル金即チ出資ニ對シテハ年一割以上ノ利率トナルヘシ、而シテ斯ノ如クシテ出資ニ對シテハ二

割三割等ノ利率トナルニ至ラハ、組合經營主義ノ如何ニ依リテハ或ハ適ハサルコトモアルヘシ、當事者宜シク酌量シテ出資額ヲ標準トシテ配當ノ率ヲ定メンコトモ可ナルヘシ

損失ノ分擔

(二)損失ノ分擔ハ損失ノ塡補(塡補トハ資金ニ欠損ヲ生シタル場合ニ之ヲ補充スルノ意ナリ即チ組合財産ノ範圍内ニ於ケル流用ニ外ナラス)トハ其意義ヲ異ニシ、如何ナル割合ヲ以テ各組合員カ損失ヲ分擔スルヤノ義ナリ、サレハ此規定ノ用ハ組合財産ヲ以テ其債務ヲ完濟スルコト能ハサル場合、換言スレハ損失ヲ塡補スルコト能ハサル場合、更ニ換言スレハ組合破産ノ場合ニ於テ始メテ起ルモノナリ、此場合ニ於テ組合ノ組織若シ有限責任ナラハ組合員ハ何等ノ負擔有之コトナシト雖、無限責任又ハ保證責任ニ在リテハ組合員ハ各自ノ全財産又ハ一定ノ金額ノ限度迄ハ責任ヲ負擔セサルヲ得ス、サレハ損失額、換言スレハ債務ノ額カ無限責任ニ在リテハ總組合員ノ全財産、保證責任ニ在リテハ保證總額ニ等シカリシカ又ハ之ヨリ大ナリシ場合ニ於テハ、各組合員ハ其責任總額ヲ擧ケテ義務ヲ盡サヽルヘカラサレトモ、實際ニ於テハカヽル大ナル損失ハ決シテ之ナシト云フヲ得ヘキナリ、斯ノ如ク損失ノ額カ責任總額ヨリ小ナリシ場合ニ於テハ各組合員ハ如何ナル割合ヲ以テ之ヲ負擔スヘキヤ、是レ豫メ此規定ヲ爲シオクヲ必要トスル所以也、而シテ茲ニ注意スヘキハ脫退シタル組合員ト雖其脫退前ニ於ケル組合債權者ニ對シテハ或ル一定ノ期間ニ於テハ現組合員ト同シク責任ヲ負擔スヘキコト是ナリ(法第五十八、終)

分擔ノ考案

其ノ方法トシテハ種々アルヘシ、或ハ拂込濟出資額ニ應スルモ可ナラン或ハ出資額ニ應スルモ可ナラン、保證責任ニ在リテハ保證金額ニ應スルモ可ナラン、平常組合ノ庇蔭ニ因リ多クノ利益ヲ得タルモノハ多クノ負擔ヲ爲サシムルカ如キハ穩當ナル處置ナラン、要ハ公平ヲ失セサルニアリ、而シテ此事項ハ脫退シタル組合員ニ關スル分ヲモ合セテ定款中ニ記載スルヲ要ス

準備金ノ額及其ノ積立ノ方法

八、準備金ノ額及其ノ積立ノ方法

其ノ額

産業組合ハ社團法人トシテ獨立ノ行動ヲ爲スカ故ニ、事業ノ結果時ニ資金ニ缺損ヲ招クコトナキニアラス、此場合ニ於テ之ヲ塡補スル道ナクンハ、組合ノ事業ハ一朝ニシテ挫折スルノ悲境ニ陷ルヤモ計ルヘカラス、サレハ豫メ極メテ確實

ニ保管セラルヽ準備金ヲ積立テ置クコトヲ怠ルヘカラス、而シテ準備金ノ額ハ大ナレハ大ナル程組合ノ基礎ハ安固ニシテ、時々波瀾起ルモ泰然トシラ動揺スルコトナケン、ライファイゼン氏組合ノ隆盛ナル原因ノ重ナル一ハ實ニ之ニ居ル、加フルニ準備金増加スレハ組合員ノ實際的貯蓄増加シ、時トシテ雲散霧消スル資金ヲ有効ニ轉用スルヲ得ヘキナリ、故ニ規則第三條ハ此理ニ從ヒ準備金ノ額ハ出資總額ヲ下ルコトヲ得サル旨ヲ規定シテ組合ニ命シタリ、以テ法律カ如何ニ組合ノ安固ヲ望ムノ切ナルヤノ一端ヲ察スルヲ得ン、此ノ主旨ヲ推シ行クトキハ準備金ノ額ハ可成高キニ從テ定ムルヲ要スト雖、而カモ組合事業ノ結果トシテ得ラルヘキ利益ハ決シテ非常ニ多大ナルヲ得サルカ故ニ、徒ラニ多額ヲ榜標シテ實際ニ不可能ナルカ如キコトヲ避クヘシ、今此額ヲ定欵ニ規定スルニハ種々ノ記載方法アルヘシト雖前ニモ記セシ如ク此額ハ出資總額ヲ下ルコトヲ得ス、而シテ出資總額ハ組合員ノ加入脱退等ニ因リ常ニ變動スヘキカ故ニ、例ヘハ「本組合ノ準備金ハ何千圓トス」ノ如キ規定ニテハ何千圓ハ時々出資總額ヨリモ少額ナル場合ヲ生スルノ結果、其都度定欵ヲ改正セサルヲ得サル不便ヲ來

其ノ積立ノ方法

スヘシ、サレハ結局「出資總額ノ何倍トス」或ハ「出資總額ト何百圓トノ和ニ等シキ金額トス」ノ意ニテ規定ヲ設クル方最モ便宜ナラン

準備金ノ額ヲ定メタル以上ハ、更ニ如何ニ之レヲ積立ツルヤノ方法ヲ規定セサルヘカラス、加入金又ハ脱退者ニ對シ一部ノ拂戻ヲ爲シタル持分ノ殘額(全部拂戻サヽル場合ハ勿論)ノ如キハ規則第四條ニ依リ當然之ヲ準備金中ニ繰入レサルヘカラサルモノナルカ故ニ、特ニ之レヲ定欵中ニ規定スルノ必要ナシ、而シテ法第四十六條ハ規定シテ曰ク「組合ハ定欵ヲ以テ定メタル準備金ノ額ニ達スル迄毎事業年度ノ剩餘金ノ四分ノ一以上ヲ積立ツヘシ」ト、即チ組合ハ此命令ニ從ヒ四分ノ一以上ノ範圍内ニ於テ四分ノ一、三分ノ一、二分ノ一等ノ標準ニ依リ之ヲ定メテ定欵中ニ記載スルヲ要ス、四分ノ一ハ決シテ少額ニアラスト雖出來得ヘクンハ可成多額ヲ積立ツルコトヲ望マサルヲ得ス、故ニタトヘ何分ノ一ト定メタリトシテモ猶都合ニヨリテハ、其他ノ部分ヲモ繰入ルヽコトヲ得ル樣記載シ置クヲ可ナリトス、且ツ定欵ノ規定ニ依リ過怠金手數料等ノ如キ不時ノ收入ヲ得ヘキ場合アラハ、是等ハ準備金ニ繰入ルヽ樣規定スルコトハ好マシキコト

組合員タル資格ニ關スル規定

ナリ

九、組合員タル資格ニ關スル規定

産業組合ハ共同團體ナリ、共同ノ目的ヲ達センニハ團體ノ一分子タル組合員ハ必スヤ相互ニ共同ヲ成シ得ヘキ者タルコトヲ要ス、故ニタトヘ組合員ノ數ハ之ヲ限定スルコトヲ得サルヿハ法第十條ニ規定セル一ノ原則ナリト雖、而カモ其組合員タル者ハ如何ナル業ヲ營ミ又ハ如何ナル狀態ニ在ル者タルコトヲ要スル等ノ規定ヲ設ケ置クコトハ、共同ノ目的ヲ達スル爲ニ欠クヘカラサル條件ナリ、例ヘハ同一種ノ業ヲ營ム者トカ、同一種ノ物ノ生産者トカ、需要者トカ、同種ノ組合ノ組合員タラサル者トカ、丁年以上ノ者トカ、正直勤勉ナル者トカ等種々ノ規定ヲ設ケ得ヘシ、然リ而シテ産業組合ノ組合員タル者ハ殆ント總テ産業者タル資格ヲ有セサルヘカラサルコトハ勿論ナリ、(第四章乃至第八章參照)且ツ組合員ハ組合ノ一員トシテ總會其他ノ場合ニ於テ自己ノ意見ヲ提出シ得ヘキ程度ノ資格アルヿヲ必要トス斯ノ如ク彼是ノ必要ヨリ組合員タルモノハ一個獨立ノ者タルヲ望マサルヲ得ス、彼ノ世俗ニ在リフレタル賴母子講ノ講員ノ如ク妻

組合員及脱退ニ關スル規定加入

モ子モ加入スルカ如キハ、或ル種ノ組合例ヘハ信用組合ノ貯蓄ノ事業ノ如キニ取リテハ便ハ即チ便ナルカ如シト雖、是レ産業組合本來ノ精神ニ協ハサルノミナラス、或ハ反テ發達ヲ阻害スルノ患ナシトセス(貯蓄ニ付テハ便法アリ第四章參照)當事者ノ深ク注意ヲ要スル點ナリ、且ツ此資格ハ組合ノ組織ニ依リテモ多少緩嚴ノ差アルヲ自然ノ結果トスヘキコトハ、本章三「組織」ノ部ニ就テ考究セラレヨ

猶ホ除名ノ規定ノ如キハ一方ヨリ觀察スルトキハ組合員ノ資格ニ制限ヲ附シタルモノニ外ナラス

神官、僧侶、學校教師等ノ如キハ産業者ニアラサルモ、組合員トナリテ、地方ノ爲ニ盡力スルハ、法意ニ背クコトナカルヘシ

十、組合員ノ加入及脱退ニ關スル規定

(一)組合員ノ加入ニ關スル法律ノ命令ハ唯一アリ、法第四十九條ニ規定セル無限責任組合ニ加入セントスル者ハ總組合員ノ同意ヲ得サルヘカラサルコト是ナリ、抑モ組合員カ其全財産ヲ擧ケテ責任ヲ負擔スル無限責任ノ組織ニ於テハ、組

合事業失敗ノ結果ハ遂ニ彼等ノ産ヲ破ルニ至ルナキヲ保セス、而シテ事業ノ失敗ハ僅カニ一二ノ組合員ニ因リテ起ルコト皆無ト云フヘカラス、サレハ無限責任ノ組合員タルモノハ相互ニ深ク信用セラレ十分ニ結合スヘキヲ必要トスルハ勿論ニシテ、新ニ加入セントスル者ニ對シ舊組合員ノ僅カニ一人ニテモ不信用ナリト云フ時ニ於テハ、其ノ加入ヲ許スヘカラサルハ理ノ當然ナリ、無限責任組合ハ之ヲ切言スレハ組合員カ其ノ全財産ヲ擧ケテ組成セル共同事業ナルカ故ニ、組合員相互ノ信用ハ特ニ大切ナルコトナリ、況ンヤ此組織ハ社會改良ノ點ニ於テ最モ大ナル望ヲ屬セラルヽニ於テオヤ

保證責任、有限責任ノ組合ニ付テハ加入ニ關シ法律ニ何等ノ規定ナシ、故ニ定欵ニ於テ如何樣ニモ規定スルヲ得ト雖、無限責任組合ニ對スル法律ノ命スルトコロヨリ推ストキハ、法律ノ精神ハ略ホ之ヲ知ルヲ得ヘシ、有限責任ノ組合ニ在リテハ單ニ理事ノ同意ニ依リ決スルモ可ナラン、當事者宜シク事ノ輕重ニ鑑ミラレヨ

以上述ヘタルカ如ク加入者ニ對スル制限ハ種々アリトイヘトモ、苟シクモ組合員タル資格ヲ有シ且ツ組合ニ忠實ナル者ニ對シテハ決シテ其ノ加入ヲ拒ムヘカラス、コレ産業組合ノ精神ニ協フノミナラス又組合ノ發達ニ少ナカラサル助ケトナルヘケレハナリ

其ノ時期

加入ハ固ヨリ何時ニテモ之ヲ承認スルコト、ト新加入者ニ對スル好意ニシテ且ツ便宜ナル點モアルヘシ、然レトモ組合ノ帳簿其他計算上ノ便宜ノ爲メ(申込)ハ何時ナリトシテモ)事業年度ノ初メ又ハ其他一定ノ時期ニ之ヲ許否スルコトモ勝手タリ、此場合ニ於テハ之ヲ定欵中ニ定メ置クヲ肝要トス

加入金

加入ニ際シ加入金ヲ徵スルヲ妨ケス、法律ニ何等ノ規定ナキカ故ニ定欵ヲ以テ如何樣ニモ約束スルヲ得ヘシトイヘトモ、加入金ノ制ノ爲メニ新加入者ノ躊躇ヲ惹起スルカ如キコト無キヲ望ム、加入金ハ或ハ手數料ノ意味ニテ徵スルモ宜シト雖、組合財産ニ付キ舊組合員ト同等ノ權義ヲ得セシメンカ爲メニ持分ヲ定ムル方法ニ伴ナヒ(本章十六參照)組合財産ノ高ニ依リ其額ヲ定ムルヲ可ナリト思考ス、加入金多額ニ上ルトキハ數回ニ分納スル方法モアルヘキナリ

注意

新ニ加入シタル組合員ハ其加入前ニ生シタル組合ノ債務ニ付テモ亦責任ヲ負

擔セサル可ラサルハ法第廿二條ノ規定スル所ニシテ別ニ説明ヲ要セサルヘシ

脫退

(二)脫退ニハ法律上當然脫退スヘキ場合ト、任意ニ脫退スル場合トノ二種アリ、當事者宜シク以下説ク所ニ依リ相當ノ規定ヲ設ケラレヨ

法定ノ脫退

前者ニ屬スル場合ハ組合員タル資格ノ喪失、死亡、破産、禁治産及除名ノ五ツアリ(法第五十一條)、今之ニ付キ多少ノ説明ヲ加ヘン

組合員タル資格ノ喪失ニハ種々ノ場合アルヘシ、資格ハ已ニ説キタル如ク定欵中ニ之ヲ規定シアル故ニ、之ニ協ハサル者ハ即チ脫退スルヲ要ス、例ヘハ資格トシテ「區域内ニ住居シ農業ヲ營ム者」タルコトヲ規定シアレハ、區域外轉住、農業ノ轉業等ハ直チニ資格ノ喪失ヲ構成スルナリ、又法第十九條ニ依リ組合ノ承諾ヲ經テ自己ノ持分全體ヲ他ニ讓渡シタルモ資格ノ喪失ニ外ナラス、何トナレハ組合員タル者ハ法第十七條ニ依リ必ス出資一口以上ヲ有セサルヘカラサレハナリ」死亡者ハ固ヨリ當然脫退スルモノナルカ故ニ其相續者ハ直チニ組合員タル資格ヲモ相續スルヲ得ト考フルコトハ誤レリ、抑モ産業組合ノ組合員ハ人的信用ニ富ムモノタルヲ要スルコトハ屢々述ヘタルトコロニ依リ明ナリ、而シテ父ト子、詳言スレハ被相續人ト相續人トハ其ノ人的信用ニ於テ決シテ同一ナルモノニアラス、例ヘハ父ハ謹直業ニ勵ム善人ナリトモ、子ハ放蕩無賴ノ惡漢タルコト少ナカラス、サレハ相續人カ組合員タラントスルトキハ單純ナル新加入者トシテ之ヲ許否スヘキモノナルコトハ、組合ノ精神ニ徵シ當然ナルノミナラス又法律ノ認ムルトコロナリ、唯實際ノ便宜上被相續人ニ對スル持分計算ノ手數ヲ省略スルカ如キハ固ヨリ差支ナカルヘシ、模範定欵ノ規定ノ如キ此意ニ外ナラサルナリ

破産シタル者ノ如キハ到底組合員タルヲ得サルハ固ヨリ言ヲ俟タス

禁治産者即チ心神喪失ノ常況ニ在ル者(民法第七條)カ脫退スヘキコト亦固ヨリ明カナリ

除名ハ定欵ニ定メタル事由ニ基キ總會ノ決議ヲ經テ其組合員ニ通知シ初メテ効力ヲ生ス(法第五十二條)、コレ除名ノコトハ愼重ヲ貴ヒ濫リニ組合員タル權利ヲ奪フカ如キコトナカラシメン爲ナリ、而シテ除名ハ當然脫退ヲ意味ス、猶ホ除名ノ事由ニ付テハ後ニ項ヲ設ケテ説クトコロアラン

任意ノ脱退

組合員カ任意ニ脱退セントスルトキハ六箇月前(或ハ定欵ニ定メタル二箇年以内ノ期間)ニ其豫告ヲ爲シ、事業年度ノ終ニ於テ脱退スルコトヲ得(法第五十條)、此豫告ノコト及年度ノ終ノコトヲ命シタル法律ノ主旨ニ付テハ少シク言明スルノ必要アリ、法律カ任意ノ脱退ヲ認メタルハ組合員ノ自由ヲ認タタルモノナリト雖、何時ニテモ任意ニ脱退スルヲ許サハ、組合事業ノ計畫ニ少ナカラサル混雜ヲ來スヘキハ勿論、或ハ組合ノ事業少シク不振ナルニ際シテハ一時ニ數多ノ脱退ヲ見ルカ如キコトアリテ、事業ノ進行ニ障害ヲ與フルヤ甚タ大ナルモノアラン、然レトモ或ル期間ニ脱退ヲ豫知スルヲ得ハ直チニ之ニ應スル方策ヲ講スルヲ得ヘキカ故ニ大ナル不便ナカルヘシ、是レ豫告ノ必要ナル所以ナリ、又事業年度ノ終ニ於テハ一年間ノ事務ヲ終結シ且ツ新年度ニ對スル計畫ヲ爲スヘキカ故ニ、此時ニ於テ脱退ヲ許サハ事業進行上ノ便宜ハ勿論諸種ノ計算ニモ少カラサル便宜アルヘキナリ、猶ホ本章三十一「任意脱退者ノ豫告期間」ヲ參照セラレヨ

持分ノ拂戻

法第五十三條ニ曰ク、脱退シタル組合員ハ定欵ノ定ムル所ニ依リ其持分ノ全部又ハ一部ノ拂戻ヲ請求スルコトヲ得」ト、サレハ定欵ノ規定ニ依ラサレハ拂戻ヲ請求スルコトヲ得サルモノトス、思フニ組合員タル者ハ專心組合ノ隆盛ヲ祈ル樣ノ心懸ケナカルヘカラス、然ルニ若シ其心懸ケ惡シク或ハ素行修マラサルカ爲ニ、除名其他ノ事由ニ依リ脱退スルカ如キ場合ニ在リテハ、其持分ノ拂戻ヲ爲サストモ、法ニ反スルコトナシ、然レトモ死亡其他止ムヲ得サル事由ニ依ル者ニ對シテモ拂戻ヲ爲サヽルコトハ、共同貯蓄ノ本意ニモ背クモノナレハ、持分ノ全部ヲ拂戻スコト當然ナリ、要スルニ事由ノ輕重ニ從ヒ持分ノ全部又ハ一部ノ拂戻ヲ爲スコトトシ相當規定ヲ設クヘキナリ、而シテ此持分ハ事業年度ノ終ニ於ケル組合財産ニ依リテ定ムヘキモノナリ(法第五十四條)ト雖、定欵ノ定ムル所ニ依リ斯ク〳〵ノ脱退者ニ對シテハ、脱退當時ノ財産ニ依リテ之ヲ定ムルコトヽシ差支ナシ(法第五十四條)

無限又ハ保證責任組合ニ於ケル脱退者ノ責任

有限責任ニ在リテハ組合員ハ脱退スレハ全然組合ト關係ヲ絶ツヘキハ理ノ當然ナリ、然レトモ無限責任及保證責任ノ組合ニ在リテハ脱退ノ爲ニ起ル障害ニ對シテハ組合ハ十分ニ保護セラレスンハ遂ニ其ノ基礎ヲ危クシ、現在ノ組合員ニ少ナカラサル損害ヲ與フルコトアルヘシ、實際ニ於テ或ハ組合ニ妨害ヲ與ヘ

ン意思ヲ以テ脱退スル向モアラン、或ハ共同ノ精神ヲ忘レテ故意ニ脱退スル向モアラン、是等ノ場合ニ於テ相當ノ期間、脱退組合員ニモ現組合員ト同シク責任ヲ負ハシムルトキハ、如上ノ弊害ヲ豫防スルコトヲ得ヘシ、是レ法第五十八條ノ規定アル所以ニシテ法律カ組合ノ安固ヲ望ムノ切ナル一端ヲ察知スルヲ得ヘシ

組合ノ目的タル事業ノ執行ニ關スル規定

十一、組合ノ目的タル事業ノ執行ニ關スル規定

組合ノ目的ハ實ニ事業ノ執行ニ在リ、組合一切ノ行動カ其ノ事業ヲ中心トシテ爲サルヽ如ク、定款一切ノ規定モ亦事業ノ執行ヲ中心トスヘキヤ言ヲ俟タス、若シモ組合ノ事業ニシテ盛大ナラサランカ、其他一切ノ事項如何ニ整頓スルアルモ組合員ハ決シテ共同ノ目的ヲ達スル能ハサルヘシ、何トナレハ組合ノ隆盛切言スレハ組合員ノ利益ハ一ニ此事業ノ結果トシテ現ハレ來ルモノナレハナリ、サレハ此事ニ關シテハ特ニ細密ナル注意ヲ拂フコトヲ要ス

各種組合ノ性質ニ關スル一切ノコトハ第四章乃至第八章ニ略ホ之ヲ盡セリ、當事者願クハ此規定ノ考案ヲ立テラルヽニ際シ特ニ深ク之ヲ參照セラレヨ、抑モ事業ノ執行ニ關スル一切ノ事項ハ甚タ雜多ニシテ、其細目ニ至リテハ時季ニ依リ事情ハ依リ或ハ屢更改スルノ必要ナキニアラサルヲ以テ、總テ之ヲ定款ニ網羅センコトハ、徒ラニ混雜ヲ來スノ恐アルノミナラス寧ロ實際ニ適セスト云フヘシ、サレハ定款ニハ其ノ綱要ヲ規定スルヲ以テ足レリトシ、其ノ細目ハ總會又ハ理事等ノ協議ニ依リ細則トシテ之ヲ定メ、隨意更改スルノ便ヲ得ル方針ニ出ツルヲ可トス、但シ事ノ重要ナルモノハ必ス定款ニ包含セシムヘキヤ言ヲ俟タス

存立時期又ハ解散ノ事由

存立時期

事業ノ執行ハ固ヨリ各種目的ノ範圍ヲ脱スヘカラス、而シテ之ヲ執行スル者ハ理事ナリ、理事ノ責任實ニ重シト云フヘシ、且ツ若シ必要ナラハ其ノ指揮ノ下ニ書記技術員其他手代等ヲ置ク旨ヲ定款ニ規定シテ、事務ノ敏活ヲ計ルコトヲ得、各種組合ノ事業ノ執行ニ付キ如何ナル規定ヲ必要トスルヤニ關シテハ、第四章乃至第八章ニ論述シタルトコロヲ熟讀セハ庶幾クハ要領ヲ得ン

十二、存立時期又ハ解散ノ事由

存立時期ハ之ヲ定ムルモ又定メサルモ可ナリ、組合ノ存在ハ其地方ノ盛衰ト永

久ノ關係ヲ有スルカ故ニ、此主旨ヨリ推論スルトキハ組合ヲ設立スルニ當リテハ之ヲ無窮ニ隆盛ナラシムル意氣アルヲ要スルヲ以テ、存立時期ヲ定メスシテ無窮ニ存續スルノ覺悟ヲ示スモ可ナリ、然レトモ組合事業ノ種類(例令ハ永久ニ產出セラレサル生產物ニ加工スル場合ノ如キ)其他ノ狀況等ノ如何ニ依リテハ之ヲ規定シテ確然タル意思ヲ示スモ可ナリ、但シ必要ノ場合ニハ何時ニテモ定欵變更ノ決議ヲ爲スヲ得ヘキカ故ニ、要スルニ此規定ノ存スルト否トハ大ナル利害ノ差點ナシト云フヘシ

解散ノ事由

法第六十二條ハ解散ノ事由ニ五ツノ種類ヲ掲ケタリ、其第一號ニ曰ク「定欵ニ定メタル事由ノ發生」ト、而シテ此事由ハ之ヲ定ムルト定メサルトハ當事者ノ勝手タリ、サレハ例ヘハ組合員カ何人ニ減シタルトキトカ組合財產カ幾何ニナリタルトキカノ如キ事由ヲ定ムル固ヨリ不可ナシト雖、若シ必要ノ場合ニ於テハ是等規定ノ事由ニ依ラストモ、總會ノ決議ヲ以テ解散ヲ爲スヲ得ルカ故ニ、餘リ重要ナルコトニハアラサルナリ

信用組合ノ區域

十三、信用組合ノ區域

信用組合ハ其事業特ニ資金ノ貸付ニ付キ人的信用ニ重キヲ置キ、從テ社會改良ノ點ニ於テ他ノ組合ノ企テ及ハサル性質ヲ有スルニ因リ、其區域ハ決シテ廣キニ過クルヲ得ス、組合ハ常ニ組合員ノ行動ヲ知ルコトヲ得、組合員ハ相互ニ常ニ其ノ行動ヲ監視スルノ必要アリ、コレ信用組合ノ區域ハ市町村ノ區域以內ニ於テ之ヲ定メ定欵中ニ記載スヘキ規定アル所以ナリ、要ハ組合員カ親密ナル一團體ヲ形成シ得ヘキ範圍ニ在ルヘシ、特ニ其組織カ無限責任又ハ保證責任ナル場合ニ於テ一層此事ノ切ナルヲ覺ウルナリ、獨逸ニ於テライフアイゼン氏式信用組合カ一時自然ニ其ノ區域ヲ擴張シタリシモ、幾何モナラスシテ遂ニ數多ノ小組合ニ分レテ適當ノ區域ニ復セシカ如キ味フヘキノ好實例ナラン

(乙)

理事及監事ノ員數

(乙)掲クルヲ必要トスル事項(第九條ノ事項ト共ニ必ス掲ケサルヘカラス)

十四、理事及監事ノ員數

法律ハ別ニ何等ノ規定ヲナサスト雖、此員數ヲ定メオクコトノ必要ハ固ヨリ多言ヲ要セサルヘシ

設立當時ノ理事及

十五、設立當時ノ理事及監事ノ就任ニ關スルコト

監事ノ就任ニ關スルコト

理事及監事ハ總會ニ於テ組合員中ヨリ之ヲ選任セサルヘカラス（法第二十五條第二項ノ本文）、サレハ其選任ニ付テハ必ス先ツ總會ノ開設アルヲ必要トス、而シテ此種ノ總會ノ招集ヲ爲ス者ハ必ス理事ナラサルヘカラス（法第三十二條ニ準用シタル民法第六十條及第六十一條第一項、法第三十四條ニ準用シタル民法第五十九條第四號、法第二十三條參照）、即チ理事ナクンハ總會ノ開設ヲ爲スヲ得ス、故ニ設立當時ニ於テ之カ選任ヲ爲スノ道ナシ、サレハ設立當時ニ在リテハ總會以外ニ適當ナル方法アルコトヲ要ス、法第二十五條第二項ハ一條ノ活路ヲ開テ曰ク「但シ組合設立ノ當時ノ理事及監事ハ定欵ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得」ト、即チ此規定ニ從ヒ最初ノ理事及監事（監事ハ組合設立後總會ニ於テ選任スルモ或ハ妨ナシト雖、理事ト同時ニ定メオク方便宜ナリ）ヲ定ムルヲ得ヘキナリ、而シテ此「定ムルコト」ハ人名ヲ記載スルコトヲ意味ス

組合財産ニ對スル組合員ノ權利ニ關スルコト

十六、組合財産ニ對スル組合員ノ權利ニ關スルコト

組合財産ニ對スル組合員ノ權利トハ組合員ノ「持分」ノ義ナリ、而シテ持分ノ集合ハ組合財産ヲ構成ス、持分ハ之ヲ如何ニ定ムヘキヤハ法律ノ何等命スルトコロ

考案

ナシ、而シテ何故必ス之ヲ定欵中ニ定メサルヘカラサルヤト云フニ、若シ之ニシテ漠然タランカ組合員ハ組合員タル爲ニ幾何貯蓄（組合財産ハ組合員ノ貯蓄ニ外ナラス）ヲ爲シ得タルヤヲ知リ得ヘカラサルノミナラス持分ニ對スル配當ノ場合、脱退組合員ニ其持分ノ全部又ハ一部ヲ拂戻ス場合、持分讓渡ノ場合、組合解散ニ際シ財産分配ノ場合等ニ於テ何トモ手ヲ下スノ道ナケレハナリ

前述ノ如ク組合財産ニ對スル各組合員ノ持分ヲ集合シタルモノハ組合財産ナリ、然リ而シテ如何ニ之ヲ定ムヘキヤノ考案ハ、實ニ輕易ナラサル問題ナリ、何トナレハ組合員ハ此規定ノ如何ニ因リテ公平ニ或ハ不公平ニ組合設立ノ利益ニ與カルヘケレハナリ

此權利ヲ定ムル標準自ラ種々アルヘシ、要ハ組合員カ組合ノ隆盛ニ資スル程度ニ依リ權利ノ程度ヲ定メ公平ヲ失セサルニ在リ、其案トシテハ未拂込出資ニ相當スル組合財産ニ對シテハ、固ヨリ未拂込出資ニ應セシメ、其他ノ財産ニ對シテハ、事業隆盛ニ赴ク直接ノ基礎ハ拂込濟出資額ナルカ故ニ、拂込濟出資額ニ應セシムルコトハ甚タ穩當ナル見解ナリトス、且ツ組合事業ノ種類ニ依リテハ猶ホ

論スヘキ點アリ、タトヘハ販賣組合ニ於テハ物品ヲ多ク組合ニ差出シタル者ハ組合ニ多クノ利益ヲ與ヘ、購買組合ニ在リテハ組合ヨリ多ク物品ヲ買ヒタル者ハ組合ニ多クノ利益ヲ與フルコトハ殆ント自明ノコトナレハ、是等特別ノ場合ニ於テハ組合財産ノ一部ニ付キテハ販賣或ハ購買物品ノ代價等ニ應シテ權利ヲ得セシムル方、奬勵トモナリ、又適當ノ處置ナルヘシ(事業ノ如何ニ付テハ第四章乃至第八章及本章十一「事業ノ執行ニ關スル規定」ヲ參考セラルヘク、猶ホ第十一章中「持分臺帳」ヲ對照セラレヨ)

二三ノ注意

茲ニ注意スヘキハ例ヘハ拂込濟出資ニ應シ權利ヲ有セシムル規定アリテ組合財産增殖セル場合ニ於テハ、新加入者ハ相當加入金ヲ出スニアラサレハ持分ノ計算、公平ナルヲ得サルヘシ、サレハ加入金ヲ出サシムルコトハ事情可ナラサル組合ニ在リテハ、加入前ノ組合財産ニ對シテハ新加入者ハ權利ヲ有セサルコトヽシ、加入金ハ之ヲ徵セサルコトヽ爲ス法モアルヘシ

上述ノ如ク組合員ハ組合財産ニ付キ各權利ヲ有スルヲ得ト雖、其權利ナルモノハ單ニ組合財産ニ對スル意識上ノ分割ニ過キスシテ勝手ニ其ノ拂戻ヲ請求スルコトヲ得サルハ勿論、又其處分ニ付キ勝手ニ苦情ヲ申出スヲ得サルコト言ヲ俟タス、何トナレハ法律上組合員ノ財産ニアラスシテ組合ノ財産ナレハナリ、此權利即チ持分ニ關シ注意スヘキ事項左ノ如シ

(一)持分ハ脫退ノ場合ノ外拂戻ノ請求ヲ爲スヲ得サルコト(定欵ニ全部又ハ一部ノ拂戻ヲ爲スコトヲ規定セル場合ニ於テ)(法第四十五條)

(二)持分ハ組合ノ承諾ヲ經スシテ之ヲ讓渡スヲ得サルコト(法第十九條)

(三)持分ノ全部又ハ一部ニ對シテ定欵ノ規定ニ依リ年六分以內ニ於ケル利益ノ配當又ハ分配ヲ受クルコトヲ得(規則第十一條)

(四)組合解散ノ場合ニ於テ之ヲ受取ルコトヲ得

總會招集ノ方法

十七、總會招集ノ方法

法第三十八條ニ準用シタル民法第六十二條ニ曰ク「總會ノ招集ハ少クトモ五日前ニ其會議ノ目的タル事項ヲ示シ定欵ニ定メタル方法ニ從ヒテ之ヲ爲スコトヲ要ス」ト、サレハ此方法ハ必ス定欵ニ記載シ置クノ必要アリ、此ノ事ハ一見重大ナラサルカ如シト雖、抑モ總會ハ、組合ノ意思ヲ定ムル機關ナルカ故ニ組合員ハ

各其ノ意見ノアル所ヲ提出スルヲ要ス、然ルニ若シ其ノ招集方法ニシテ豫シメ定マリ居ラサルトキハ或ハ誤脱ノ恐アリ或ハ奸惡ノ徒ノ乘スルカ如キ弊ヲ釀ス等ノコトナキヲ保セス、是其ノ必要アル所以ニシテ、例ヘハ書面ヲ以テ一々ニ通知スル等ノ規定アルヘキナリ

除名事由

十八、除名ノ事由

除名(本章中「脫退」ノ部參照)ハ法定ノ脫退事由ニシテ總會ニ於テ之ヲ決スヘキコトハ法第五十二條ノ命スル所タリ、今此事由ヲ案スルニ組合ノ精神ニ戻リタル場合ヲ意味スヘキヤ當然ナリ、サレハ組合事業ノ種類ニ從ヒ自ラ種々細目ノ事由アルヘシト雖、之ヲ總括シテ考フレハ(一)組合ニ對スル義務ヲ履行セサルトキ(二)組合ノ事業ニ妨害ヲ加ヘタルトキ(三)組合員タル信用ヲ失ヒタルトキノ規定ヲ設クレハ可ナラン、當事者宜シク組合ノ事業ニ鑑ミ其ノ地方ノ狀況ニ照シ細目ニ注意シ情實ヲ去リテ嚴格ナル規定ヲ設ケラレヨ、但シ此事ハ總會ノ決議ヲ經ヘキカ故ニ余リ細目ニ亘リテ、規定スルヲ要セサルヘシ

(丙)掲クルヲ可トシ又ハ妨ケサル事項

組合ノ區域

十九、組合ノ區域

信用組合ニ於テハ法律ノ命スル所ニ依リ必ス之ヲ定欵中ニ記載スルヲ要ストイヘトモ、其他ノ組合ニ於テハ此規定ヲ欠クトモ違法ニハアラス、サリナカラ苟シクモ組合アル以上ハ之ニ加入スヘキ組合員ニ關シ考ヘ及ハサルヘカラス、而シテ組合員カ若シ隔リタル各地ニ散在スルカ如キ場合ニ於テハ組合ハ少ナカラサル不便ヲ感スヘク、又組合事業ノ種類ニ依リテハ必スヤ團欒セル組合員ノ存在ヲ必要トス、故ニ種々ノ事情ニ依リ廣狹一ナラストスルモ而カモ自ラ其區域ハ定マルヘキナリ、余輩ハ寧ロ常ニ區域ノ規定ノ設ケラルヽコトヲ望ムモノナリ

出資ニ關スル記載ニ付取纏ムベキ期日

二十、拂込ミタル出資金額及其ノ拂込ノ年月日ノ記載ニ付取纏ムヘキ期日

出資ノ拂込アリタルトキハ、其都度之カ記載ヲ爲スコトヲ原則トスレトモ、小額宛頻頻ニ拂込ム場合ニ於テ、其都度之ヲ爲スコトハ、其煩ニ堪エサルヘシ、是レ法第十五條第三項但書ノ設ケラレタル所以ニシテ、定欵ニ取纏ムヘキ期日ヲ規定シテ、一回又ハ數回ニ記載スルヲ得ルナリ、但シ事業年度ヲ跨リテ取纏ムルヲ得

ス

此ノ規定ヲ設クルコトハ實際大ニ便宜ナルヘシ、或ハ一歩ヲ進メテ全ク記載ヲ省カントノ説モアレトモ立法論ニ亘ルヲ以テ之ヲ略ス

出資口數ノ制限

二十一、出資口數ノ制限

組合員ノ有マヘキ出資口數ニ制限ヲ設ケタル（法第十七條）主旨ハ、大資本ノ跋扈ヲ防カントスルニ外ナラス、サレハ此主旨ヲ推延シテ法律ニ「十口ヲ超ユルコトヲ得ス」トアル範圍内ニ於テ、或ハ八口以下或ハ六口以下等ト豫メ契約シテ定款ニ記載スルヲ妨ケス、而レトモ十口以下ナラハ別段ノ弊害モ起ラサルヘキヲ以テ、普通ノ場合ニ於テ特ニ規定ヲ設クルノ必要ナカルヘシ

組合員カ總會招集ノ請求ヲ爲ス權利ニ關スル制限

二十二、組合員カ總會招集ノ請求ヲ爲ス權利ニ關スル制限

法第二十三條ニ組合員ハ總組合員五分ノ一以上ノ同意ヲ得テ總會ノ招集ヲ理事ニ請求スルコトヲ得ル旨ノ規定アリ、是レ役員ニ不都合ノ所爲アルトカ又事業上總會ノ協議ヲ要スルカ如キ場合ニ於テ、組合員ノ權利ヲ保護スルノ精神ニ出テタルモノナリ、即チ權利保護ノ規定ナルカ故ニ多少權利ヲ擴張スルコトヲ妨ケス、法律ハ五分ノ一以上ナル標準ヲ示セトモ定款ヲ以テ六分ノ一以上又ハ七分ノ一以上等ノ規定ヲ定款ニ掲クルヲ得ヘシ、而レトモ權利ヲ餘リ擴張シ過キテ、一人二人ニテモ此請求ヲ爲シ得ルニ至ラハ餘リニ不穩當ナルヲ免レス、故ニ相當ノ程度ニ於テ之カ規定ヲ爲スヘシ、而シテ四分ノ一以上又ハ三分ノ一以上等トナスコトハ組合員ノ權利ヲ縮小スルモノナルヲ以テ、權利保護ノ本旨ニ矛盾シ違法ノ規定トナルヘキナリ、而レトモ此事ハ特別ノ規定ヲ爲サストモ法律ノ定ムル所ヲ以テ十分ナリト思ハルヽナリ

理事及監事ノ任期

二十三、理事及監事ノ任期

普通ノ場合ニ於ケル任期

法律ハ定款ニ特別ノ規定ナキ限ハ理事ノ任期ハ三箇年トシ監事ノ任期ハ一箇年トスル旨ヲ規定セリ（法第二十六條）タトヘ定款ニテ四箇年二箇年ト定ムルヲ得ト雖三箇年一箇年ハ普通最モ適當ナル期限ナルヘシ、サレハ特別ノ事由ナキ限ハ法律ノ規定ニ從フヲ可トス、此任期ニ關シ考フヘキコトハ理事ハ事業經營ノ實務ニ當ル者ナルヲ以テ熟練ノ必要アリ從テ多少長キヲ可トシ、監事ハ其任期長ケレハ種々ノ情實ヲ生シテ監査ノ任務ヲ完フスル能ハサル恐アリ從テ多

設立當時ノ任期

少短カキテ可トス

茲ニ注意スヘキコトハ設立當時ニ於ケル任期是ナリ、組合ノ最初ノ年度ハ一箇年ニ滿タサルヲ普通トスルカ故ニ、設立當時ニ於テモ三箇年一箇年等ノ任期ヲ適用ストスレハ、常ニ臨時總會ヲ開キテ改選ノ議決ヲ爲サヽルヘカラサル煩雜ヲ生スルニ至ルヘシ、サレハ最初ノ役員ニ付テハ特例ヲ開キ、或ハ第一回通常總會ニ於テ改選スルトカ或ハ特ニ最初ノ年度ヲ加ヘテ任期トスルトカノ規定ヲ設クルヲ要ス

補缺ノ場合

理事又ハ監事中死亡又ハ其他ノ事故ニ因リ退任シタルトキハ、改選期ニ際スル場合ヲ除キ、其ノ補缺選擧ヲ爲スカ或ハ補缺員ノマヽ改選期ヲ待ツカノ二途ニ出テサルヘカラス、而シテ補缺選擧ニ依リ就任シタル者ノ任期ハ如何ニスヘキヤハ一ノ問題タリ、要スルニ此場合ニ處スル規定トシテハ、前任者ノ任期ヲ繼承セシムルノ意ニ依ルヲ最モ便宜ノ方法ナリトス、何トナレハ、此規定ナクシテ普通ノ任期即チ三箇年一箇年等ニ依ルトキハ、單ニ此選擧ノミノ目的ノ爲ニ臨時總會ヲ招集セサルヘカラサル煩アレハナリ

特別ノ方法

任期ニ際シ特別ノ方法アリ、例ヘハ理事三名アリテ其ノ任期ハ各三箇年ナリトシ其就任ノ時皆相同シケレハ、任期滿了ニ際シ一時ニ總テ之ヲ改選セサルヘカラス、此場合ニ於テ悉ク新顔ノ者就任スルカ如キアラハ(普通ハ多數ハ再選セラルヽノ事實ナリトイヘトモ)、組合事業ノ繼續ニ圓滑ヲ欠クノ恐ナシトセス、サレハ此弊ヲ防カンニハ一名ノ理事ハ第一年度ニ、他ノ一名ハ其ノ次ノ年度、殘リノ一名ハ第三年度ニ改選スヘキモノトシ、順ヲ追テ此方法ヲ續クルトキハ、三名ノ理事中一名ハ新顔ナルモ他ノ一名ハ一箇年ノ經驗ヲ有シ、殘リノ一名ハ二箇年ノ經驗ヲ有スルコトヽナリ、大ニ好都合ナルヘシ、但シ實際ニ於テハ再選セラルルコト多キカ故ニ、斯ノ如ク複雜ナル規定ヲ設クル程ノ必要モナカルヘシ

決議ノ條件

二十四、理事及監事ノ選任及解任、定款ノ變更、除名解散及合併ニ關スル總會

特別ノ總會

及其他ノ總會ニ於ケル決議ノ條件

理事及監事ノ選任及解任(法第二十八條)、定款ノ變更(法第三十九條)除名(法第五十二條)、解散及合併(無限責任組合ニ在リテハ合併ヲ除ク)(法第六十二條)ノ決議ハ總組合員ノ半數以上出席シ其議決權ノ四分ノ三以上ヲ以テ決セサルヘカラス(法第

二十八條）此條件ハ定欵ニテ別ニ定ムルハ差支ナシト雖、要スルニ法律ノ通リニシテ差支ナカラン

普通ノ總會

普通ノ總會ニ於ケル決議ハ出席シタル組合員ノ議決權ノ過半數ヲ以テ之ヲ爲スヘシ（法第三十六條）、然レトモ單ニ「出席シタル組合員ノ過半數」トアルヲ以テ、出席者如何ニ少數ナルモ議決スルヲ得ヘキカ故ニ多少ノ弊害ナキヲ保セス、因テ此一般ノ總會ニ於テハ出席員數ニ最低限ヲ設クルノ必要ナキニアラス、且ツ議決權ハ代理人ヲ以テ行フヲ得ルヲ以テ、最低限ヲ二分ノ一、三分ノ一等ト規定シオクコトハ、不測ノ弊害ヲ防クヲ得ヘシ

特例

猶ホ再招集ノ場合ニ特例ヲ設クルノ方法モアリ、即チ一度招集シテ規定ノ條件ヲ充タス決議ヲナスコトヲ得サリシ場合ニ於テ、再招集ヲ爲ストキノ總會ニ於テハ、簡便ナル方法ニ依リ決スルヲ得ル旨ノ規定是ナリ

組合事務ノ決定ニ關スル條件

二十五、組合事務ノ決定ニ關スル條件

法第三十二條ニ準用シタル民法第五十二條第二項ニ曰ク「理事數人アル場合ニ於テ定欵又ハ寄附行爲ニ別段ノ定ナキトキハ法人ノ事務ハ理事ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス」ト、サレハ當事者ニシテ此決定ノ條件ニ重キヲオカント欲セハ理事員數ニ從ヒ五分ノ三又ハ三分ノ二等ト規定スルヲ妨ケス、然レトモ普通特ニ規定スルノ必要ナカルヘシ

理事カ特定ノ行爲ノ代理ヲ他人ニ委任スルコトニ關スル制限

二十六、理事カ特定ノ行爲ノ代理ヲ他人ニ委任スルコトニ關スル制限

法第三十二條ニ準用シタル民法第五十五條ニ依レハ、理事ハ定欵又ハ總會ノ決議ニ依リテ禁止セラレサル時ニ限リ特定ノ行爲ノ代理ヲ他人ニ委任スルコトヲ得ルナリ、然レトモ定欵ノ規定ニ依リ自ラ重要ナル事項ハ理事自ラ之ヲ爲サルヘカラサルコトヲナルカ故ニ、其他ニ亘リテ特ニ禁止スル程ノ必要ナキヲ普通トス

通常總會開會ノ度數及開期

二十七、通常總會開會ノ度數及開期

同上民法第六十條ニ依レハ通常總會開會ノ度數ハ毎年一回以上ナラサルヘカラス、即チ二回三回等ト定ムルヲ得ヘシト雖、元來總會ノ開會ハ多クノ手數ヲ要スルト共ニ少ナカラサル時間ヲ費ヤスヲ以テ、可成ハ其回數ヲ少クスルコトヲ要ス、余輩ハ一年一回ヲ以テ十分ナリト信ス、若シ其必要アル場合ニ於テハ臨時

開期

總會ヲ開ケハ可ナリ

通常總會ニ於テハ財産目錄、貸借對照表、事業報告書、剩餘金處分案等ヲ議セサルヘカラス（法第三十條）、而シテ是等ノ議事ハ必ス事業年度ノ始メニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス、何トナレハ是等ノ事項ニシテ決定セサレハ帳簿ヲ整頓スルニ由ナク、從テ次年度ノ事業ヲ開始スルヲ得サレハナリ、サレハ通常總會ノ開期ハ必ス事業年度ノ初メニ於テ規定セラルヘキナリ

此度數及開期ニ關スル規定ハ寧ロ必ス定款ニ掲クヘキ事項ニ屬ス

議決權ノ代理ニ關スル制限

二十八、議決權ノ代理ニ關スル制限

組合員ハ委任狀ニ依リ他ノ組合員ヲ代理人トシテ總會ニ於テ其ノ議決權ヲ行フヲ得ルコトハ、法第三十七條ノ認ムルトコロナリ、獨逸國産業組合法ノ如キハ此ノ代理ヲ許サルヽヲ原則トスレトモ、我カ法律ハ以上ノ如ク組合員ノ自由ヲ認メタリ、コレ實際反テ都合宜カルヘシ、然レハ若シ定款ニ何等ノ規定ナキ以上ハ、代理ハ無制限ニ行ハレ得ルナリ、然レトモ無制限ニ行ハルヽトキハ或ハ壓制ノ弊ヲ生シ反テ組合員ノ不利益ヲ釀ス恐ナシトセス、且ツ議決權ハ可成本人直ニ執行スルヲ要スルカ故ニ定款ニ於テ或ル制限ヲ設クルコトハ望マシキコトナリ、例ヘハ一組合員ノ代理スルヲ得ル議決權ノ數ハ五箇又ハ三箇ヲ超ユルコトヲ得サルノ類ナリ、又一歩ヲ進メテ全ク代理ヲ禁止スル旨ヲ規定スルコトモ差支ナシ、コレ法第三十七條ノ規定ニ依リ代理ヲ委ヌルト否トハ組合員ノ隨意ナルヲ以テ、豫シメ代理ヲ委ネサルコトヲ契約シ定款ニ掲ケオクコトハ、毫モ違法ノ處置ニアラサルカ故ナリ

總會ニ於ケル決議事項

二十九、總會ニ於ケル決議事項

法第三十八條ニ準用シタル民法第六十四條ハ、定款ニ別段ノ規定ヲ設クル以上ハ、豫メ通知ヲ爲シタル事項以外ニ亘リテモ決議ヲ爲スヲ得ルノ自由ヲ認メタリ、抑モ決議事項ヲ豫メ通知スルノ必要ハ專制不正ノ弊ヲ防カントスルニ在リ、而シテ是等ノ事項ハ固ヨリ招集當時ニ於テ定マリ居ルコトハ勿論ナリト雖、議事進行中其ノ事項ニ附帶シテ決議ノ必要アル事項ノ生スルヤモ計リ難シ、又或ル組合員ノ申出等ニ依リ卽時ニ決スルモ妨ナキ輕易ノ事項ナシトモ限ラス、サレハ是等特別ノ場合ニ處スル途ヲ開キオクコトハ實際ニ便益ナル次第モアル

ヘシ、然レトモ苟シクモ事ノ重要ナルモノニ關シテハ決シテ特別ノ規定ヲ設クヘカラサルナリ

事業年度ノ始終

三十、事業年度ノ始終

組合ノ事業年度ハ必ス一箇年ナルコトヲ要ス（法第四十七條）而シテ暦年ニ依ルヲ原則トス但シ特別ノ事由アルトキハ此限ニアラス（規則第六條）、サレハ若シ定欵ニ何等ノ規定ナキトキハ暦年ニ依ルモノト認メラルヽナリ、暦年ニ依ルコトハ官廳ニ於テ事業成績等ノ統計ヲ作成スルニ際シ甚タ便宜ナルモノナリ、然レトモ特別ノ事由例ヘハ事業ノ煩閑、金融ニ關スル時期地方ノ狀況等ニ依リ暦年ニ依ラサルヲ便宜トスル場合ナキニアラス、斯ノ如キ場合ニ於テハ固ヨリ當事者ノ自由ヲ許シ、例ヘハ四月ヨリ翌年三月ニ至ルトカ三月ヨリ翌年二月ニ至ルトカノ規定ヲ設クルヲ妨ケサルナリ、但シ徒ラニ奇ヲ好ンテ常態ヲ失セサランコトヲ要ス

隨意脱退者ノ豫告期間

三十一、隨意脱退者ノ豫告期間

法第五十條ハ定欵ヲ以テ事業年度終末前六箇月以上二箇年以下ノ範圍内ニ於テ、隨意脱退者ノ豫告期間ヲ定メ得ル旨ヲ規定セリ、抑モ脱退者カ何故ニ斯ル制限ヲ被ムラサルヘカラサルヤハ本章十「脱退」ノ部ニ於テ已ニ之ヲ述ヘタリ、即チ事業經營ノ混亂、組合ニ對スル妨害等ヲ防クニアルカ故ニ、長ケレハ長キタケ組合ニ取リテハ都合宜シカルヘシ、然レトモ餘リ長キコトハ組合ニ取リ左程有益ナラサルノミナラス組合員ノ自由ヲ束縛スルコト亦甚タ大ナリ

退脱者ニ對スル持分拂戻ニ關スル事項

三十二、脱退者ニ對スル持分拂戻ニ關スル事項

脱退者ニ拂戻スヘキ持分ハ、定欵ヲ以テ定メタル場合ニ於テハ脱退當時ノ組合財産ニ依リ算定スルヲ得ルナリ（法第五十四條）此事ハ任意ノ脱退者ニハ關係ナク唯法第五十一條ニ依ル法定ノ脱退者ニ對シ適用アルノミ、而シテ元來法五十四條ハ組合ヲ保護シタル規定ナレハ、其但書ハ組合ニ於テ經營上差支ナシト認ムル場合ニ付テノミ例外ヲ定ムルコトヲ法意ニ協ヘリト云フヘシ、即チ死亡者又ハ止ムヲ得スシテ他地方ヘ移住スル者等ニ對シテハ、面倒ニテモ直ニ持分ヲ計算シテ拂渡スカ如キ、或ハ拂込濟出資額ノミヲ拂戻ス除名者ノ如キニ對シテモ別ニ計算ノ面倒モナケレハ直ニ拂戻スコトヽスルモ可ナラン、而シテ規定ノ

方法ハ斯ク〳〵ノ者ニ對シテハ脱退當時ノ財産ニ依リ定ムル旨ヲ明ニスレハ可ナリ

脱退者ノ責任負擔ノ期間

三十三、脱退者ノ責任負擔ノ期間ノ延長ニ關スル契約

有限責任組合ニ在リテハ脱退者ハ當然組合ト關係ヲ絶ツヘシト雖、無限及保證責任組合ニ在リテハ大ニ趣ヲ異ニス、思フニ法律カ如何ニ組合ノ基礎ノ安固ヲ望ムヤ又如何ニ組合ト組合員、或ハ組合員相互ノ關係親密ナルヘキヲ望ムヤハ今茲ニ説クヲ要セス、事ノ實際ニ於テ組合ノ業務一時不振ヲ來スカ如キ場合ニ於テ、漠タル將來ノ損失ヲ見込ミ爭フテ脱退スルカ如キ者モアラン、又甚シキハ組合ニ妨害ヲ與ヘン意思ヲ以テスル者モアラン、要スルニ脱退ニ因リ起ル障害ニ對シテハ組合ハ十分ニ保護セラレスンハ、遂ニ爲ニ其ノ基礎ヲ危クスルニ至ルヘシ、ヨシ死亡禁治産等其他不可抗力ニ因リテ脱退スル者アルヘシト雖、組合ト組合員又ハ組合員相互ノ關係ハ極メテ親密ナルヘキカ故ニ、一旦組合員トナリタル者ハ十分ニ組合ノ進運ヲ希ヒ、タトヘ其身ハ脱退スルトモ相當ノ期間損失(勿論組合員タリシ時ニ於ケル損失)ヲ負擔スルコトハ理ニ於テモ情ニ於テモ

當ニ然ルヘキコトナリトス、法第五十八條ニ「其ノ脱退ヲ組合員名簿ニ記載シタル後二箇年間責任ヲ負擔ス」ト規定セルハ喜フヘキコトナリ、而シテ此期間ハ定欵ヲ以テ之ヲ延長スルコトヲ妨ケス、思フニ以上ノ論據ヨリ推ストキハ此期間ハ可成長キヲ可トスレトモ、而カモ脱退ノ爲ニ組合ノ基礎ヲ危クスル事情ハ而カク長ク續クモノニアラサルノミナラス、餘リ長ケレハ正當ナル脱退者亦甚タ迷惑ヲ被ムルカ如キコトナキヲ保セサルカ故ニ、二三ノ事業年度ヲ經過スレハ負擔ノ責任ヲ免レシメテ實際ニ差支ナカルヘシ

清算人ノ就任

三十四、清算人ノ就任

法第七十五條ニ準用シタル民法第七十四條ニ曰ク「法人カ解散シタルトキハ破産ノ場合ヲ除ク外理事其清算人ト爲ル但シ定欵若クハ寄附行爲ニ別段ノ定アルトキ又ハ總會ニ於テ他人ヲ選任シタルトキハ此限ニ在ラス」ト、サレハ定欵ヲ以テ豫シメ之カ選任ノ方法又ハ指定ノ規定ヲ爲スコトヲ得ルナリ、而シ何時ニテモ總會ニ於テ選任スルヲ得ルカ故ニ特ニ規定ノ必要ナカルヘシ

理事及監事ノ給料等

三十五、理事及監事ノ給料、報酬又ハ賞與

抑モ組合ノ効蹟ヲ擧クルト否トハ、役員其人ヲ得ルト否トニ關スルヤ大ナリ、而シテ産業組合ハ單ニ營利ノ目的ノミノ法人ニアラス半ハ公益ノ性質ヲ帶フルカ故ニ其ノ役員ハ名譽職タルヲ以テ原則トス、規則第五條ニ曰ク「理事及監事ハ定款ノ規定又ハ總會ノ決議ニ依ルニ非サレハ給料報酬又ハ賞與ヲ受クルコトヲ得ス」ト余輩ハ若シ出來得ヘクンハ信用アリ德望アル組合員カ其ノ地方ノ爲メ其ノ同胞ノ爲メ其ノ名譽ノ爲メニ、全然無報酬ヲ以テ盡力セラレンコトヲ望マサルヲ得ス、而シテ是レ實ニ其ノ人ノ無形ノ大財産タルヲ得ヘキナリ、而レトモ現今社會ノ狀態悉ク斯ノ如クナルヲ得サルカ故ニ地方ニ依リ場合ニ依リ金品ヲ贈與スルコトハ決シテ非難スヘキニアラス、或ハ常ニ組合ノ事務ニ從フ者ニハ相當ノ給料ヲ與フルモ可ナラン、要ハ是等ノ金品ヲ得ンカ爲ニ役員タラントスルカ如キ者ヲ排斥スヘキナリ

總代會ニ關スル事項

三十六、總代會ニ關スル事項

千五百人以上ノ組合員ヲ有スル組合ニ在リテハ、總代會ヲ以テ總會ニ代ユル旨、定款ヲ以テ之ヲ定メ得ヘシ（法第三十八條ノ二）元來總會ハ個人單位ヲ主義トスルコトハ、組合員ノ表決權ハ平等ナル一事ニ徵スルモ、能ク之ヲ察知スルヲ得ヘキカ故ニ、總代會ノ制度ハ總會ノ開設ニ非常ニ困難ヲ感スル止ムヲ得サル場合ノ救濟法タルニ過キサルヘク、千五百人以上ト定メタル法意モ此邊ニ存スルナルヘシ、而シテ之ニ關スル規定ハ之ヲ設置スル旨ノ規定ノ外ニ、總代ノ選任並ニ解任ノ方法、員數及任期ニ關スル規定アルヲ要ス（規則第四條ノ二）

定款ニ關スル二三ノ法意其ノ一

總代ハ固ヨリ組合員中ヨリ選任スヘキモノニシテ、總組合員ノ互選ヲ以テスル方法モアルヘシト雖、選出區域ヲ定メテ區域毎ニ互選スルノ法最モ普通ナルヘシ（此場合ニ於テハ組合員ノ表決權ハ平等ナル理由ニ鑑ミ、力メテ公平ニ區域ヲ定メサルヘカラス）

以上數千言余輩定款事項ニ關スル梗概ヲ説キ得タリト信ス

抑モ定款ハ法律ノ範圍内ニ於テ之ヲ定ムルコト勿論ナルカ故ニ、法律ニ規定アル事項ハ之ヲ一々掲クルノ必要ナシト雖、是等ノ事項中重要ナルモノハ便宜之ヲ掲ケオクトキハ、常ニ法規ヲ參照スルノ煩ヲ避ケ得ヘシ、況ンヤ定款ハ其日々ノ業務ニ忙シキ組合員カ日常座右ニ備フルモノナルカ故ニ、定款一部ヲ繙ケハ

自己ノ權義其他一般ノ事項ヲ了知セシムルノ便ヲ與ヘンコトハ、實際ノ必要上必ス慮ラサルヲ得サルナリ、例ヘハ出資ハ必ス一口以上ヲ有シ十口ヲ超ユルコトヲ得サルコトヤ、組合員ノ議決權ハ平等ナルコトヤ、是レ法律ノ當然トスルトコロナリト雖之ヲ掲ケオクトキハ實用上ノ利益少ナカラサルヘシ

其ノ二　書記其他ノ使用人等ヲ常置スルカ如キ場合ニ在リテハ其ノ給料ニ關スルコト等ト共ニ定款ニ之ヲ掲ケ置クヲ肝要トス

其ノ三　定款ニ掲クルニハ煩雜ナル細目ノ事項ハ別ニ之ヲ細則トシテ定ムヘキ旨ヲ定款ニ記載シオクコト肝要ナリ、此細則ハ主トシテ取扱手續ノ如キモノヲ云フ、總會又ハ理事等ニ於テ便宜定ムル旨ヲ記載スレハ可ナリ

其ノ四　組合長ヲ置キ或ハ役員會或ハ評議員ノ如キ理事ノ諮問機關等ヲ組立ツル規定ヲ設クルコトモ妨ケナシ、但シ監事ハ業務ノ執行ニ與ルヲ得ス

其ノ五　定款ニ記載スヘキ事項ハ以上ノ如シ、而シテ是等ノ事項ヲ如何ニ整理シテ定款ノ體裁ヲ組立ツヘキヤヤ多少ノ注意ヲ要スヘシ、模範定款ハ(一)總則(二)出資及準備金(三)組合ノ機關(四)事業ノ執行(五)剩餘金分配及損失分擔(塡補)(六)加入及脫退(七)組合ノ解散(八)附則ノ八章ニ分チ一切ノ事項ヲ網羅セリ、余輩思フニ適切ナリ

其ノ六　定款ニハ印紙ヲ貼用スルヲ要ス、非常特別稅ヲ合セ三錢ナリ

細則

細則ニハ凡ソ左ノ種類アルヘシ

一、事業執行細則
一、議事規則
一、會計規則
一、處務規程

第十一章　帳簿及書類

概念

帳簿ノ必要

商法第二十五條ニ曰ク「商人ハ帳簿ヲ備ヘ之ニ日々ノ取引其他財産ニ及ホスヘキ一切ノ事項ヲ整然且明瞭ニ記載スルコトヲ要ス但家事費用ハ一ケ月毎ニ其總額ヲ記載スルヲ以テ足ル、小賣ノ取引ハ現金賣ト掛賣トヲ分チ日々ノ賣上總額ノミヲ記載スルコトヲ得」ト、此規定ハ産業組合ニモ亦準用セラル（法第五條）思フニ産業組合ニ於テハ日常ノ取引一般商人ニ於ケル如ク煩雜ナラサルヲ通例トス、然レトモ「商賣ノ秘訣ハ嚴正ニ帳合ヲ爲シ汝ノ業務ノ現狀ヲ明カニスルニ在リ」トノ西洋商人間ノ諺ノ眞意ヲ解スルモノハ、産業組合ニ於ケル帳簿ノ關係決シテ輕忽ニスヘキモノニアラサルヲ悟ラン

貸借仕譯及勘定科目

抑モ帳簿ノ事ヲ論センニハ必ス先ツ貸借仕譯ノコト及勘定科目ノコトヲ知悉セサルヘカラス、尤モ帳簿ノ記入式ニハ單記式複記式ノ二種アリテ、單記式ハ在來ノ大福帳的記入ニ類シ一ノ取引ニ付キ一ノ記入ヲ爲スニ過キサルヲ以テ貸借仕譯ノ必要ナケレトモ、精密ナル帳簿ニハ必ス複記式ヲ用ユルカ故ニ茲ニ併

セ説クノ必要アリ）

貸借仕譯トハ交換即チ諸種ノ價値ヲ授受スルコト即チ取引ノ關係ヲ明カニスルコトニシテ、其ノ名ノ如ク價値ノ授受ヲ貸及借ヲ以テ表示スルノ謂ナリ、而シテ此表示ニ從フトキハ(一)交換ノ目的物ハ必ス其ノ所有權ヲ移轉スヘキコト(二)交換ノ場合ニ於テハ相互ノ價値必ス平均スヘキコトナル簿記上交換ノ原則ニ因リ、幾多ノ取引相重ナルモ貸借双方ノ金額ノ合計ハ常ニ相一致スルモノナリ、然ラハ貸借ハ如何ニ之ヲ定ムヘキヤト云フニ價値ヲ營業方ニ附與シタルモノハ貸主ナリ價値ヲ營業方ニ負ヒタルモノハ借主ナリナル原則ニ從フモノナリ、今之ヲ平易ニ云フトキハ渡シタルモノハ貸ニシテ、受ケタルモノハ借ナリ

勘定科目トハ諸勘定ニ付各別ノ結果ヲ知ランカ爲ニ特別ニ設定セル人名、財産及其ノ他ノ事項ニ關スル勘定ノ標題ヲ云フ、而シテ或ル記帳ニ用ユル勘定科目ハ始終一定スルヲ必要トスルヤ固ヨリ論ナシ、勘定科目ハ普通之ヲ大別シテ資産負債勘定及損益勘定ノ二トス、資産負債勘定ハ現在ノ權利義務ヲ表明シ、損益勘定ハ財産ノ增減ヲ表明ス、前者ニ屬スル科目ハ資本金、積立金、手形、金銀、債券、株券、不動産、商品、什器、人名、借入金、貸付金、預ケ金、預リ金等ノ如キモノ、後者ニ屬スル科目ハ損耗、手數料、利息、割引料、地代、借家倉敷料、缺損、營業費、雜費、雜收入等ノ如キモノヲ指ス、思フニ勘定科目ハ千種萬類之ヲ區別スルコト容易ナラスト雖、損費用、經常ト臨時、營業用ト家事用、普通用ト特種用ノ如キハ之ヲ區別スルコトヲ要スルコト普通ナリ

貸借仕譯ト勘定科目ト其ノ解略右ノ如シ、例ヘハ茲ニ千圓ノ資本ヲ以テ營業ヲ始メ、三十圓ノ什器ヲ購入シ、購入ノ使者ニ賃錢トシテ一圓ヲ支拂ヒタリトセハ、此場合ニ於ケル記帳ノ方法ハ常ニ左ノ如クナルヘシ

勘定科目

借方	勘定科目	貸方
現金 1,000.000	資本金	1,000.000
什器 30.000	現金	30.000
賃錢 1.000	現金	1.000

帳簿

以上説キタルトコロニ依リ貸借仕譯及勘定科目ヲ明カニシテ始メテ帳簿ノ何タルヲ説クヲ得ヘシ、帳簿ハ其ノ効用上主簿及補助簿ノ二種ニ別ツヲ得ヘシ、前

者ハ全般ノ會計ヲ總括明示スルモノニシテ、後者ハ前者記載ノ一部ニ付キ詳細ニ記錄スルモノナリ、通例日記仕譯帳、元帳ノ如キハ前者ニ屬シ賣買帳、仕入賣上帳ノ如キハ後者ニ屬ス

以上ハ帳簿ニ就テ特ニ言明セシニ過キサレトモ、其他諸種ノ表又ハ書類ノ必要アルコトハ固ヨリ言ヲ俟タス

書類

各種ノ帳簿及書類

思フニ産業組合ニ於テハ日常ノ取引決シテ一般商家ノ如ク煩忙ナラス、加フルニ理事者ノ多クハ特ニ簿記學ヲ學ヒタルニアラサルヘキカ故ニ、從テ帳簿等ノ如キ法規ニ抵觸セサル限リ、實用ヲ缺カサル限リ、可成簡單ナルコトヲ要ス、然レトモ帳簿不備ナラハ事業ノ正確得テ期スヘカラス、日進月歩ノ權利義務ノ念、人心ヲ滿シ來ルノ今日萬端遺漏ナキヲ期スルノ心懸ケ特ニ肝要ナリ

産業組合ニ於テ備フヘキ帳簿又ハ書類ニ付テハ法律ハ委細ニ之ヲ制定セス、故ニ組合當事者ハ勿論一般有志諸君各自ラ得タリトセラルヽトコロアルハ余輩ノ疑ヲ容レサルトコロナレトモ、余輩ハ余輩ノ適切ナリト信スル多少ノ事項ヲ言明セント欲ス(更ニ本章末ニ附セル「帳簿(附書類)例」ヲ參照セラレヨ

信用組合用

(イ)信用組合ニ特別ニ用ユヘキモノ(補助簿)

(一)貸付金臺帳

可成貸付ニ關スル一切ノ事項例ヘハ金額、使途、貸付年月日、返濟期限利子歩合、返濟額及利子、返濟年月日、組合員氏名、擔保等ノ諸欄ヲ設ケ此一帳簿ニ依リ貸付ヲ整理スルヲ望ム

(二)貯金臺帳

前者ト同シク金額、受入年月日、利子歩合、拂戻額及利子額、拂戻年月日、組合員氏名等ノ諸欄ヲ設クルヲ望ム

販賣組合用

(ロ)販賣組合ニ特ニ用ユヘキモノ(同上)

(一)加工販賣、又ハ販賣帳

物品受取、加工、賣却、代金支拂等ニ關スル欄ヲ設クルノ必要アリ、詳細ハ他組合ニ付キ類推セラレヨ

購買組合用

(ハ)購買組合ニ特ニ用ユヘキモノ(同上)

(一)物品購入賣却帳

生産組合用

(ニ)生産組合ニ特ニ用ユヘキモノ(同上)

一般組合用

(一)加工帳又ハ使用帳

(ホ)右ハ各種組合ニ付キ特ニ必要ナリト思惟セシ補助簿ノ種類ヲ概言セシニ止マル而シテ何レノ組合ニモ通シテ一般ニ必要ナル主簿(日記帳元帳持分臺帳)及其他ノ帳簿書類少シトセス、今之ヲ列記シテ其梗概ヲ説カン

組合員名簿

(一)組合員名簿(特立ノ帳簿)

組合員名簿ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ(法第十五條)

一、組合員ノ氏名住所

二、各組合員ノ出資口數

三、各組合員ノ拂込ミタル金額及其ノ拂込ノ年月日

四、出資各口ノ取得ノ年月日

五、保證責任組合ニ在リテハ各組合員ノ保證金額

就中三ノ如キハ特ニ常ニ變更スヘキモノナルカ故ニ相當餘白ヲ存スルノ必要アリ左ノ様式ニテハ如何

氏名住所				
出資各口ノ取得ノ年月日	何口	何號	何口	何號
	何年何月何日取得		年月日取得	
出資口數	何口		以下變更欄	
拂込ミタル金額及其ノ拂込年月日	年月日 何圓	以下變更欄		
保證金額	何圓	以下變更欄		丁數

氏名住所欄ニ職業ヲ附記スルヲ可トス

登記所ニ差出スヘキ組合員名簿ノ調製方(産業組合法登記取扱手續第五條第六條)左ノ如シ

厚紙ノ表紙ヲ附シ其表面ニ何々組合組合員名簿ト記載シ裏面ニ枚數ヲ記載シ理事(法第八十二條)及監事(法第八十一條)署名捺印スヘク、名簿用紙ニハ丁數ヲ記入シ且ツ毎葉ノ綴目ニ契印ヲ爲スヘシ、此署名捺印及契印ハ理事又

ハ監事カ多數ナルトキハ各一人ニテモ差支ナシ、而シテ組合員名簿カ二冊以上ナルトキハ各冊ノ表紙ニ其冊數ヲ記載スヘシ

日記帳

(二)日記帳(主簿)

萬般ノ出納事項ヲ日附ノ順序ニ從ヒ記入スルモノトス、即チ補助簿ニ記入セラレタルモノハ勿論其他一切ノ出納ヲ記入シ、從テ現金ノ殘高ヲ示スナリ、其樣式ハ左ノ如クシテ可ナラン

月	日	元帳口座	事	由	納	出	現在金	認印

元帳

(三)元帳(主簿)

各勘定科目ニ付經過及現狀ヲ知ル爲ニ、日記帳ヨリ類別謄寫スルナリ、故ニ勘定科目毎ニ見出シヲ附スルヲ便宜トス

月	日	事	由	納	出	差引

持分臺帳

(四)持分臺帳(主簿)

出資				

持分ハ剩餘金處分案等ニ關スル通常總會ノ決議アリタル後、始メテ事業年度末ニ於ケル其ノ額ヲ決定シ得ヘシ、而シテ持分ハ組合財産ニ對スル組合員ノ權利ナルカ故ニ、組合財産ヲ各組合員ノ權利ニ應シ按分ノ計算ヲ爲ストキハ直チニ之ヲ知ルヲ得ヘシ、例ヘハ此權利ハ拂込濟出資額ニ應スルモノトシテ某ナル組合員ノ持分ヲ計算スルニハ

組合財産

總組合員ノ拂込濟出資總額　×某ノ拂込濟出資額＝某ノ持分

ナル算式ニ從ヘハ可ナリ、組合財産ノ一部ニ對スル權利ノ標準異ナル場合ニ於テモ之ヨリ類推スルヲ得ヘシ、例ヘハ購買組合ニ於テ特別積立金ニ付テハ購買物品ノ價額ニ應シ、其他ノ組合財産ニ於テハ拂込濟出資額ニ應シ

權利ヲ有スルトセバ、某ナル組合員ノ持分ハ

$$\frac{\text{組合總財産}-\text{特別積立金}}{\text{總組合員ノ拂込濟出資總額}}\times\text{某ノ購買額}+\text{特別積立金}\times\frac{\text{某ノ拂込濟出資額}}{\text{總組合員ノ購買總額}}$$

ナル算式ニ從ヘハ可ナリ

而シテ組合財産ハ之ヲ金錢ヲ以テ區別スルトキハ

出資金

準備金

其他ノ積立金又ハ繰越金等

ニ過キサルヤ(借入金等ノ如ク償却ヲ要スルモノハ固ヨリ之ヲ加ヘス)明カナルカ故ニ持分臺帳ハ左ノ樣式ニ依ル要件ヲ備フレハ不可ナシト信ス

事業年度末	何年度	何年度
組合財産 出資金	何圓	何圓
組合財産 準備金	何圓	何圓
組合財産 其他	何圓	何圓
組合財産 合計	何圓	何圓
組合員氏名	權利ノ標準額	權利ノ標準額
	持分額	持分額
某	何圓又ハ何々	何圓
某		
某		
某		
某		
某		
某		
合計	何圓	何圓

組合員氏名欄ニ職業ヲ附記スルヲ可トス

權利ノ標準數種アル場合ニハ之ニ應スル欄ヲ增加スレハ可ナリ

持分額合計欄ニ於ケル何圓ハ組合財産合計欄ニ於ケル何圓ト一致スヘシ